

2023年度
大学院スポーツ健康学研究科
講義概要 (シラバス)



法政大学

科目一覽

【発行日：2023/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室

修士課程授業科目/Master's Course_基礎科目/Basic courses 【S5010】 研究デザイン・フィロソフィー [永木 耕介、泉 重樹、伊藤 真紀、井上 尊寛、小田 佳子、越智 英輔、苅部 俊二、木下 訓光、島本 好平、瀬戸 宏明、高見 京太、中澤 史、NEMES ROLAND JANOS、吉田 政幸、平野 裕一] 春学期授業/Spring	1
修士課程授業科目/Master's Course_基礎科目/Basic courses 【S5020】 スポーツ健康学特論 I (心身科学) [島本 好平、中澤 史] 春学期授業/Spring	3
修士課程授業科目/Master's Course_基礎科目/Basic courses 【S5030】 スポーツ健康学特論 II (自然科学) [木下 訓光、瀬戸 宏明] 春学期授業/Spring	5
修士課程授業科目/Master's Course_基礎科目/Basic courses 【S5040】 スポーツ健康学特論 III (人文社会科学) [伊藤 真紀、山本 浩、望月 拓実] 秋学期授業/Fall	7
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) /Advanced courses(health promotion program) 【S6010】 公衆衛生学特論 [鬼頭 英明] 秋学期授業/Fall	8
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) /Advanced courses(health promotion program) 【S6020】 健康体力学特論 [越智 英輔] 秋学期授業/Fall	9
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) /Advanced courses(health promotion program) 【S6030】 健康心理学特論 [島本 好平] 秋学期授業/Fall	10
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) /Advanced courses(health promotion program) 【S6040】 スポーツ栄養学特論 [小清水 孝子] 秋学期授業/Fall	11
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) /Advanced courses(health promotion program) 【S6060】 学校保健学特論 [鬼頭 英明] 春学期授業/Spring	12
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) /Advanced courses(health promotion program) 【S6070】 体力・機能測定評価演習 [高見 京太] 秋学期授業/Fall	13
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) /Advanced courses(health promotion program) 【S6080】 運動疫学演習 [笹井 浩行] 春学期授業/Spring	14
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツマネジメント科目群) /Advanced courses(sport management program) 【S6090】 スポーツマネジメント特論 [吉田 政幸] 春学期授業/Spring	15
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) /Advanced courses(health promotion program) 【S6100】 運動器疾患特論予防と対処特論 [昇 寛] 秋学期授業/Fall	17
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツマネジメント科目群) /Advanced courses(sport management program) 【S7020】 スポーツ産業学特論 [井上 尊寛] 春学期授業/Spring	18
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツマネジメント科目群) /Advanced courses(sport management program) 【S7030】 スポーツ健康政策学特論 [海老島 均] 秋学期授業/Fall	19
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツマネジメント科目群) /Advanced courses(sport management program) 【S7040】 スポーツジャーナリズム特論 [山本 浩] 秋学期授業/Fall	20
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツマネジメント科目群) /Advanced courses(sport management program) 【S7050】 スポーツメディア特論 [赤堀 宏幸、小池 隆俊] 春学期授業/Spring	22
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツマネジメント科目群) /Advanced courses(sport management program) 【S7070】 スポーツ消費者行動特論 [吉田 政幸] 秋学期授業/Fall	23
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツマネジメント科目群) /Advanced courses(sport management program) 【S7080】 スポーツフィールドスタディー演習 [伊藤 真紀] 春学期授業/Spring	25
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツマネジメント科目群) /Advanced courses(sport management program) 【S7090】 スポーツマーケティングリサーチ演習 [井上 尊寛] 秋学期授業/Fall	26
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツマネジメント科目群) /Advanced courses(sport management program) 【S7100】 スポーツ組織構造特論 [伊藤 真紀] 秋学期授業/Fall	27
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8010】 スポーツコーチング学特論 [苅部 俊二] 秋学期授業/Fall	28

修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8020】 スポーツ運動学特論 [平野 裕一] 春学期授業/Spring	29
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8030】 スポーツバイオメカニクス特論 [平野 裕一] 秋学期授業/Fall.....	30
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8040】 スポーツトレーニング学特論 [NEMES ROLAND JANOS] 秋学期授業/Fall	31
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8050】 発育発達学特論 [高見 京太] 秋学期授業/Fall	32
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8060】 スポーツ教育学特論 [永木 耕介] 秋学期授業/Fall.....	33
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8070】 スポーツメンタルトレーニング演習 [中澤 史] 秋学期授業/Fall	34
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8090】 アスレティックトレーニング特別演習 [泉 重樹] 春学期授業/Spring	36
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9012】 スポーツ健康学演習Ⅰ [泉 重樹] 春学期授業/Spring	37
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9013】 スポーツ健康学演習Ⅰ [伊藤 真紀] 春学期授業/Spring	38
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9014】 スポーツ健康学演習Ⅰ [井上 尊寛] 春学期授業/Spring	39
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9017】 スポーツ健康学演習Ⅰ [鬼頭 英明] 春学期授業/Spring	40
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9027】 スポーツ健康学演習Ⅰ [山本 浩] 春学期授業/Spring	41
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9112】 スポーツ健康学演習Ⅱ [泉 重樹] 秋学期授業/Fall.....	42
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9113】 スポーツ健康学演習Ⅱ [伊藤 真紀] 秋学期授業/Fall	43
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9114】 スポーツ健康学演習Ⅱ [井上 尊寛] 秋学期授業/Fall	44
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9117】 スポーツ健康学演習Ⅱ [鬼頭 英明] 秋学期授業/Fall	45
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9127】 スポーツ健康学演習Ⅱ [山本 浩] 秋学期授業/Fall.....	46
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9211】 スポーツ健康学演習Ⅲ [昇 寛] 春学期授業/Spring	47
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9214】 スポーツ健康学演習Ⅲ [井上 尊寛] 春学期授業/Spring	48
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9215】 スポーツ健康学演習Ⅲ [越智 英輔] 春学期授業/Spring	49
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9216】 スポーツ健康学演習Ⅲ [苅部 俊二] 春学期授業/Spring	50
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9218】 スポーツ健康学演習Ⅲ [木下 訓光] 春学期授業/Spring	51
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9222】 スポーツ健康学演習Ⅲ [永木 耕介] 春学期授業/Spring	52
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9225】 スポーツ健康学演習Ⅲ [林 容市] 春学期授業/Spring	53
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9226】 スポーツ健康学演習Ⅲ [平野 裕一] 春学期授業/Spring	54
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9227】 スポーツ健康学演習Ⅲ [山本 浩] 春学期授業/Spring	55
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9311】 スポーツ健康学演習Ⅳ [昇 寛] 秋学期授業/Fall	56
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9314】 スポーツ健康学演習Ⅳ [井上 尊寛] 秋学期授業/Fall	57

修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9315】 スポーツ健康学演習Ⅳ [越智 英輔] 秋学期授業/Fall	58
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9316】 スポーツ健康学演習Ⅳ [荻部 俊二] 秋学期授業/Fall	59
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9318】 スポーツ健康学演習Ⅳ [木下 訓光] 秋学期授業/Fall	60
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9322】 スポーツ健康学演習Ⅳ [永木 耕介] 秋学期授業/Fall	61
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9325】 スポーツ健康学演習Ⅳ [林 容市] 秋学期授業/Fall	62
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9326】 スポーツ健康学演習Ⅳ [平野 裕一] 秋学期授業/Fall	64
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9327】 スポーツ健康学演習Ⅳ [山本 浩] 秋学期授業/Fall	65
博士後期課程授業科目/Doctor's course_専門科目/Specialized courses 【S9501】 スポーツ健康学高度開発特論 A (ヘルス領域) [泉 重樹、越智 英輔、鬼頭 英明] 秋学期授業/Fall	66
博士後期課程授業科目/Doctor's course_専門科目/Specialized courses 【S9502】 スポーツ健康学高度開発特論 B (マネジメント領域) [伊藤 真紀、吉田 政幸] 春学期授業/Spring	67
博士後期課程授業科目/Doctor's course_専門科目/Specialized courses 【S9503】 スポーツ健康学高度開発特論 C (コーチング領域) [永木 耕介、中澤 史、林 容市、平野 裕一] 春学期授業/Spring	68
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9603】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ [越智 英輔] 春学期授業/Spring	69
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9604】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ [鬼頭 英明] 春学期授業/Spring	70
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9605】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ [平野 裕一] 春学期授業/Spring	71
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9623】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅱ [越智 英輔] 秋学期授業/Fall	72
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9624】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅱ [鬼頭 英明] 秋学期授業/Fall	73
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9625】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅱ [平野 裕一] 秋学期授業/Fall	74
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9645】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅲ [越智 英輔] 春学期授業/Spring	75
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9646】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅲ [島本 好平] 春学期授業/Spring	76
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9647】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅲ [中澤 史] 春学期授業/Spring	77
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9648】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅲ [林 容市] 春学期授業/Spring	78
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9665】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅳ [越智 英輔] 秋学期授業/Fall	79
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9666】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅳ [島本 好平] 秋学期授業/Fall	80
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9667】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅳ [中澤 史] 秋学期授業/Fall	81
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9668】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅳ [林 容市] 秋学期授業/Fall	82
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9672】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅴ [泉 重樹] 春学期授業/Spring	83
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9673】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅴ [林 容市] 春学期授業/Spring	84
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9674】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅴ [吉田 政幸] 春学期授業/Spring	85
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9682】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅵ [泉 重樹] 秋学期授業/Fall	86

博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9683】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅵ [林 容市] 秋学期授業/Fall.....	87
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9684】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅵ [吉田 政幸] 秋学期授業/Fall	88
博士後期課程授業科目/Doctor's course_演習科目/Seminar courses 【S9903】 スポーツ健康学高度開発演習（実践研 究／理論研究）[越智 英輔] 秋学期授業/Fall	89
博士後期課程授業科目/Doctor's course_演習科目/Seminar courses 【S9904】 スポーツ健康学高度開発演習（実践研 究／理論研究）[鬼頭 英明] 秋学期授業/Fall	90
博士後期課程授業科目/Doctor's course_演習科目/Seminar courses 【S9905】 スポーツ健康学高度開発演習（実践研 究／理論研究）[平野 裕一] 秋学期授業/Fall	91
博士後期課程授業科目/Doctor's course_演習科目/Seminar courses 【S9906】 スポーツ健康学高度開発演習（実践研 究／理論研究）[中澤 史] 秋学期授業/Fall.....	92

HSS50011

研究デザイン・フィロソフィー

永木 耕介、泉 重樹、伊藤 真紀、井上 尊寛、小田佳子、越智 英輔、苅部 俊二、木下 訓光、島本 好平、瀬戸 宏明、高見 京太、中澤 史、NEMES ROLAND JANOS、吉田 政幸、平野 裕一
 開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：月 3/Mon.3, 木 4/Thu.4 | キャンパス：多摩
 配当年次：1 年次
 備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学を研究するためには、倫理面をはじめとする基礎的で幅広い知識と技能、およびそれらを計画立てて使う方法を知ることが必要となる。そのため、本授業では、複数の専任教員が各々独自の視点から研究の在り方（フィロソフィー）と設計の仕方（デザイン）について解説し、受講者が質の高い研究を実施できるようにすることを目的とする。

【到達目標】

受講生が、スポーツ健康学を構成するヘルス系、コーチング系、マネジメント系の各領域における研究の在り方および計画の立て方を知り、自身の研究の基礎として役立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、スポーツ健康学研究科の複数の専任教員が担当する。各教員は自身の専門分野を切り口に、研究倫理面、研究に対する姿勢、問題設定、研究計画の立て方等々に関する講義を行い、ディスカッションやリアクションペーパーの状況に対して評価する（オムニバス方式・全14回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・スポーツ医学）	スポーツ健康学分野で研究を行う上で必須の研究倫理（含む利益相反）について理解する（木下訓光・1回）。 なお授業内であつた資料は下記【参考書】欄に記載したので授業前に確認しておくこと。
2 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・スポーツ心理学）	スポーツ健康学分野の特にスポーツ心理学に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、質的研究法の研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（中澤史・1回）
3 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・スポーツ医学）	研究倫理面をはじめスポーツ健康学分野の外科スポーツ医学に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する（瀬戸宏明・1回）。
4 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・リハビリテーション）	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・アスレティックトレーニング）スポーツ健康学分野の特にアスレティックトレーニングに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（泉重樹・1回）
5 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツマネジメント領域・スポーツ組織論）	スポーツ健康学分野の特にスポーツ組織論に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（伊藤真紀・1回）
6 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・体育原理・スポーツ哲学）	学校体育・スポーツ哲学分野に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（小田佳子・1回）

7 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・武道教育論）	武道教育論に関する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。修士論文作成のために必要となる研究デザイン、調査方法等について理解する（永木・1回）。
8 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・ライフスキルコーチング）	スポーツ健康学分野の特にライフスキルコーチングする研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、質的研究法の研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（島本好平・1回）
9 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・競技力向上）	スポーツ健康学分野の特に競技力向上に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（ネメシユ・ローランド・1回）
10 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツマネジメント領域・スポーツマーケティング）	スポーツ健康学分野の特にスポーツマーケティングに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる研究デザイン、調査、データの整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（井上尊寛・1回）
11 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・コーチング）	スポーツ健康学分野の特にコーチングに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（苅部俊二・1回）
12 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツマネジメント領域・スポーツマネジメント）	スポーツ健康学分野の特にスポーツマネジメントに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（吉田政幸・1回）
13 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・健康体力づくり）	スポーツ健康学分野の特に健康体力づくりに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、研究倫理、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（高見京太・1回）
14 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・健康科学）	スポーツ健康学分野の特に運動生理学に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（越智英輔・1回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて下調べを行う。授業時間外でレポート作成を要する場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はしない。講義内容との関連で、参考となる資料を配布していく。

【参考書】

その都度紹介する。

【第1回（担当：木下）】

・『ヘルシンキ宣言』（<https://www.med.or.jp/doctor/international/wma/helsinki.html>）

・『人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（2021 制定・2022 改正）』など国の機関が定めた一連の指針（<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/index.html>）

【成績評価の方法と基準】

各教員（各回）が、議論への参加やレポート等を総合的に評価して 0 点から 7 点で採点する（7 点×14 回＝98 点満点）。98 点を 100 点に補正して S～D の評価をする。

なお、2/3 以上の出席がない場合は評価の対象外とする（E 評価）。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き有意義な講義を行っていく。科目名にあるように、個々の教員の研究に対する哲学、研究に対する計画の立て方を中心に講義を行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用することがある。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

Our professors on Sports and Health studies alternately present the desirable situation and own history of the research including research ethics education.

【Learning Objectives】

Students understand and utilize the desirable situation and procedure of the research on each area in Sports and Health studies.

【Learning activities outside of classroom】

nothing special

【Grading Criteria/Policy】

Each professor evaluates the appropriateness in the classroom discussion and in the contents of reaction paper.

HSS50011

スポーツ健康学特論 I (心身科学)

島本 好平、中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学領域における心身科学分野の研究を紹介しながら、学術論文の読み方や執筆の仕方の基礎的技術について学習します。数量的および質的研究の理論や方法について体験的学習や文献講読などを通じて理解を深めます。

【到達目標】

心身科学分野の研究の視点を学習し、当該分野の文献を読み、理解する能力を養う。修士論文を執筆する上で必要となる基礎的技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業の前半では、体験的学習を通して研究遂行に必要な統計分析の基礎的技術について学びます。また、心身科学的現象を扱った研究をレビューし、それについて意見交換することによって当該分野の数量的・質的研究の基礎を学びます。

後半では、心身科学に関する研究を進めていく上での主要なツールである心理尺度を取り上げます。そして、その基本的な考え方や因子分析を通じた作成方法等を学びます。また、自身の研究テーマへの心理尺度の活用についても考えていきます。なお、授業で取り組むレポートやリアクションペーパー等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学習目標、単位認定基準、履修上の諸注意等を説明する。アイスブレイクにより受講生間の交流を深める。
【担当：中澤】	アイスブレイク	
第 2 回	描画法を用いたグループワーク	描画法を用いて自己理解を促進する。
【担当：中澤】	グループワーク	
第 3 回	自己理解の促進	グループワークにより自己理解・他者理解を深める。
【担当：中澤】		
第 4 回	身体活動による心理的変化の分析	体験的学習を通して収集したデータを用いて、身体活動による心理的影響について統計分析（t 検定）を試みる。
【担当：中澤】		
第 5 回	こころとは何か？	パーソナリティの観点から心について学び、自己理解を深める。
【担当：中澤】		
第 6 回	こころとパフォーマンスの関係	不安をキーワードとした文献をレビューし、こころと身体の関係について理解を深める。
【担当：中澤】		
第 7 回	アスリートを対象とした事例検討	メンタルサポートによるアスリートの心理的変化のあり様について学習する。
【担当：中澤】		
第 8 回	アクティビティー	自己理解・他者理解に関するアクティビティーを通じて、受講生間の交流をさらに深める。
【担当：島本】		

第 9 回 こころを評価する方法
【担当：島本】

心理尺度の基本的な考え方について理解を深める。

第 10 回 こころを評価する練習
【担当：島本】

既存の心理尺度を取り上げ、尺度の質問項目の作成方法について理解を深める。

第 11 回 こころを評価する項目
【担当：島本】

自らが興味・関心のある構成概念（イメージ）を取り上げ、それを評価するための項目の作成を試みる。

第 12 回 項目の採否を決める因子分析
【担当：島本】

因子分析の基本的な考え方について理解を深める。

第 13 回 心理尺度の活用
【担当：島本】

自身の研究テーマへの心理尺度の活用について考える。

第 14 回 アンケート調査の実際
【担当：島本】

アンケート調査を実施する際の手続きやノウハウについて理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。その具体的な取り組み内容は次の通りです。

1. 各自の研究テーマに関連する最新のトピックスに触れておくことが望ましい。

2. 指定した文献等がある場合には、事前に精読しておくようにしてください。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料・文献等を配布します。

【参考書】
必要に応じて資料・文献等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
前半・後半の担当教員ごとに評価し、その平均点を評価点数とします。前半部分（中澤担当部分）では、各授業時に提出されたレジュメ、リアクションペーパーおよび授業への参画状況を点数化して平均したものを前半部分の評価点数とします。

後半部分（島本担当部分）では、授業への参画状況やリアクションペーパー、各課題の提出状況等をもとに総合的に評価し点数化します。

【学生の意見等からの気づき】
多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）を準備してください。

【その他の重要事項】
1. 授業内容に関する説明等を実施するため初回授業から出席してください。

2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。

3. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
While introducing research in the field of psychosomatic science in the field of sports and health, you will learn the basic techniques of how to read and write academic treatises. Deepen your understanding of the theory and methods of quantitative and qualitative research through experiential learning and reading literature.

【Learning Objectives】
To learn the viewpoint of research in the field of psychosomatic science and to develop the ability to read and understand the literature in the field. Acquire the basic skills required to write a master's thesis.

【Learning activities outside of classroom】
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. The specific details of our efforts are as follows.

1. It is advisable to be in touch with the latest topics related to your research theme.
2. If you have any specified documents, please read them carefully in advance.

【Grading Criteria /Policy】

Evaluation is made for each instructor in charge of the first half and the second half, and the average score is used as the evaluation score. In the first half (the part in charge of Nakazawa), the resume, reaction paper, and participation status in the lesson submitted at the time of each lesson are scored and averaged to be the evaluation score for the first half. In the second half (the part in charge of Shimamoto), we will comprehensively evaluate and score based on the status of participation in classes, reaction papers, submission status of each assignment, etc.

HSS5001I

スポーツ健康学特論Ⅱ (自然科学)

木下 訓光、瀬戸 宏明

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学を学修するために必要な自然科学系知識とその基礎の習得、および論理的・批判的・科学的思考法の習得および自然科学領域における学術論文の読み方と執筆の基礎と技術を学ぶ。

【到達目標】

スポーツ健康学領域における自然科学的現象をめぐる最新の知見や事例を概観することにより、当該領域の動向について理解する。修士論文の執筆に必要な基礎的技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半はスポーツ医学領域の最新知見を理解するために必要となる理数科学的基礎と、スポーツ医学領域の基盤的研究テーマについて学習する。提示する参考書と文献を事前に精読し、この内容を確認しながら双方向性に講義・討議を行う。

後半はスポーツ医学領域の先端的知見・研究成果について学習する。基本的に①各回のテーマに関連する文献紹介・精読、②各回のテーマに関する講義、③症例提示の3部構成で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	生体を構成する物質 【担当：瀬戸】	生体を構成する基本的な元素、細胞構築などの微小構造、エネルギー代謝や細胞内信号応答に必要な膜構造などを学習する。 【keyword】 元素、細胞構築、組織、細胞膜
2 回	運動・身体活動の生化学 【担当：瀬戸】	スポーツ医学分野の重点事項であるエネルギー代謝、身体組成の基礎知識として生化学分野の基本事項を確認する。 【keyword】 糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸
3 回	運動・身体活動と物理量 【担当：瀬戸】	スポーツ医学研究に必要な物理量について、実験データを例示しながら単位系の概念も含めて学習する。 【keyword】 単位系、仕事、仕事率、エネルギー
4 回	医学研究で活用する基礎統計学 【担当：瀬戸】	スポーツ医学研究で取り扱うデータ・数値に関する統計学の基礎を学習する。 【keyword】 記述統計、カイ2乗検定、2群の差の検定、分散分析、統計学的検出力
5 回	運動と細胞内シグナル伝達 【担当：瀬戸】	運動に伴う刺激、ストレスによる細胞レベルでの応答について解説する。古典的な内分泌応答と細胞内シグナル伝達を担う伝達物質について学習する。 【keyword】 内分泌系、ホルモン受容体、ステロイド、神経内分泌学
6 回	運動と免疫系 【担当：瀬戸】	運動に伴う刺激、ストレスに伴う、生体防御システム（免疫系）の基礎的事項を学習する。 【keyword】 白血球、B細胞、T細胞、サイトカイン、炎症
7 回	運動介入と機能への影響 【担当：瀬戸】	運動習慣、運動療法の効果のトピックとして、運動介入（短期的・長期的）と機能への影響の関連性について基礎的事項を紹介する。 【keyword】 運動療法、変形性関節症、長寿

8 回	最大酸素摂取量とその活用 【担当：木下】	最大酸素摂取量の決定方法に関する生理学的課題について文献を紹介・精読する。 最大酸素摂取量の測定方法、特に近年普及の著しい breath by breath 法とその問題点について紹介する。 実際のアスリートの最大酸素摂取量を考察する。 【keyword】 最大酸素摂取量、ATP、ミトコンドリア、エネルギー基質、呼吸生理学
9 回	アスリートにおける生体エネルギー論の活用 【担当：木下】	mechanical efficiency や、誤解が多いためほとんど場合で正しく運用されていない高強度インターバルなどについて学び、トレーニングやパフォーマンスについての生体エネルギー論的考察を行う。 【keyword】 クリティカルパワー、乳酸閾値、酸素摂取動態
10 回	身体組成（体脂肪率）の医科学 【担当：木下】	体組成の基礎的概念、評価方法、その妥当性・信頼性、アスリートのコンディショニング・競技力向上および臨床への応用について学習する。 【keyword】 体脂肪率、コンポーネントモデル、DXA、BIA
11 回	エネルギー代謝とアスリートの減量 【担当：木下】	基礎代謝とエネルギーバランスの基礎について学習し、その評価方法、減量・リバウンドの機序などについて学習する。 【keyword】 基礎代謝、減量、energy availability、ヒューマン・カロリメーター、内分泌（ホルモン）
12 回	女性選手の三徴 【担当：木下】	女性選手の三徴（female athlete triad）の歴史、概念、実態、評価法、対処・治療法についてアスリートの摂食障害、骨粗鬆症などの実例を通して学ぶ。 【keyword】 Low energy availability、骨代謝、月経異常、低用量ビル
13 回	アスリートの臨床栄養学 【担当：木下】	サプリメント、low energy availability、within day energy balance など、アスリートの栄養とパフォーマンスを考えるうえで必要な最先端の理論と臨床（対処法・治療法）について学ぶ。 【keyword】 Low energy availability、within day energy balance、貧血、ergogenic aid
14 回	スポーツ心臓病学 【担当：木下】	スポーツ心臓とは何か、歴史・定義・臨床的意義：パフォーマンスとの関係などについて最新のエビデンスを踏まえて学習する。 【keyword】 心肥大、左室リモデリング、アスリート、突然死、スポーツ心臓、メディカルチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前半の授業（瀬戸担当部分）では、事前に提示する各分野の教科書及び文献を事前に参照して授業に臨むこと。
後半の授業（木下担当部分）においては、指定した文献がある場合には精読して授業に望むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

【前半の授業（瀬戸担当部分）】 シンプル生化学【改訂第6版】、監修：林典夫・廣野治子、南江堂、2014年
“Exercise Physiology (11th Edition)” Powers, S. F. and Howley, E. T. McGraw Hill, 2020.

その他は適時授業で提示する。

【後半の授業（木下担当部分）】 テーマが多岐にわたるため、課題達成に必要な参考書などは授業回ごとに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

前半・後半の担当教員ごとに独立して評定を行い、その平均点をもって評価点数とする。前半（瀬戸担当部分）においては、各授業後に学習課題を提示し次回までに毎回提出を義務づける。提出された課題に対するレポート内容をS～Dまで評定し、これを点数化して平均したものを前半（瀬戸担当部分）の点数とする。後半（木下担当部分）においては、以下の通りである。授業内で課題を課す場合がある。関連してレポート作成を求める場合がある。また授業内で試験を行う場合がある。試験を行う場合は筆記試験または口頭試験で行う。課題の達成度、レポートの内容、試験の結果などを総合評価して点数化し、後半（木下担当部分）の点数とする。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を検討すべき意見なし

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

後半の木下担当部分に関しては、2020年度までとは完全に授業内容を変更し、最先端の臨床スポーツ医学的テーマを扱ったうえで、「ここでしか学べないスポーツ医学」を提供する。履修者が数学や化学・物理学、生化学といった科学の基礎となる分野に関して一定の習得をしていることを前提に授業を行うので注意すること。

臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

各回の授業内容を継続的に積み重ねて学習していかなければ学修目標を習得することが不可能となるので、できるだけ欠席をしないこと。やむを得ず欠席をする場合には、欠席回における学習内容相応の課題を与える。

【Outline (in English)】

[Course outline] The lecture intends to provide basic and advanced knowledge of biomedical science and skills of reading and reviewing research papers of science and medicine in sports and exercise. The lecture should provide skills of writing a master's graduate thesis.

[Learning objectives] The goal of the lecture is to obtain the basic and advanced knowledge of biomedical science necessary for writing a master's thesis.

[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 10 hours. Students are strongly encouraged to visit the laboratory for consultation about their thesis frequently.

[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of the score of task and exercise assigned in each classroom (100%).

HSS500I1

スポーツ健康学特論Ⅲ (人文社会科学)

伊藤 真紀、山本 浩、望月 拓実

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、スポーツ健康学における人文社会科学諸分野の研究領域における研究の視点と方法論について解説を行う。本授業では、三名の専任教員が各々の専門分野に関する研究について解説し、受講者が質の高い研究を実施できるようにすることを目的とする。

【到達目標】

人文社会科学諸分野の研究論文を読み込み、スポーツ健康学における研究の在り方を理解し、必要な研究計画、データ収集、分析、考察、成果発表を行うことができる力を身に付けていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、スポーツ健康学における人文社会科学諸分野の研究の視点や方法論を理解するための講義を中心に進める。後半部では各教員は自身の専門分野を切り口に、実際に関連論文を読み込み、討論をおこなっていく。研究倫理面、研究に対する姿勢、問題設定、研究計画の立て方等々に関する講義を行い、ディスカッションやリアクションペーパーの状況に対して評価する（オムニバス方式・全14回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	人文社会科学の視点	スポーツビジネス現場の課題について理解する。 スポーツビジネス現場の実務担当者が持つ課題を特定し、その解決においてどのようなデータが必要とされているのか理解する。
2 回	研究の方法論①	社会調査の種類について理解する。 量的なアンケート調査と質的なインタビュー調査の特徴をそれぞれ理解し、調査の目的に応じて使い分けることができるようになる
3 回	研究の方法論②	スポーツ組織論に関連する研究と理論に関する知識と方法を理解する。 スポーツ組織論に関する研究論文を読み込む。
4 回	研究の方法論③ 質的インタビューの質問項目の作成	質的なインタビュー調査の種類について学ぶとともに、質問項目を帰納的アプローチから作成する方法を学習する。
5 回	研究の方法論④ 質的データの分析方法	質的データを分析するため、テキストデータの切片化、コーディング、カテゴリー化、類型化について学習し、実際に収集した質的データの分析を行う。
6 回	研究の周辺構造① コミュニケーション論	活字でもバーバルなやりとりでも、被験者から得られる情報は聞き手のコミュニケーション力に影響を受ける。 フレーズの作り方ひとつが、回答にどのような影響を及ぼすかを考えながら、その方法論を再検討する。
7 回	研究の構造② プレゼンテーション論	研究の過程で、複数回にわたるプレゼンテーションが待ち受ける。さまざまな機会に遭遇するスライドを使ったプレゼンテーションの方法論と考え方を身につける。
8 回	研究の構造③ メディアリテラシー	今日的なメディアリテラシーとは何か。デジタル情報化時代に人々のスポーツ観がどのような影響を受けているか、アイテムごとの特性を考察する。
9 回	研究の構造④ スポーツ組織構造論	身の回りにある様々なスポーツ組織は、社会の変化に対応して自らを作り変えている。研究対象となるさまざまなスポーツ組織の今を検証する。

10 回	研究の構造⑤ スポーツ現代史	2013 年のスポーツ基本法制定を境にして、日本のスポーツ界は政治との距離を縮めるに至った。戦後まもなく、強い自治の精神を保ったスポーツ界がどのように変容し、代わりに何を獲得したかを見る。
11 回	社会科学における研究構造の理解	実態調査研究の意味、レビュー研究の役割、仮説の設定方法を理解する。
12 回	研究の構造解説と実践①	実態調査、レビュー研究について、先行研究を元に解説したうえで簡易的なシステマチックレビューの実践を行う。
13 回	研究の構造解説と実践②	仮説が導出されるまでのプロセスについて先行研究を元に確認し、実際に仮説の設定を行う。
14 回	研究の構造解説と実践③	自ら設定した仮説の検証を実際の量的データを用いて行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習授業外の課題として質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の集計などが順番に出題される。これらに計画的に取り組む必要がある。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）。

【参考書】

その都度授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各教員（各回）が、議論への参加やレポート等を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、理論を基に履修者がより深く考えるように進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this class, we will explain the viewpoints and research methodologies in the research fields of social and human science in sports and health sciences. In this class, three full-time faculty members will explain about their research in their respective specialties so that students can carry out high-quality research.

[Learning Objectives] Students will read research papers in various fields of humanities and social sciences, understand the nature of research in sports and health, and acquire the ability to plan necessary research, collect data, analyze, discuss, and present results.

[Learning Activities Outside of Classroom] The assignments outside of the study class will include, in turn, the creation of questions, planning of the survey, conducting the survey, and tabulation of the results. It is necessary to tackle these tasks systematically.

[Grading Criteria/Policy] Each faculty member (each session) will evaluate participants by their attitudes in discussion and reports comprehensively.

SOM50011

公衆衛生学特論

鬼頭 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、ヒトが抱える健康課題について科学的根拠に基づく背景要因の理解を通して、課題解決の方策を探る力を身に付けられるようにすることである。

【到達目標】

集団の疾病及び健康の保持増進の方策について理解し、生涯を通じての健康的なライフスタイルの形成に役立てることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

「健康」、「保健統計」、「疾病とその予防」、「疫学」、「感染症」、「母子保健」「産業保健」「環境保健」について、歴史的経緯、マスメディアによってとりあげられる関連事項、実例や研究例を題材に取り上げ、興味・関心をもてるようにするとともに、講義だけでなく考え方や対処法等についてディスカッションにより掘り下げる。また、映像教材を積極的に活用する。なお、授業は対面授業を原則とし、課題に対する双方向の意見交換により進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	概論と歴史	公衆衛生学の歴史と学問領域の特性について概説
2 回	保健統計－人口統計－	保健統計のうち、人口ピラミッド、人口静態統計、人口動態統計及びデータの国際比較、国内の地域の実情、背景について概説
3 回	保健統計－死因統計－	死因統計とは何か、どのような意味をもつのか解説するとともに、日本と諸外国との実態を比較し課題を探る。
4 回	保健統計－生命表－	生命表、平均余命及び平均寿命について概説
5 回	健康と疾病の概念	健康及び疾病の概念について概説
6 回	生活習慣病とその予防	悪性新生物、心疾患など生活習慣がもつこととなる疾患について、予防方法も含めて解説
7 回	感染症	感染症とは何か、問題点及び法律上の対応について概説
8 回	感染症の予防	感染症の予防方法及び予防接種について解説
9 回	疫学 考え方	疫学の考え方について過去の事例をもとに解説
10 回	疫学－コホート研究－	疫学研究の代表的な方法であるコホート研究について事例を紹介しながら、利点、欠点も交えて解説
11 回	疫学－症例対照研究－	疫学研究のうち症例－対照研究について事例をもとに利点、欠点も交えて解説
12 回	母子保健	母子の健康状態の尺度となる健康指標及び法律上の対応、行政の取組について解説
13 回	産業保健	労働衛生の実態及び産業保健活動について解説
14 回	環境保健	公害、環境衛生及び環境保健活動について解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的に公衆衛生に関する新聞記事や行政機関の動向、発信された情報に関心をもち、目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テーマ毎に資料を配付する。

【参考書】

国民衛生の動向

【成績評価の方法と基準】

授業毎のレポート（50%）及び最終レポート（50%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

少人数での実施であることから、事例について詳細な意見交換が可能であることから、学生の要望も踏まえ、大学院にふさわしい一歩踏み込んだ意見交換が継続する。

【学生が準備すべき機器他】

授業時において理解が困難な点や改善点は学生との双方向の意見交換を実施することにより理解の徹底を図る

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)The purpose of this course is for students to deepen the understanding of public health, and find solutions to a challenge.

(learning Objectives)To understand the diseases of populations and measures to maintain and promote their health, and to be able to help them develop healthy lifestyles throughout their lives.

(Learning activities outside of classroom)Students should be interested in and read through newspaper articles, trends in government agencies, and transmitted information related to public health on a daily basis.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 50%, Final report : 50%

HSS500I1

健康体力学特論

越智 英輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康やスポーツ・身体活動、さらに学校体育に関連した体力学の基礎的知識を学習する。健康やスポーツに対し、様々な視点からみた体力の諸要素がどのように関連し、貢献するのかについて学び、理論を実践場面へ適用できる能力を習得する。

【到達目標】

- ①体力に関わる一般的概念・構成を理解する。
- ②健康やスポーツに関わる主たる体力要素について、理論と測定法を習得する。
- ③体育科教育等の様々な場面における体力の定量的評価法およびその解釈について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

生涯にわたる健康やスポーツ・身体活動、学校体育に関する概念や理論を理解した上で、特に健康やスポーツ・身体活動に重要な体力要素を紹介していきます。また、実際の測定方法や評価方法についてもその手法を解説し、実際に使用する上での実践力の習得を目指します。

授業においては、一方的な知識提供の場になることを避けるため、授業内容に対しての受講者全体での討論や個別に課題提出の機会を設けます。そのため、授業においては、受講者の積極的な参加が重要となります。

また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	運動・体力の発達	体力の基礎的概念と共に、身体の発育発達や加齢に応じた各体力要素の変化について理解する。
2 回	健康関連体力：全身持久性体力の概念	健康関連体力の一つである全身持久性体力の概念と、呼吸・循環・代謝などの関連する生理学的バックグラウンドを理解する。
3 回	健康関連体力：全身持久性体力の測定指標と理解	全身持久性体力の直接測定法および推定法を学び、種々の評価法を習得する。
4 回	健康関連体力：筋力・筋持久力の概念	健康関連体力の一つである筋力・筋持久力の概念と生理学的バックグラウンドを理解する。
5 回	健康関連体力：筋力・筋持久力の測定指標と理解	筋力・筋持久力の主たる測定法を学び、種々の評価法を習得する。
6 回	健康関連体力：柔軟性の概念	健康関連体力の一つである柔軟性の概念と生理学的・解剖学的バックグラウンドを理解し、評価法を習得する。
7 回	健康関連体力：身体組成の概念	健康関連体力の一つである身体組成の概念と生理・生化学的バックグラウンドを理解する。
8 回	健康関連体力：身体組成の測定指標と理解	身体組成を測定する種々の測定法における測定（推定）原理を理解し、評価法を習得する。
9 回	サイバネティクスの体力：調整力	身体を自在に操作するために必要な調整力について、その概念と神経生理学的なバックグラウンド、および測定・評価法を理解する。
10 回	サイバネティクスの体力：敏捷性・巧緻性	身体を自在に操作するために必要な敏捷性・巧緻性について概念と神経生理学的なバックグラウンド、高齢者における特徴などを学び、その測定・評価法を理解する。
11 回	パフォーマンスに関連する体力の定量化	各年代のスポーツ実践場面で特異的に必要となる種々の体力要素について、その具体的な測定・評価方法を習得する。
12 回	体育科教育における体力の評価とその基準	学校体育における体力測定・調査を実施する際の具体的な手順・方法および留意点について学習する。

13 回	測定結果の分析・データマイニング	体力測定結果を目的に応じて分析するための主たる方法を学習し、データから新たな体力学的知見を抽出するための手法を理解する。
14 回	体力学における課題と展開	現在の体力学・体力測定における課題を学び、それを解決するために今後、体力学分野において展開が期待される研究内容について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で指示された課題の内容に基づいて授業中に頻繁に発言を求めます。課題は授業内で提示しますが、次回までに必ず予習して来てください。また、数回のプレゼンテーションを求める予定ですので、授業内で指示される準備も必ず実施してくるようにしてください。毎回の予習と復習はそれぞれ標準で2時間とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

・健康づくりのための体力測定評価法/田中喜代次他（編）/金芳堂
・健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法/出村愼一（監）/杏林書院

【成績評価の方法と基準】

授業への参画（討論への参画）状況：60%、プレゼンテーション（資料等の評価も含む）：40%

【学生の意見等からの気づき】

初めての担当のため、次年度以降学生からの意見に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This class has two objectives of learning. The first is to learn fundamental theories about physical fitness and the physical functions related to health, sports, physical activity, and school physical education. The second is to learn how physical strength elements relate to health and sports and how they contribute and acquire the ability to apply theories to practice.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand the general concepts and constructs related to physical fitness.
2. Acquire theories and measurement methods of the primary physical fitness components related to health and sports.
3. Understand the quantitative evaluation methods of physical fitness and their interpretation in various situations such as physical education.

【Learning activities outside of the classroom】 Students are expected to speak frequently in class based on the assignments. Students must prepare for the assignments presented in each session before the next class. In addition, students will be required to prepare several presentations throughout the semester. Students are expected to have 2 hours of study time outside of class time in this course.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on participating in the discussion on the session (60%), the presentation, and the evaluation of materials(40%).

HSS500I1

健康心理学特論

島本 好平

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体的・心理的（精神的）・社会的健康に対する、ライフスキル教育のアプローチを学ぶことをテーマとします。

【到達目標】

個人・集団を対象として、ライフスキル教育にもとづくヘルスプロモーションの実際を理解することを目標とします。最終的には、受講生自らライフスキルの獲得が個人の健康の維持・増進にどのように貢献するかを説明でき、その実現に向けて行動できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ライフスキルを構成する個々のスキルが、個人の身体的・心理的・社会的健康の維持・増進にどのようにつながるのかを学習します。また、各回ではあるテーマについてグループディスカッションを実施し、各グループからの提示されたアイデアをクラス全体でも共有することで、一人ひとりの考え方の幅を広げ、個人の中でのイノベーションの形成を促していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の方法等を説明するとともに、アイスブレイクを実施する。
2 回	精神的健康の維持・増進に向けて（ストレスパターン）	心理検査をもとに、自らのストレスパターンを診断する。
3 回	精神的健康の維持・増進に向けて（失敗に対する肯定的認知）	失敗に対する肯定的認知について学習する（認知の構造等）。
4 回	精神的健康の維持・増進に向けて（緊張に対する肯定的認知）	緊張に対する肯定的認知について学習する（認知の構造等）。
5 回	精神的健康の維持・増進に向けて（アンガーマネジメント）	怒り等の感情をコントロールする方法について学ぶ。
6 回	精神的健康の維持・増進に向けて（目標設定）	目標を適切に設定するスキル（目標設定スキル）について学ぶ。
7 回	精神的健康の維持・増進に向けて（目標と自分との距離を縮める）	自分に合った目標を設定するために必要な自己理解について学ぶ。
8 回	精神的健康の維持・増進に向けて（他者とかわり自己を理解する）	他者理解を通じて自己理解を深める方法について学ぶ（他己紹介）。
9 回	精神的健康の維持・増進に向けて（自分らしさとは何かを理解する）	「自分らしさ」を見つけ、確立するための方法を学ぶ（ジョハリの窓）。
10 回	精神的健康の維持・増進に向けて（性格診断から進める自己理解）	性格検査をもとに、自己理解を深めていくための方法について学ぶ。
11 回	社会的健康の維持・増進に向けて（コミュニケーション）	円滑な人間関係のために必要なコミュニケーションスキルについて学ぶ。
12 回	社会的健康の維持・増進に向けて（グループワーク）	グループワークを活用した、コミュニケーションスキルの高め方について学ぶ。
13 回	社会的健康の維持・増進に向けて（コーチングスキル）	上下関係を円滑に進めるために必要なコーチングスキルについて学ぶ。
14 回	まとめ	心身相関の考え方をもとに、これまでの一連の内容を振り返りさらに理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ライフスキルの考え方を取り入れた研究計画（最終課題レポート）を、受講者それぞれのフィールドにて検討の上、提出してもらいます。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

授業の中でその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

(1) 作成した最終レポートの内容が 60%、(2) 意見交換やグループワークへの参加状況が 40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が下がります。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ意見交換の時間を取りながら、授業を行えるようにと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

なし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces the basic knowledge of life skills to students taking this course.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to be able to practice life skills for enhancement the total health including physical, psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
The participation attitude: 40%, The reaction paper: 20%, The final report: 40%

HSS500I1

スポーツ栄養学特論

小清水 孝子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 1/Wed.1 | キャンパス：多摩
 配当年次：1～2 年次
 備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ選手を主な対象として、コンディション維持・調整と体づくりのために必要な栄養学の知識と科学的理論を学ぶ。

【到達目標】

スポーツ栄養に関する基礎的知識と科学的理論を習得し、それらをスポーツ現場での栄養サポートに活用・実践できる能力を備えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ栄養学に関する最新の文献や事例に基づき講義と議論を深めていく。また、スポーツ現場で栄養指導を実践していくうえでの課題点についても議論していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	エネルギー消費量の評価	スポーツ選手のエネルギー消費量の考え方の特徴と測定方法について理解を深める。
2 回	運動時のエネルギー補給	トレーニング状況に応じた栄養補給方法。糖質補給の必要性と摂取タイミングについて理解を深める。
3 回	スポーツ選手の体づくりとたんぱく質	スポーツ選手からのたんぱく質の摂取量、摂取方法について理解を深める。
4 回	ビタミンとミネラル	各種ビタミン・ミネラルの働きとコンディション維持との関連、摂取量について理解を深める。
5 回	スポーツ選手の身体組成	スポーツ選手の身体組成の測定方法・データの解釈、およびパフォーマンスとの関係について理解を深める。
6 回	スポーツ選手とウエイトコントロール（1）	増量時の食事管理と課題について考える。
7 回	スポーツ選手とウエイトコントロール（2）	減量時の食事管理と課題について考える。
8 回	スポーツ選手に多い栄養障害（1）	スポーツにおける相対的なエネルギー不足、女性・男性アスリートの三主徴について理解を深める。
9 回	スポーツ選手に多い栄養障害（2）	スポーツ貧血について理解を深める。
10 回	水分補給	運動時の水分補給の意義と方法について理解を深める。
11 回	サプリメントとアンチドーピング	サプリメント摂取に関するスポーツ選手への教育、ドーピングとの関連について考える。
12 回	試合前後の食事、遠征時の食事	試合スケジュールに応じた食事調整。遠征時の食環境の整え方について理解し、試合時の実践方法を考える。
13 回	スポーツ選手の栄養管理計画立案	これまでの授業内容を基にスポーツ選手の栄養サポート計画を立案する。
14 回	スポーツ選手の栄養管理計画に関して議論する。	第 13 回の授業で立案した栄養サポート計画を発表し、議論する。試験・まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で講義する内容に関して、あらかじめ配布資料等を読んで、自分の考えをまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

適宜資料、プリントを配布する。

【参考書】

Louise Burke & Vicki Deakin: Clinical Sports Nutrition 6th edition (McGraw Hill)
 日本スポーツ栄養学会監修：エッセンシャルスポーツ栄養学（市村出版）

【成績評価の方法と基準】

授業での発表・議論への参加状況 50 %、期末に提出するレポート 50 % で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、スポーツ現場での栄養サポートの問題点などの事例を取り入れ、実践で活用できる内容の授業としていく。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This course introduces the key principle of sports nutrition for elite athletes and recreational exercisers. It will cover sports nutrition for pre, during and post exercise considering various sports and body composition.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to obtain basic knowledge about clinical sports nutrition and apply an evidence-based approach to formulate nutrition support plan for athletes and recreational exercisers.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the handouts. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following attitude in class 50%, term-end report 50%.

SOM5001I

学校保健学特論

鬼頭 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、学校保健の理解を深め、子どもの健康課題解決の方策を提案できる能力を身に付けることである。

学校保健の領域を構成する保健管理、保健教育について基本的な知識を身に付けるとともに、課題解決のために考えられる方策について議論を深めながら理解を深め、実践力が身に付けられるようにする。

【到達目標】

学校保健の全体構造及び児童生徒の健康に係る課題の理解を通して、その重要性が認識できるようにするとともに教員等が果たす役割について身に付け、学校保健に関する実践力を身に付けることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

「学校保健の歴史」、「学校保健の領域構造」、「関連する法律」を基礎とし、学校保健に関わる人的配置が「保健主事」「養護教諭」「学校三師」であること、その上で「学校保健活動」が実施されていること、さらには学校保健の中核となる領域は「保健教育」と「保健管理」であり、児童生徒の現代的な健康課題に対応するためには、その理解と効果的な教育や管理が必要であることについて、全体を通じて有機的なつながりを意識しながら進めていく。実態や実践事例を題材とし、ディスカッションを通じて理解を深める。原則、対面授業とし、課題解決型の授業振興とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	学校保健の概要	学校保健の概要について保健教育、保健管理の各視点から解説。
2 回	学校保健の歴史	学校保健が歩んできたこれまでの歴史的経緯について解説。
3 回	学校保健の領域構造	学校保健の領域を構成する、保健教育、保健管理、組織活動についてそれぞれの意義を解説。
4 回	関連する法律 －学校保健安全法を中心として－	学校保健の法的根拠となる学校保健安全法を中心に内容について詳説。
5 回	保健主事と養護教諭	学校保健の中心的役割を担う保健主事及び養護教諭についてその職務内容を解説。
6 回	学校三師とは	学校保健を側面から支援する学校医、学校歯科医、学校薬剤師についてその役割を解説。
7 回	学校保健活動	学校保健活動とは何か、学校と家庭や地域をつなぐ連携の在り方について解説。
8 回	保健教育	保健教育を構成する保健学習、保健指導について解説。
9 回	児童生徒の健康に関する現代的課題と対応 －喫煙、飲酒－	児童生徒の現代的な健康課題について喫煙、飲酒を中心に取り上げ解説。
10 回	児童生徒の健康に関する現代的課題と対応 －薬物乱用、性の逸脱行動－	児童生徒の現代的な健康課題について薬物乱用、性の逸脱行動を中心に取り上げ解説。
11 回	保健管理の概要	保健管理の概要について解説。
12 回	健康診断	保健管理のうち、対人管理として重要な健康診断の内容について解説。
13 回	学校環境衛生総論	保健管理のうち、対物管理として学校環境衛生を取り上げ解説。
14 回	学校環境衛生各論	学校環境衛生基準を題材とし、教室環境、飲料水、プール等、学校環境衛生について各論として取り上げ解説。実践演習を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

児童生徒や学生に関わる健康課題、問題行動について関心をもち、マスメディアが発信する情報や文部科学省から発信される情報を収集し、問題点や動向について認識を深めることにより、問題意識を高めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義内容に応じた資料を作成し配布

【参考書】

改訂 8 版学校保健マニュアル（南山堂）、学校保健実務必携（第一法規）

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 100%

【学生の意見等からの気づき】

授業時において理解が困難な点や改善点は学生との双方向の意見交換を実施することにより理解の徹底を図る

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)The purpose of this course is for students to deepen the understanding of school health, and make proposals to find solutions to challenge.

(learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand school health and to get the practical skill for teacher.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on reports(100%)

HSS500I1

体力・機能測定評価演習

高見 京太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康やスポーツ・身体活動、学校体育に関連した体力およびそれに関する諸機能について、概念と基礎的理論を学習する。身体活動に関連する体力や身体諸機能を適切に測定し、評価しうる能力を習得する。

【到達目標】

- ①体力・身体機能に関わる一般的概念・構成を理解する。
- ②種々の体力要素について、理論と具体的な測定・評価法を習得する。
- ③種々の体力要素の測定結果を、様々な場面に適用できる実践力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

身体活動を対象とした研究の実践時に重要な体力要素を取り上げ、その概念や具体的な測定方法を学ぶ演習を行います。また、実際の測定方法に加え、エビデンスに基づく評価方法について解説し、実際に使用する上での実践力の習得を目指します。

授業においては、演習における活動に加え、受講者全体での討論や課題提出の機会を設けます。そのため、授業においては、受講者の積極的な参加が重要となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	体力・身体活動研究における現状の理解	体力学、身体活動研究における現状や概念を理解し、測定・評価法の歴史を学ぶ。
2 回	人体の大きさ：体重と身体組成の生理学的背景と概念	体重、体型、身体組成について、体力的・生理学的側面から学習する。
3 回	人体の大きさ：形態計測と体型指数の実際	形態計測と体型指数について、その具体的な方法を学ぶ。
4 回	人体の大きさ：身体組成測定の実際	身体組成の具体的な測定方法を学ぶ。
5 回	人体の大きさ：測定結果の分析と解釈	身体組成の測定結果の分析方法および結果の評価・解釈法について理解する。
6 回	骨格筋活動：生理学的背景と測定法の理解	身体各骨格筋に関して、その収縮を司る神経系活動や収縮レベルに関与する生理学的背景について学習する。
7 回	骨格筋活動：筋電図計測の実際	骨格筋活動を間接的に把握する筋電図の計測方法を習得する。
8 回	骨格筋活動：筋電図の分析と解釈	計測された筋電図データの分析方法および結果の評価・解釈法について理解する。
9 回	エネルギー代謝：概念・生理学的背景	基礎代謝および運動時のエネルギー代謝について、生理学的側面から概念・測定原理を理解する。
10 回	エネルギー代謝：直接測定の理解	安静時および身体活動時における呼気ガス分析を用いたエネルギー代謝測定法を習得する。
11 回	エネルギー代謝：間接測定（推定）の実際	身体活動時のエネルギー代謝を簡易に推定する方法を習得する。
12 回	エネルギー代謝：測定結果の分析と解釈	測定されたエネルギー代謝の結果を用いた安静時代謝量の計算や、身体活動中の糖・脂質代謝の計算方法を習得する。
13 回	身体活動量・運動習慣：概念と調査法の理解	身体活動量の概念、運動習慣の定義などを学び、これらを測定する意義について学習する。
14 回	身体活動量・運動習慣：調査の実際と分析法の理解	身体活動量の測定結果、および運動習慣調査などの結果について、具体的な分析方法を習得する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

5、8、12 回においては、各体力要素の測定法演習の結果を取りまとめる簡易レポートの提出を求めます。また、3、4、7、10、11、14 回においては、授業内で測定したデータの取りまとめを授業時間外で行う必要があります。各授業における教員からの指示に従って、授業外学習を進めて下さい。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

・健康づくりのための体力測定評価法/田中喜代次他（編）/金芳堂
・健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法/出村慎一（監）/杏林書院

【成績評価の方法と基準】

授業での演習の状況（討論への参画状況を含む）：60%、プレゼンテーション（資料等の評価も含む）：40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The learning objective of this class is to acquire the ability to accurately measure and evaluate physical fitness and physical functions related to physical activity.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand the general concept and structure of physical fitness and physical functions.
2. Acquire the theory and specific measurement and evaluation methods for various physical fitness components.
3. Acquire practical skills to apply the measurement results of various physical fitness components to various situations.

【Learning activities outside of the classroom】 In sessions 5, 8, and 12, students are required to submit a short report summarizing the results of the measurement exercises for each physical fitness element. Students must compile the data measured outside the class time in sessions 3, 4, 7, 10, 11, and 14. Please follow the instructions given by the instructor in each class and study outside the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on participating in the discussion on the session (60%), the presentation, and the evaluation of materials(40%).

SOM500I1

運動疫学演習

笹井 浩行

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1 | キャンパス：多摩

配当年次：1~2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動疫学とはヒトにおける運動と健康の間に原因と結果の関係（因果関係）があるかどうかを明らかにする学問である。100 人の血圧を測定し、その中で血圧が高い 20 人を 2 群に分け、A 群には運動指導を、B 群には「おまじない」をして 1 週間後に血圧を測定すると両群とも平均血圧は（ほぼまちがいはなく）低下する。このような研究デザインだと運動指導だけでなく「おまじない」にも降圧効果があることになってしまう。本授業では、このようなヒトを対象としたスポーツと健康に関する研究のピットホール（落とし穴）を解説するとともに、科学的に正しい研究結果を生み出す研究デザインを紹介し、ヒト集団を対象に実施されたスポーツと健康に関する研究結果を適切に理解できる能力を養うとともに、研究デザインを適切に立案できる能力を養う。なお、スポーツ健康学の文脈においてはスポーツ傷害やスポーツパフォーマンスも扱う。

【到達目標】

- ① 運動疫学に関する基本的な考え方、基本用語、基本統計を学ぶ。
- ② 運動疫学に限らずスポーツ科学全般における研究結果を適切に理解できる能力を養う。
- ③ 運動疫学研究の研究デザインを適切に立案できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントで作成した教材と数多くの先行研究や総説（叙述レビューおよび系統的レビュー）を通じて運動疫学研究の基本を理解するだけでなく、各テーマについて討議することによって理解を深める。また、研究結果を理解したり、研究を実施したりする場合に陥るピットホールの種類や危険性を具体例を通じて理解することにより、適切な研究デザインによって生み出された研究結果とはどのようなものであるかを理解する。さらに、講義や討議によって得られた知識を実習（修士論文の計画策定・発表）を通じてしっかりと身に着ける。

※授業は原則として対面でおこなう。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては、大学の方針に従って授業はオンライン（リアルタイム双方向型）と対面を織り交ぜながら進めることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	運動疫学の基本および考え方	ガイダンス・自己紹介（講師、学生）・疫学のイメージを確認・疫学の基本や考え方について解説
2 回	信頼性の高い健康情報とはどのような情報かを解説	信頼性の高い健康情報に関する解説とはどのような情報に関連するピットホール（落とし穴）の紹介
3 回	科学的根拠に基づく医療（EBM）およびスポーツ科学（EBSS）	科学的根拠（エビデンス）について解説・EBM および EBSS の概要や基本的な考えを解説
4 回	疫学の基本用語・基本統計・ピットフォール（落とし穴）の紹介	疫学の基本用語を解説・基本統計の紹介・疫学研究におけるピットフォールの代表（選択バイアス、交絡等）を解説
5 回	記述疫学研究の概要紹介	記述疫学研究の概要を説明・記述疫学研究として国民健康・栄養調査や各種統計調査を紹介し解説
6 回	地域関連研究の概要紹介	地域関連研究の概要を説明・地域関連研究としてニホンサン研究や赤ワインと心臓病に関する研究等を紹介し解説
7 回	横断研究の読み方、やり方	横断研究の概要とピットフォールを紹介・横断研究の読み方や実施方法を解説
8 回	症例対照研究の読み方、やり方	症例対照研究の概要とピットフォールを紹介・症例対照研究の読み方や実施方法を解説
9 回	コホート研究の読み方、やり方	コホート研究の概要とピットフォールを紹介・コホート研究の読み方や実施方法を解説
10 回	ランダム化比較試験の読み方、やり方	ランダム化比較試験の概要とピットフォールを紹介・ランダム化比較試験の読み方や実施方法を解説

11 回	実習 オリエンテーション・研究疑問の検討	修士論文の計画発表（授業で紹介した疫学研究手法を用いて研究疑問の解決に向けた研究デザインを構築）の進め方を説明。各自で研究疑問に関連する先行研究について文献調査。
12 回	実習 修論の研究デザインの立案	先行研究を参考にリサーチクエストを解決するための研究デザインを立案
13 回	実習 修論の研究デザインの発表準備	パワーポイントを用いて、立案した修士論文の研究デザインの紹介スライドを作成
14 回	修論の研究デザインの発表と授業の総括	立案した修士論文のデザインを学会形式で発表し、質疑応答を通じて運動疫学に対する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業前に、予習として授業テーマに関する事項をインターネット等を利用して確認しておくこと。各授業後には復習として授業で学んだ部分について参考図書を読んで内容を確認すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、毎回、関連文献・関連総説・資料等を配布する。

【参考書】

- ・はじめて学ぶやさしい疫学（改訂第 3 版）
- ・基礎から学ぶ楽しい疫学（改訂 4 版）
- ・身体活動・座位行動の科学～疫学・分子生物学から探る健康～
- ・医学的研究のデザイン：研究の質を高める疫学的アプローチ

【成績評価の方法と基準】

出席（20%）に加え、授業における積極的な発言や質問等の授業態度（30%）、文献紹介や研究計画プレゼンテーションの内容や発表態度、質疑応答内容（50%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

クラスサイズが小さいため、各受講生の研究内容や個別の要望を聞き、適宜修正しながら授業を展開する。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションができるよう、プレゼンソフトが入ったノート PC を毎回の授業で持参すること。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline]

Exercise epidemiology is an academic discipline to explore the cause-and-effect relationship between exercise and health in humans. This course will provide an overview of the epidemiological research design and explain how to identify and avoid the pitfalls in sports and health studies. Sport-related injury and sports performance will also be addressed in this course.

[Learning Objectives]

Learning goals of this course were;

- (1) To learn basic concepts, terminology, and statistics related to exercise epidemiology.
- (2) To develop the ability to appropriately understand research findings written in English-language academic articles in sports and health studies.
- (3) To foster the ability to design research plans appropriately using the knowledge in exercise epidemiology.

[Learning activities outside of classroom]

Students are encouraged to prepare for each class by learning the topics using the Internet or related materials in advance. Then, they are expected to review the contents covered in class. The total time needed to prepare and review each class will be approximately 2 hours.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be relied on attendance (20%), class contributions (30%), and presentations, including performance in question and answer sessions (50%).

HSS500I1

スポーツマネジメント特論

吉田 政幸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義において、受講者はスポーツをプロダクトとして捉え、それに関わる事業をスポーツビジネスとみなすスポーツマネジメントの理論と実践を総合的に学習する。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下のとおりである：

1. スポーツマネジメントがビジネスマネジメントの一つとして登場し今日に至った歴史的経緯を説明することができる。
2. スポーツ組織の内部環境のマネジメント（組織論、施設管理）について理解し、その実践方法を説明することができる。
3. スポーツ施設の外部環境のマネジメント（マーケティング）について理解し、その実践方法を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業はスポーツマネジメントの主要分野とそれらに対応する事例に焦点を合わせながら、スポーツマネジメントを総合的に学習する。受講者は事前に配付資料を読み、各トピックについて予め疑問や問題意識を準備して授業に臨まなければならない。

また感染症などの社会情勢により、授業計画、授業の方法、成績評価の方法を変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンスおよび導入	講義の概要の説明を受けるとともに、スポーツマネジメントの導入の授業を受ける。
2 回	スポーツマネジメントとは	ビジネスマネジメントとしてのスポーツマネジメントの定義、設立・発展の背景、現状について理解を深める。
3 回	スポーツ産業とは	スポーツマネジメントの対象分野となるスポーツ産業の具体的な個別産業領域、それぞれの市場規模、これまでの発展の経緯、そして今後成長が期待できる産業について理解を深める。
4 回	スポーツ組織論：計画、組織化	スポーツ組織論の中でも、事業の計画と担当部署の組織化について、企業理念、使命、方向性、目標、組織構造などの組織的コンセプトとともに学習する。
5 回	スポーツ組織論：実行、評価	スポーツ組織論の中でも、所属メンバーの動機づけと事業評価について、マネジメント理論とともに学習する。
6 回	スポーツ消費者行動	スポーツ観戦者とスポーツファンは異なる。スポーツファンはある日突然誕生するのではなく、何らかのきっかけや刺激による心理的・行動的变化を必要とする。ここではファンの誕生のメカニズムについて学習する。
7 回	スポーツマーケティング	多様化する消費者ニーズを充足するスポーツプロダクトの創造に向け、最新のサービス中心の論理を含めたスポーツマーケティングコンセプトについて議論を展開し、その理解を深める。
8 回	ブランドマネジメント	コアスポーツプロダクトとサービスマーケティングミックスを統合し、魅力的で一貫したブランドイメージの形成に欠かすことのできないブランドマネジメントのロジックについて学習する。
9 回	マーケティングミックス	スポーツ消費者のニーズを満たし満足度を高めるため、スポーツ組織は様々な働きかけを行う。この活動をマーケティングミックスと呼び、それぞれの要素の特徴について学習する。

10 回	スポーツスポンサーシップ	アスリート、チーム、リーグなどの知名度を生かしてプロモーション活動を展開するスポーツスポンサーシップのロジックを学習するとともに、現代社会のスポンサーシップのあり方と今後の方向性について議論する。
11 回	スポーツ施設マネジメントの基礎	今日のスポーツスタジアムを特徴づける大規模施設、エンターテインメント事業、指定管理者制度、IT テクノロジーなどの経営要素とともに、スポーツ施設のマネジメントについて考える。
12 回	スポーツ施設マネジメントの今後：第二局面のスポーツ施設	2000 年以降、スポーツ「しか」見せない第一局面のスタジアムから、スポーツだけでなく多様なサービス「も」提供する第二局面のスタジアムへの転換が起こっている。こうした変化の背景を学習するとともに、第二局面のスタジアムが生み出す様々な効果について理解する。
13 回	スポーツレガシーのマネジメント	スポーツイベントの開催において、大会の成功だけでなく、そのイベントが地元地域にもたらす恩恵を長期に渡って根付かせることが重要である。この恩恵はレガシーと呼ばれ、有形レガシーと無形レガシーの二つに分かれる。本授業ではこのレガシーについて理解を深める。
14 回	スポーツマネジメントのまとめ	現代社会におけるスポーツマネジメントの重要性を振り返り、その位置づけと今後の展望について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は事前に配付される資料を読んで内容を予習するとともに、予め疑問や感想をまとめ、授業に参加してください。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回、資料を配付する）。

【参考書】

原田宗彦（編）（2021）スポーツ産業論（第 7 版）。杏林書院：東京。
 仲澤眞・吉田政幸（編著）（2017）よくわかるスポーツマーケティング。ミネルヴァ書房。
 原田宗彦・小笠原悦子（2008）スポーツマネジメント（スポーツビジネス叢書）。大修館書店：東京。

【成績評価の方法と基準】

小レポート：10 点 × 10 回

【評価基準】

10 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分自身の視点から考察を加えており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章の精度が非常に高い。
 8 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分自身の視点から考察を加えており、問いに対して合理的な説明を加えている。
 6 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分自身の視点から考察を加え、論じている。
 4 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いつつながら論じている。
 2 点：授業の内容を踏まえて論じている。
 25 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章的にも論旨を明確に伝えることができている。
 20 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、問いに対して合理的な説明を加えている。
 15 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。
 10 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いつつながら書いている。
 5 点：授業の内容を踏まえて書いている。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義にならないよう、現在のスポーツ界で起きているマネジメント関連の問題を授業で取り上げ、皆で議論します。

【学生が準備すべき機器他】

マイクロソフトオフィスを使用できるノートパソコンなど

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course considers sports as products and their projects and practices as sports businesses. Upon successful completion of this course, students will be able to understand the logic, importance, and uniqueness of the sport management field.

(Learning objectives)

The goal of this course is to understand sport management principles such as organizational behavior and sport marketing at the master's level.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters.

(Grading criteria)

Grading will be decided based on ten short reports (10 short reports X 10 points).

SOM50011

運動器疾患特論予防と対処特論

昇 寛

サブタイトル：スポーツ外傷および障害の予防と対処法

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

好発される代表的な運動器疾患（筋骨格系障害）を部位ごとに整理して学びます。

筋肉や関節（スポーツ傷害も含む）傷害と予防について学びます。

筋骨格系障害の発生のメカニズムおよび予防とリハビリテーションを理解する。また、障害予防のためには、どの部位を診るべきか、どのように痛みをコントロールし、どの部位をトレーニングして、どの筋肉をストレッチすべきかなどの対処方法を体験しながら学びます。

【到達目標】

この授業を学ぶことで以下のことが理解でき、（スポーツ障害を含む）運動器疾患を予防する知識と方法を知ることができます。

- ①運動器疾患発生のメカニズム（なぜその関節に傷害が発生するか）
- ②関節部位の機能解剖と触診（どの筋が収縮すると関節が動くのか）
- ③肩関節の障害はどのように診るべきか
- ④肘、手関節の障害はどのように診るべきか
- ⑤股関節の障害はどのように診るべきか
- ⑥膝、足部障害の診方
- ⑦各関節に発生する障害を予防するためには
- ⑧傷害が発生した場合、その対処方法（外科的治療、リハビリテーション、メディカルトレーニング）をどのように進めるべきか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各部位の機能解剖を理解するために多くのセラピストやトレーナーがバイブルにしているカバンディのテキストを紐解く。特殊な機器を用いずに運動器の障害を機能診断する徒手医学による機能診断学を学ぶ。また徒手療法手技による対処方法あるいは機能改善を目的としたメディカルトレーニングの方法を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回	徒手医学による運動器疾患の機能診断と治療	概論、運動器疾患治療の歴史、専門用語の理解、手順など。
2 回	肩関節障害の徒手機能診断と治療	肩関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
3 回	肘関節障害の徒手機能診断と治療	肘関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
4 回	手、手指関節障害の徒手機能診断と治療	手、手指関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
5 回	股関節障害の徒手機能診断と治療	股関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
6 回	膝関節障害の徒手機能診断と治療	膝関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
7 回	足、足部関節障害の徒手機能診断と治療	足、足部関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
8 回	骨盤障害の徒手機能診断と治療	腸骨、仙腸関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。

9 回	腰椎障害の徒手機能診断と治療（時に軟部組織障害）	腰椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。（軟部組織）
10 回	腰椎障害の徒手機能診断と治療（特に椎間板や関節障害）	腰椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。（椎間板、関節）
11 回	中下部頸椎障害の徒手機能診断と治療	中下部頸椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
12 回	上部頸椎障害の徒手機能診断と治療	上部頸椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
13 回	顎関節障害の徒手機能診断と治療	顎関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
14 回	胸郭障害の徒手機能診断と治療	胸郭の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。その他の部位の徒手機能診断と治療

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

解剖学、機能解剖の理解（機能解剖学あるいは解剖学と運動学を修得しておく必要がある）本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度紹介する。必要な資料は、学習支援システムで事前に配布する。

【参考書】

その都度紹介する

【成績評価の方法と基準】

課題報告書（50%）、プレゼンテーション（30%）、宿題（20%）

【学生の意見等からの気づき】

少人数であったので一人一人に指導ができた。講義、課題発表、実技のバランスを考慮しながら進めたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学にある骨モデルなど

【その他の重要事項】

学部で機能解剖学あるいは運動学と解剖学を履修しておくこと

【Outline (in English)】

Course Summary: This class will be taught online with face-to-face instruction. Students will observe bone models and touch joints and muscles. Students will also experience hands-on stretching and training.

Learning Objectives: Students will be able to understand the pathogenesis of common musculoskeletal disorders. Understand how to prevent them. To be able to understand the treatment methods of musculoskeletal diseases.

Review of the functional anatomy of the areas covered in the class is required.

Grading Criteria and Policies: Grades will be determined by reports, presentations, and attendance.

ECN50011

スポーツ産業学特論

井上 尊寛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

従来のスポーツ産業においては、用品産業、施設・空間産業、情報産業の3つの領域は独立し存在していた。しかしながら、近年スポーツ健康への関心の高まりや消費者のライフスタイルの多様化などを背景にスポーツ健康産業の市場が拡大し、それぞれの領域が密に接し、ついには交わるようになっていく。この複雑な産業構造や要素間の関係を理解し、スポーツその持つ価値を最大化し、かつ収益性を高めるということを踏まえつつ、スポーツそのものにダイナミズムを与えるスポーツ健康産業論を展開する。

【到達目標】

本講義では、スポーツ産業についての理解を深めることを目的としている。具体的にはスポーツを商品として捉えた場合の商品特性や多様化するスポーツサービス業についての構造的な理解と現代的な経営課題について学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

多様化するスポーツ産業について、消費者行動や商品開発、ブランディングなど経営戦略やマーケティングなどの視点から解説していく。本授業は講義形式でおこないます。毎回のテーマに関する感想をまとめて授業の最後に提出してもらう予定です。授業ではプロジェクターを使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	受講ガイダンス	スポーツ産業の産業構造について解説するとともに、授業の狙い、進め方なども併せて説明する
2 回	スポーツ産業の産業構造	スポーツ産業の歴史と実態さらに抱えている問題について解説する
3 回	スポーツプロダクトとライフサイクル	スポーツを商品として捉え、その特性や商品としてのライフサイクルまたはマーケティングについて解説していく
4 回	スポーツサービス産業	スポーツサービス業の目的・形態について歴史的な推移と共に解説していく
5 回	スポーツとメディア産業	スポーツの産業化とメディアの関係およびメディア産業の発展について考察する
6 回	スポーツ用品産業	スポーツブランドのマーケティングやブランディングについて考察していく
7 回	スポーツツーリズム	スポーツイベントとツーリズムの関係について解説していく
8 回	スポーツと地域	スポーツイベントやプロスポーツクラブが地域に与える影響について考察していく
9 回	フィットネスクラブのマネジメント	民間のフィットネスクラブについて歴史的な変遷や形態およびサービスの変遷について考察していく
10 回	公共スポーツ施設のマネジメント	公共スポーツ施設のマネジメントについて現代的な課題およびサービスについて解説していく
11 回	スポーツと CSR	CSR についての理解を深めるとともに、スポーツ組織における CSR について考察していく
12 回	スポーツとソーシャルインパクト	スポーツイベントが社会に与えている影響について考察するとともに、ソーシャルインパクトを創出する方法や意義について解説していく
13 回	メガスポートイベント（五輪のマーケティング）	オリンピックの近代化や商業化のプロセスを解説する
14 回	メガスポートイベント（サッカー W 杯のマーケティング）	サッカーワールドカップの近代化や商業化のプロセスについて解説するとともに、FIFA の世界戦略やマーケティングについても解説していく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤眞・吉田政幸 編著、ミネルヴァ書房、2017 年

【成績評価の方法と基準】

授業参加状況（感想や理解度の確認のための小テストなど授業内に実施する提出物）(10%) や期末のレポートの内容 (90%) から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

受講者の要望に沿った内容も適宜盛り込んでいきたい

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)The sport industry includes the sport goods, service, and construction segments. (Learning Objectives) This course is an introduction to the fundamental elements of the sport industry. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices related to each segment of the sport industrt. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. (Grading Criteria) Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 10%, final report : 90%.

ECN50011

スポーツ健康政策学特論

海老島 均

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オリンピックに代表されるエリートスポーツを推進させる政策、また一般市民を対象としたスポーツによる健康政策、一見異なるレベルにおけるスポーツ関連政策に、いかに連続性を見いだしていくのか？ 諸外国の実情および我が国の国家レベルまたは地方自治体レベルでの取り組みを踏まえながら議論を進めていく。受講生が、スポーツや健康をめぐる最新の動向、また各受講生の研究テーマを政策に関連づけることができることを目的とする。

【到達目標】

エリートスポーツ・競技スポーツ環境整備政策の特徴、健康政策の特徴を把握し、目指すべき方向性に向けての政策立案、選択をできるようにする。また両者の連続性、共存性に関する知識を深める。

国内外のスポーツ健康政策の現状を理解し、その比較検討から、我が国の将来に向けてのスポーツ健康政策に関する戦略を受講生個々が提案できるようにする。

By the end of this course, students should be able to do the followings.

- to understand the characteristics of elite sport, competitive sport, community sport and sport for health
- to create the policy to promote different type of sport in order to meet various needs from the public
- to acquire the profound knowledge of the pathway from the community sport to the elite level.
- to be able to plan the strategy for the future development of sport and health promotion in our country.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

海外のスポーツ健康政策に関する調査事例を紹介するとともに、インターネット等を通して受講生個々が調査分析する機会を持つ。また我が国のスポーツ健康政策に関してはフィールドワークを行う機会を提供し、それぞれの調査結果をもとに議論を重ねる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	イントロダクション：スポーツ健康政策の社会的背景	世界におけるスポーツ健康政策の現状と課題に関して紹介していく。講義の流れに関しても解説する。
2 回	我が国のスポーツ健康政策の経緯	我が国のスポーツ健康政策がどのような変遷を経てきたか、その歴史に関して理解を深める。
3 回	我が国のスポーツ政策の現状と課題	スポーツ振興基本計画、スポーツ立国戦略、スポーツ基本法によって発展したこと、また課題について考える。
4 回	諸外国のスポーツ政策の分析①（イギリス、アイルランド）	我が国と同様に学校スポーツが盛んな両国のスポーツ政策戦略を学ぶ。
5 回	諸外国のスポーツ政策分析②（ドイツ、オランダ、フランス）	地域スポーツクラブがスポーツ実践の基盤となるヨーロッパのスポーツ大国の戦略について学ぶ。
6 回	まちづくりと日常的身体活動・スポーツ（コンパクトシティと市民の健康）①	ヨーロッパの都市に多く見られるコンパクトなまちづくりは人々の日常的な身体活動（徒歩や自転車での移動）を活性化させ、人々の健康、コミュニティの活性化に大きな影響を与える。この観点について考える。
7 回	まちづくりと日常的身体活動・スポーツ（コンパクト・シティと市民の健康）②	我が国で展開されているコンパクトシティ構想（富山市、宇都宮市等）の事例に関して詳細に検討し、今後のまちづくりと市民の健康の関係性について考える。
8 回	スポーツ健康政策と「新しい公共」	「新しい公共」の概念と理解とスポーツ政策や健康政策策定に与える影響について考える。

9 回	地方自治体とスポーツ健康政策	わが国の地方自治体で展開されているスポーツ健康政策に関して、その現状と課題を議論する。
10 回	NPO やボランティアのマネジメント	コミュニティ・スポーツの発展にNPO やボランティアの果たす役割について事例をもとに考える。
11 回	総合型地域スポーツクラブ構想について検証する	総合型地域スポーツクラブの成功事例、課題に関して学び、今後のスポーツ健康政策策定に向けて考える。
12 回	学校スポーツと地域スポーツの相互補完関係に関して考える	2023 年度からスタートした中学校の課外活動の地域移行に関して現状および今後の課題に関して検討する
13 回	スポーツ環境におけるパスウェイ形成の方策に関して	グラスルーツからエリートスポーツへのシームレスな連携をつくる方策に関して諸外国の事例の比較から考える
14 回	スポーツ健康政策の方向性とアクターについて	わが国の健康スポーツ政策の目指すべき方向性と、アクターの役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で、次週に向けての課題図書を紹介または資料を配布する。それらを熟読し、テーマに関しての理解を深める。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてテーマに応じた参考図書、URL を紹介する。

【参考書】

菊幸一他編著『スポーツ政策論』成文堂、2011、その他必要に応じてテーマに応じた参考図書、URL を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業時の議論やリアクションペーパーの評価：60%

最終レポートの評価：40%

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の研究テーマに即した学びを深める機会をより一層提供できるよう努力したい。

【その他の重要事項】

原則対面授業ですが、教材の内容等よりオンライン授業を併用することもあります。

【Outline (in English)】

(Outline and objectives)

The sport policy which promotes elite sport environment towards Olympic Games or the other international competitions and the sport policy which enhances health of ordinal people through sporting activities coexists in different ways dependent on the given countries' policies. These policies can be separated or be integrated. Is it possible to create the continuity? We discuss this issue with the related data and documents about various countries and various levels of sporting fields and daily lives.

(Work to be done outside of class)

Students are expected to complete the reading assignments before the next class. The reading assignments or references are introduced during classes.

(Grading criteria)

Grading will be decided based on in-class contribution (60%) and the term end exam (40%) .

SOC500I1

スポーツジャーナリズム特論

山本 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャーナリズムを研究するにあたって、くぐることのできる二つの入口がある。一つは勝敗の行方や帰結に焦点を当て、伝える者が何をどう理解、分析し表現してきたかをつぶさに検証すること。もう一つは、時々の社会を描きつづけた事象に目をこらし、変化を来した要素から始まって報道に目を向けるやり方である。背景にどんな思想があったのか、現況下でスポーツはどうかあるべきか、アスリートがどう対応しているかといったテーマの増加がそれを反映している。一言でスポーツといっても、国により地域によりまた時代により、人々と社会の受け止めは様々でない。スポーツがジャーナリズムの対象になるとき、それを読み解く者は個々の論調や分析の後ろにあるスポーツの現代的なプレームを知っておかなければならない。この特論では、具体的なジャーナリズムの論調を、時々のトピックを彩った組織や体制と見比べながら、現代のスポーツ報道を深層から掘り起こす。

【到達目標】

我がが普段目にするジャーナリズムは、社会の実相をそのまますべてさらけ出したものではない。伝える側に意図や狙いがあり、あるときはかなりの部分を隠し、またあるときはすべてを伝え尽くす。そこに影響を与えるのは、組織や人物のもつ社会との関係であることが少なくない。では、スポーツを巡る社会には何がどう展開しているのか。どことどこがどうつながっているのか。それを知った上で、ジャーナリズムに対峙していく。そうすることによって初めて、ジャーナリズムを客観的に捉える位置までたどり着ける。ジャーナリズムを読み解く、広い視野の獲得が目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ界に普遍的なテーマを設定し講義を進める。過去、社会を描るがした出来事に焦点を当てることもあれば、現在のジャーナルな論点もある。講義を進めていく上で3種類の方法論をとる。

①多様な価値観の元、伝えられるスポーツに関わる報道がなぜ生まれてきたのか。そうした報道を生む背景がどこにあったのか。スポーツ報道周りの、スポーツ界を深掘りする。

②報道を送り出す側にとどのような価値観が存在したのか。ジャーナリズムのよって立つところを分析する。

③ジャーナリストの立場に立って、特定の事象を文章化し、言語で伝える能力を身につける。メディアの立場に立ったつもりで、持論の展開を具体的に実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス。	スポーツジャーナリズムの特性と歴史を説く。ジャーナリズムが近年問われてきた問題点を取り上げる。
2 回	東京オリンピック・パラリンピック報道検証～ゆれた期待～。	日本中を巻き込んだメガイイベント関連報道の波乱に富んだ一年半を追う。
3 回	プリント（活字）ジャーナリズムの仕組みとその視点を探る。	紙媒体で始まった活字ジャーナリズムも現代はスクリーン上で勝負する時代である。その速報性、紙媒体との両立という難題に向かう今を見る。
4 回	電波ジャーナリズムの現代的変容はどう進んだか。	具体性と同時体験を提示しながらテレビには、スポーツジャーナリズムを牽引する時代もあった。それが今やモバイルにとって代われようとしている。
5 回	学校体育と部活動を考える。	2023 年を目途に進められる学校部活動の週末外部委託を、ジャーナリズムはどう捉えてきたか。
6 回	東西対決とドーピング。	世界が目指すメダル争いは政治の世界を巻き込み、「勝つことのみが善」であると信じて突き進む勢力を生んだ。スポーツが政治に最も翻弄された時代はどのように報道されてきたのか。

7 回	アマチュアとプロフェッショナル。	商業化はプロ化の促進に弾みを付けた。しかしプロ化を促したのは金だけではない。私たちの社会そのものがプロ化を進める条件を整備し始めていた。アマチュア援護の報道がプロ容認に変わる時代を確認する。
8 回	障がい者スポーツの捉え方。	障がい者スポーツが競技性を高めるにつれ、生活面や健康面で扱われていたものがスポーツ面に移動するようになる。ジャーナリズムの振れを検証する。
9 回	プロサッカーが生んだ地域化の流れを追う。	長らくスポーツといえばプロ野球が中心で、それは巨人に象徴される、全国民を味方にするチームづくりであった。Jリーグの発足はそこにくさびを打ち、新たに「地域」の視点を掘り起こした。
10 回	生涯スポーツという発想はどう伝えられてきたか。	健康とスポーツの結びつきは、共同体の再構築だけでなく、高齢者対策、少子化などとも密接な関係がある。そこに食らいつくスポーツジャーナリズムは少ない。
11 回	野球界の隆盛、波乱と再興。	日本のスポーツジャーナリズムで常に主役を張ってきたのは戦前から一貫して野球であった。興行としてだけではなく、教育、文化にも大きな影響を与えてきた野球が、スポーツジャーナリズムにどんな貢献をしてきたかを探る。
12 回	スポーツ界の男女同権と繰り返される人種差別。	男女同権への流れが進む一方で、人種差別、LGBT への対応などスポーツ界はまだ多くの問題をはらんでいる。ジャーナリズムの主張をつぶさに見る。
13 回	暴力的指導と組織のコンプライアンス。	暴力的な指導に加え団体の補助金の不正運用などがパナソニック、コンプライアンスが問われ続けるのはいったいなぜか。日本社会のスポーツ観を視野に入れながら、さまざまな報道を分析する。
14 回	スポーツへの政治介入。	スポーツがその存在感を深めるにつれ、政治の介入は度を増している。ジャーナリズムがそれに対してどう対応してきたのか検証する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツニュースに敏感になると同時に、政治・経済・社会の出来事に常にアンテナを張っておく。社会を描るがスポーツ界の問題には、自分なりのメモを書きためておく。SNS の力が強い現代社会で、ことの真偽を自ら確かめようとする姿勢を大切に、大衆の支持する世界観に自分も与ってしかるべきかどうか、厳しく問い詰めてもらいたい。なお、世界のスポーツジャーナリズムに対しても積極的に分け入ること。本授業の準備学習・復習時間は各2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず。新聞、テレビ、インターネットの報道を随時利用。

【参考書】

「ジャーナリズム」朝日新聞社 月刊
「放送研究と調査」NHK 総合文化研究所 月刊
新聞各紙のコラムや社説、論評

【成績評価の方法と基準】

スポーツ事象に対する切り込み方、伝える為の構成、スポーツ世界観の広さを、随時要求する。

高い頻度で投げかける問いかけに、どのように回答できるか。講義毎のリアクション、意見表明、主張など 50 %。講義の度に課す小課題 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

国内ジャーナリズムだけでなく、海外の素材も積極的に導入する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン準備のこと。講義の中で、随時国内外の情報に検索をかけるよう要請することがある。貸与パソコンが必要な場合は、担当教員に宛ててあらかじめ申請を求めたい。

【その他の重要事項】

フィールドワーク（なし）としているが、訪問先に可能性があれば受講生と相談の上実施することもあり得る。

【Outline (in English)】

(Course Outline) There are two entry points into the study of journalism. The first is to focus on the outcome and consequences of the victories and defeats, and to examine in detail what the communicators saw, how they understood, analyzed, and expressed themselves. The other is to look at the events that shook society at the time, starting with the elements that brought about the change. This is reflected in the increase of themes such as what ideas were behind the change, what sports should be like under the current circumstances, and how athletes are responding to the change. The word "sport" is not uniformly accepted by people and society, depending on the country, region, or era. When sports are the subject of journalism, the reader must be aware of the contemporary frame of sports behind the individual tone and analysis. In this special topic, we will examine contemporary sports coverage from a deeper level by comparing specific journalistic tropes with the organizations and regimes that have colored the topics of the day.

(Learning Objectives) The journalism we usually see in our daily lives does not expose all of the realities of society as it is. The communicators have their own agendas and aims, sometimes concealing a great deal, and at other times telling the whole story. What influences this is often the relationship that an organization or person has with society. So what is developing in the society surrounding sports? How are they connected to each other? Only by knowing this can we confront journalism. Only by doing so will we be able to reach a position where we can view journalism objectively. The goal is to acquire a broad perspective from which to read and understand journalism.

(Learning Activities Outside of Classroom) Be sensitive to sports news and keep abreast of political, economic, and social events. In today's society, where social networking sites are so powerful, we encourage students to be willing to verify the truth of what is going on, and to question whether or not they should be part of the worldview espoused by the masses. Students are also expected to actively explore sports journalism from around the world. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy) The way you approach sports events, the structure you use to communicate them, and the breadth of your sports worldview will be required from time to time.

How can you respond to the high frequency of questions posed to you? Reaction to each lecture, expression of opinion, assertion, etc. 50%. 50% of the quiz assigned at each lecture.

SOC50011

スポーツメディア特論

赤堀 宏幸、小池 隆俊

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 3/Wed.3, 金 4/Fri.4 | キャンパス：多摩
 配当年次：1～2 年次
 備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の政治、経済、文化事象を把握し、これらがスポーツとどう関連付けられるかを根本的な主題としたい。スポーツと政治の関係も追求し、メディアの根本原則も考える。

【到達目標】

オリンピックをはじめ、国際大会や国内プロリーグなどの事例をもとに「スポーツとは何か」「スポーツの真実」「スポーツに可能なもの」などを深く理解する。メディアの歴史を踏まえ、刻々と変化する現在の状況を分析する力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、状況が許せばフィールドワークも取り入れる。新型コロナウイルスの感染状況などによりオンライン授業にする場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	新聞・通信のスポーツ取材のルール	新聞・通信各社がスポーツ取材をするときのルールや記者クラブシステム、プレスルームの運営、幹事社制度【担当：赤堀先生】
2 回	スポーツメディアとメディアスポーツ	アスリート、イベントがあって、メディアが存在する一方で、メディアとスポーツイベントが共存共栄の図式もある【担当：赤堀先生】
3 回	オリンピックとマスメディア	オリンピックを報道するマスメディアと大会の規模、競技・開催の変遷【担当：赤堀先生】
4 回	メディアと競技種目、公開競技の関係	オリンピックの競技種目、公開競技開催とメディアの関係（今昔）【担当：赤堀先生】
5 回	スーパーボウルとイングランドのプレミアリーグ	欧米のスポーツメディアとメジャースポーツの関係の大きさ【担当：赤堀先生】
6 回	イチロー、松井秀喜、松坂大輔と日本のスポーツメディア	メジャーリーグベースボール（MLB）にイチローが進んで以降の日本のスポーツメディアの変化【担当：赤堀先生】
7 回	日本国内、海外のスポーツ報道の速報性	スポーツの結果報道の新聞、電波という報形態から、より速報性で効果のあるネットメディアへの変遷【担当：赤堀先生】
8 回	スポーツメディアの変遷と現在地	新聞がスポーツを伝え始めたのがおよそ 140 年前、その後ラジオが普及し、さらに映像を加えたテレビが黄金時代を迎えた。しかし近年はインターネットの登場でテレビの存在も揺らぎ始めた。メディアの変遷の歴史と各メディアが融合を加速させている現在地を整理する。【担当：小池先生】
9 回	スポーツとテレビ、そして OTT	スポーツ団体、テレビ、スポンサー、このトライアングルがスポーツをビッグイベントに押し上げた。巨額の放映権に絡みルール変更や競技時間変更などの事態も生じた。さらに OTT の登場で放映権料の高騰に拍車がかかっている。【担当：小池先生】
10 回	メディアによるスポーツの商業化とアマチュアリズムの消滅	スポーツメディアの発展はスポーツのプロ化を促した一方で、近代オリンピックにおいてその精神が受け継がれてきた「アマチュアリズム」を消滅させて行く。スポーツの発祥と進展の歩みを知る。【担当：小池先生】

11 回	スポーツドキュメンタリー	スポーツ報道の中核の一つにドキュメンタリーがある。選手が勝負の瞬間に何を考え、どんな過程を経たのかを解き明かす手法は、受け手に驚きと納得感を与える。先駆けとなった作品やその後の秀作を例に挙げながらスポーツドキュメンタリーを読み解く。【担当：小池先生】
12 回	イノベーションがスポーツを変える	カメラの高度化や解析システムの発達、CG 技術の進化などによるイノベーションはスポーツの見方を変え、競技力向上や戦略にも大きな影響を与えている。刻々と変化する現状を洞察する。【担当：小池先生】
13 回	誰もがメディアになる時代	SNS で選手が自ら情報を発信することは近年日常的になっている。マスメディアに頼るのではなく SNS によるセルフプロデュースの動きも盛ん。情報発信の変化を捉え、そこから生じる問題点にも目を向ける。【担当：小池先生】
14 回	スポーツメディアの近未来	インターネットがメディアの中心的存在となる中、既存メディアもネット展開を加速させている。また、5G の実用化に伴い新し映像技術が開発されその進歩は目覚ましい。スポーツメディアの近未来を展望する。【担当：小池先生】

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツ関連のニュースを複数のメディアで常時チェックしておく。加えて政治、経済等社会全般の動向や世論の変化を敏感にとらえておくこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、新聞、書物などを持参する場合がある。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価する。課題は前半赤堀、後半小池からそれぞれ提示する。

【学生の意見等からの気づき】

直近の出来事を授業で取り上げることで、好評を得ている。今後も随時タイムリーな話題を取り上げていきたい。

【その他の重要事項】

大きなトピック、世界を揺るがすスポーツ事象などは常に起こる可能性がある。それを勘案すれば、必ずしもシラバス通り、計画通りにいかない場合もある。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces the relationship of the sports and the economythe culture and especially the politics in the world.It also deals with what the mass medeia should be.

【Learning Objectives】 The objectives of this course are to gain an in-depth understanding on Sports and Media by examining cases from the Olympics Games and other international competitions.

【Learning activities outside of classroom】 Always check sports news on multiple media while paying attention to the societal trends in general such as politics and economy.

【Grading Criteria/Policy】 Students will be evaluated based on their reports. Themes of the reports will be presented by each instructor.

SOC500I1

スポーツ消費者行動特論

吉田 政幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本特論において、受講者はスポーツ消費者の意思決定過程における心理と行動について理解を深めるため、それらと関係した理論とそのスポーツへの応用を幅広く学習する。

【到達目標】

1. スポーツプロダクトの特性とそれを消費するスポーツ消費者について説明できる。
2. スポーツ消費者の意思決定過程を認知、魅力、愛着、忠誠の段階に分けて説明できる。
3. スポーツイベントにおける顧客満足的重要性を説明できる。
4. スポーツ消費者が形成する社会的アイデンティティについて説明できる。
5. スポーツブランドがスポーツ消費者に与える影響を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者は事前に配付資料を読み、各トピックについて予め疑問や問題意識を準備して授業に臨まなければならない。授業はディスカッション形式であり、受講者の参加を前提としている。

また感染症などの社会情勢により、授業計画、授業の方法、成績評価の方法を変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	授業の目的、概要、進め方について説明を受けるとともに、スポーツ消費者行動の定義と特性を理解する。
2 回	スポーツプロダクトとスポーツ消費者	スポーツ参加者およびスポーツ観戦者がスポーツ経験に対してどのような興味を抱き、どのように動機づけられているかを理解する。
3 回	スポーツ消費者の動機因子	スポーツ参加者およびスポーツ観戦者がスポーツ経験に対してどのような興味を抱き、どのように動機づけられているかを理解する。
4 回	スポーツ関与	スポーツとの関わり方は人によって異なる。これをスポーツ関与と呼び、その強さはスポーツの (1) 重要性、(2) 娯楽性、(3) 記号性によって決定する。これらの 3 つの側面を通じてスポーツに関与すると、結果的に消費者行動がどのように変化するか理解を深める。
5 回	スポーツ消費者の意思決定過程：認知と魅力の段階	スポーツに興味・関心の低い者が、特定のスポーツ対象（選手、チーム、リーグ、イベントなど）を認知し、やがてそれらに魅力を感じるようになる意思決定過程について学習する。
6 回	スポーツ消費者の意思決定過程：愛着と忠誠の段階	スポーツ参加者やスポーツ観戦者が熱心な愛好者やファンへと成長する過程において、特定のスポーツ対象（選手、チーム、リーグ、イベントなど）が個人の自己概念の中にどのように取り込まれ、アイデンティティの形成に至るかを理解する。
7 回	スポーツイベントと顧客満足	時には「負け」を前提に事業を展開しなければならないスポーツビジネスにおいて何故顧客満足が重要なのかを理解するとともに、スポーツイベントで提供されるサービス経験の質を高めることが顧客満足の向上につながることを理論的に学習する。
8 回	スポーツ消費者の顧客ロイヤリティ	スポーツ消費者が特定のスポーツプロダクト、組織、イベントなどに継続的に愛顧心を頂き、それらと支援的な関わりを持つようになる現象を、顧客ロイヤリティの点から学ぶ。

9 回	スポーツ消費者とブランド	スポーツブランドにどのような付加価値が備わっているかを理解するとともに、それらの高め方と高めた結果期待できる競争優位性について学習する。
10 回	スポーツ組織の社会的責任とスポーツ消費者	成熟社会において人はより良く生きるためスポーツに対して個人的な恩恵だけでなく、より社会的なレベルの効果を求めるようになる。そのような社会において、スポーツ組織が果たすべき社会的責任について考える。
11 回	スポーツ消費者の社会的アイデンティティ	スポーツ消費者は様々なスポーツ対象（特定種目、選手、チーム、リーグ、イベント、地域など）を社会的アイデンティティとして自己概念の中に取り込むことで自分が何者なのかを確認している。ここではスポーツを通じて社会的アイデンティティの形成について学びを深める。
12 回	ブランドコミュニティと集团的ロイヤリティ	特定のスポーツブランドに対して愛着を持つスポーツ参加者やスポーツ観戦者が仲間意識を抱き、消費者同士の心理的つながりが強化されることで観測される集団レベルの行動について学習する。
13 回	スポーツ消費者とスポーツスポンサーシップ	今日、スポーツとそれを支援するスポンサーとのパートナーシップを通じて様々な価値が創造され、スポーツ界の発展に貢献している。ここではスポーツ組織、スポンサー、消費者の三者がどのように関わることでスポンサーシップが促進されるかについて学びを深める。
14 回	スポーツ消費者とウェルビーイング	人々はスポーツの消費を通じて日々の生活や人生を豊かにしている。授業ではスポーツ消費者行動とウェルビーイングの関係性について深く理解する。併せて、これまでの学習内容を振り返るとともに、今後のスポーツ消費者行動論の方向性について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は事前に配付される資料を読んで内容を予習するとともに、予め疑問や感想を持った状態で授業に出席しなければならない。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回、資料を配付する）。

【参考書】

仲澤眞・吉田政幸（編著）（2017）よくわかるスポーツマーケティング。ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

1. 前半の内容に関するレポート（関与、PCM、顧客満足、顧客ロイヤリティなど）：50 点
2. 後半の内容に関するレポート（社会的 ID、ブランド、社会効果、スポンサーシップなど）：50 点

【レポートの評価基準】

- 5 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文法的にも論旨を明確に伝えることができている。
- 4 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、問いに対して合理的な説明を加えている。
- 3 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。
- 2 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いつながりながら書いている。
- 1 点：授業の内容を踏まえて書いている。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解が進むように、授業では身近な日本のスポーツの事例も紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

マイクロソフトオフィスを使用できるノートパソコンなど

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

This is an advanced course of sport consumer behavior at the master's level. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply important constructs and theories related to sport consumers. (Learning objectives)

The goal of this course is to understand the psychology and behavior of sport consumers including both sport participants and sport spectators. (Learning activities outside of classroom)

Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters. (Grading criteria)

Grading will be decided based on mid-term report (50%) and final report (50%).

MAN5001I

スポーツフィールドスタディー演習

伊藤 真紀

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1~2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ消費者のニーズや特性を理解するための市場調査を実際に行う。

【到達目標】

1. 量的な市場調査における質問項目および調査計画を適切に作成することができる。
2. 量的なアンケート調査を実施し、結果をまとめることができる。
3. 質的な市場調査における質問項目および調査計画を適切に作成することができる。
4. 質的なインタビュー調査を実施し、結果をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ組織は多様化するスポーツ消費者のニーズやライフスタイルに応じたサービスの提供を提供しなければならない。本授業はスポーツ消費者のニーズの理解において欠かすことのできない市場調査および解析の手法を学ぶとともに、実際の調査をとおして学習内容を実践経験へとつなげることが目的である。受講者はスポーツメーカー、プロスポーツチーム、フィットネスクラブなどのスポーツ消費者から収集したデータを解析し結果を報告することで、現場における課題の解決に資する証左の提示方法を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	スポーツマネジメント現場の課題	スポーツマネジメント現場の実務担当者が持つ課題を特定し、その解決においてどのようなデータが必要とされているのか理解する。
2 回	社会調査の種類	量的なアンケート調査と質的なインタビュー調査の特徴をそれぞれ理解し、調査の目的に応じて使い分けられることのできる判断力を身に付ける。
3 回	質問項目の作成	量的なアンケート調査において設定する必要のある人口動態的特性、心理的特性、行動的特性、関係的特性などに関する質問項目について学び、自ら作成する。
4 回	調査票の作成	調査票の説明および依頼文の作成に加え、回答者が答えやすい質問項目のデザインやレイアウトを学び、さらにアンケートにおける共通手法分散バイアスや疲労バイアスなどの制御方法についても学習する。
5 回	標本抽出方法	社会調査における標本抽出方法について、確率抽出法と非確率抽出法の二種類から学びを深め、各自の調査に適したサンプリング方法を選択する。
6 回	量的データの入力	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリ変数の作成などを、エクセルと SPSS を用いて学習する。
7 回	量的データの記述統計	実際に収集したデータを用いて、度数分布、平均値、標準偏差、クロス集計などの記述統計について学習する。
8 回	心理的要因の分析	信頼性と妥当性の検証を必要とする心理的要因の分析方法について学ぶとともに、これらの要因間の関係性を分析する。
9 回	図表の作成	記述統計と心理的要因の分析結果を、エクセルによってグラフや表にまとめる。
10 回	質的インタビューの質問項目の作成	質的なインタビュー調査の質問項目を帰納的アプローチから作成する方法を学習する。
11 回	質的データの分析方法	質的データを分析するため、テキストデータの切片化、コーディング、カテゴリ化、類型化について学習する。

12 回	質的データの分析の実施	テキストデータの切片化、コーディング、カテゴリ化を実際に行う。併せて、収集した質的データの分析結果をエクセルの表やパワーポイントの図などでまとめる方法を学ぶ。
13 回	プレゼンテーションの準備	収集した量的データと質的データの分析結果をパワーポイントスライドとしてまとめる。
14 回目	プレゼンテーション	学期を通じて実施した量的研究と質的研究の結果を、パワーポイントを用いて発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外の課題として質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の集計などが順番に出題されます。これらに計画的に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

J リーグスタジアム観戦者調査（日本プロサッカーリーグ）
スポーツ白書（笹川スポーツ財団）

【成績評価の方法と基準】

課題 1（調査票の作成）：25 点

課題 2（アンケート調査の実施および結果の分析）：25 点

課題 3（インタビュー調査の実施および結果の分析）：25 点

課題 4（調査レポート）：25 点

【評価基準】課題 1~4 の評価基準は以下とする：

25 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から課題に取り組んでおり、導き出した解答も課題に対して的確に答えている。

20 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から課題に取り組んでいる。

15 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら課題に取り組んでいる。

10 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえて課題に取り組んでいる。

5 点：指定の形式に沿って書いている

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論を基に履修者がより深く考えるように進めていきます。

【Outline (in English)】

Learning Objectives

Sports organizations must provide services according to the needs and lifestyles of diversifying sports consumers. The purpose of this class is to learn the market investigation and analysis method indispensable in understanding the needs of sports consumers and to connect learning contents to practical experience through actual investigation. Students will learn how to present evidence that will contribute to solving problems at the practical environment by analyzing data gathered from sports consumers such as sports makers, professional sports teams and fitness clubs and reporting the results.

Learning activities outside of classroom

As assignments outside of class, Students will be asked creating research questionnaires, drafting a survey plan, conducting the survey, and tabulating the results.

Assignment 1 (Creating a questionnaire): 25 points

Task 2 (Conducting a questionnaire survey and analyzing the results): 25 points

Assignment 3 (implementation of interview survey and analysis of results): 25 points

Assignment 4 (Survey report): 25 points

Grading Criteria / Policy

The evaluation criteria for tasks 1 to 4 are as follows:

25 points: In accordance with the designated format and based on the contents of the class, the keywords are used correctly, and the problem is tackled from a unique point of view, and the answers derived are also accurate answers to the problem.

20 points: Following the designated format, based on the content of the class, using keywords correctly, and working on the assignment from your own unique perspective.

15 points: In line with the designated format and based on the content of the class, students are working on assignments using keywords correctly.

10 points: Working on the assignment according to the designated format and based on the contents of the class.

5 points: Writing according to the specified format

MAN5001I

スポーツマーケティングリサーチ演習

井上 尊寛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、研究や実務においても重要となるデータマイニングやテキストマイニングといった定量的な情報の扱い方について理解を深めていく。具体的にはマーケティング実行のプロセスの基礎的な情報である消費者の行動や特性を把握するための実践的な能力を身に付ける。

【到達目標】

マーケティングをおこなううえで、経営上の課題を発見し、解決するための方法（リサーチデザイン・分析および統計解析の手法）を理解していること、さらにはリサーチを自ら活用（実務者の立場からのインプリケーションを行うこと）する能力を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、講義部分としてマーケティングリサーチの概要および統計的な分析の手法を学んだうえで、演習として我が国を代表するプロスポーツであるプロ野球や J リーグなどの実際のプロスポーツ興行に会場した観戦者を対象とした定量調査を実施し、調査の手法についての学習および得られたデータの解析をおこなうものである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	マーケティングリサーチの概要	マーケティングリサーチの概要及びリサーチのプロセスについて解説する
2 回	課題設定	スポーツビジネスにおける経営的な課題を考え、調査すべき課題について検討していく
3 回	調査の種類	国内外の調査研究から調査の事例や、尺度について解説していく
4 回	定量データの扱い方①	SPSS について、基礎的な使用法について解説する
5 回	定量データの扱い方②	基礎集計（度数分布、記述統計、平均値、中央値）について学習する
6 回	定量データの扱い方③	t 検定および χ^2 検定、一元配置の分散分析について学習する
7 回	定量データの扱い方④	二元配置の分散分析、重回帰分析について学習する
8 回	定量データの扱い方⑤	探索的、確認的因子分析について学習する
9 回	定量データの扱い方⑥	テキストデータの解析について学習する
10 回	リサーチデザイン	調査項目の検討や妥当性について検討し、適切な調査を行うための準備を行う
11 回	質問紙調査の作成	各自が設定した課題に対して仮説を設定した質問紙調査の作成および、データ入力後の準備（SPSS のシンタックスの作成等）を行う
12 回	フィールドサーベイ	スタジアム等で調査を行う
13 回	サマリーの作成	得られたデータを入力し、集計作業を行う
14 回	調査報告書の作成	得られたデータからさらに、自らの課題を踏まえ、分析を行い、報告書をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

SPSS については与えられたデータセットから、分析および統計解析の手法について事前の学習と事後の復習を行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度紹介する。

【参考書】

その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業にて課す課題報告（40%）、レポートおよび実査から得られたサマリー報告（60%）などから総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

実査スケジュールを早目に公開し、早めに調整を図っていく

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. (Learning objectives)The goals of this course are set a research subject for a certain theme, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and using analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss. (Learning activities outside of classroom)Before each class, students are expected to read relevant book and articles. (Grading criteria)The grade is comprehensively evaluated by questionnaires (40%), analysis / reports (60%).

SOC50011

スポーツ組織構造特論

伊藤 真紀

サブタイトル：

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間」と「組織」をマネジメントする際の基礎的な知識を学ぶ。スポーツにおける組織論の諸理論を多角的（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論など）に学び、スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基本的な理論を理解する。

【到達目標】

1. マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2. スポーツ組織を効果的にマネジメントするための理論を理解する。
3. 組織論、モチベーション理論、リーダーシップ理論の基礎知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

マネジメントの基本を学修した後、事例を参考にしながらスポーツ組織行動論の基礎を学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2 回	スポーツ組織におけるリーダーシップ 1	リーダーシップ理論について変遷を深く理解する。 1. リーダーシップ特性論 2. リーダーシップ行動論 3. リーダーシップ条件適応理論 4. 変革型リーダーシップ
3 回	マネジメントとは 1 マネジメントの使命	リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。 マネジメントの役割、社会的責任について学習する
4 回	マネジメントとは 2 マネジメントの方法	マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について学習する。
5 回	組織とは スポーツの組織化、ビジネス化	組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を理解し、スポーツ組織における組織形態、経営組織と集団行動（チームのダイナミクス）、組織文化について学習する。
6 回	スポーツ組織のコントロールシステム	スポーツ組織における目的や戦略、経営計画の立案方法および、それらの評価手法について学習する。 組織コミットメント
7 回	スポーツ組織の経営環境と組織開発	スポーツ組織の環境適応、組織デザイン、組織構造について学習する。スポーツ組織における組織変革、組織開発、チームビルディングについて学習する。
8 回	スポーツガバナンス	スポーツ団体ガバナンスコード、中央競技団体のコンプライアンス強化に関する現状と課題について学ぶ。
9 回	アンチドーピングに関する各スポーツ組織の対応について	ドーピング問題に対する世界アンチドーピング機構、国際オリンピック委員会、各国のオリンピック・パラリンピック委員会の動向について学ぶ
10 回	スポーツ組織におけるモチベーション	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。
11 回	人的資源管理政策・施策 職務満足と人事施策	人材マネジメント（HRM）の諸機能、戦略的人的資源管理（SHRM）、職務満足について理解し、人事施策がいかに組織と個人に影響するか、人事管理プロセスを学習する。

12 回	多様性マネジメント	多様性について学習し、スポーツ組織においていかに多様性マネジメントを行うかについて学習する。
13 回	ケーススタディー 1	スポーツ組織におけるマネジメントに関する事例についての資料を事前に配布し、リーディング・アサインメントを課し、授業でグループディスカッション、グループプレゼンテーションを行う。
14 回	プレゼンテーション	スポーツ組織に置けるマネジメントに関する事例について各自で調査し、分析し、プレゼンテーションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎授業の復習を行い、次週に授業に備えて下さい。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

「マネジメント【エッセンシャル版】基本と原則」（P.F. ドラッカー著）ダイヤモンド社

Managing Organizations for Sport and Physical Activity" Third Edition. Chelladuai, P. Holcomb Hathaway, Publishers

【成績評価の方法と基準】

成績は、リアクションペーパーの内容（20%）、レポート（30%）、プレゼンテーション（50%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Learning activities outside of classroom

Students will learn the basic knowledge necessary in managing "human resource" and "organization". You will study the various organizational theory in sports from different perspectives (management organization theory, human resource management theory, management theory, management strategy theory, leadership theory, motivation theory, etc.), and understand the basic knowledge to effectively manage sports organizations.

Learning activities outside of classroom

Compile a report related to the theme covered in class.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated on the content of the reaction paper (20%), report (30%), and presentation (50%).

HSS500I1

スポーツコーチング学特論

苅部 俊二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ競技者育成のためのスポーツコーチング、また生涯スポーツのためのコーチングについてその本質と理論を理解し、その実践法を探索する。

【到達目標】

効果的なスポーツコーチングの実践のために必要な専門的知識を習得し、応用する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

球技スポーツ、個人スポーツなど様々な競技スポーツやレクリエーションスポーツなどの生涯スポーツに関するコーチングの方法や実践に関する論文や文献を読み解き要約を行う。さらにそれらについて自身の考えを述べるとともにディスカッションを行い、その内容をまとめる。また、実際のコーチングの問題、課題を検討するために、フィールドワークや事例報告などのフィールドスタディを実施し、プレゼンテーションによる発表、報告を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツコーチングとは	スポーツコーチングの本質を理解する。国内外のスポーツコーチングの実際について理解する。
第 2 回	スポーツコーチングの方法① (球技系・集団型スポーツ)	競技型スポーツコーチングの理論を習得する。 球技系・集団型スポーツのコーチングについてその理論と実践方法を事例から検証する。
第 3 回	スポーツコーチングの方法② (個人型スポーツ：競争型・対人型)	個人型（競争型・対人型）スポーツのコーチングについてその理論と実践方法を事例から検証する。
第 4 回	スポーツコーチングの方法③ (生涯スポーツ)	生涯スポーツコーチングの理論を習得する。 レクリエーションスポーツのコーチングについてその理論と実践方法を事例から検証する。
第 5 回	コーチングに必要なスキル	リーダーシップ、コミュニケーション能力などコーチングに必要なスキルについて理解を深める。
第 6 回	コーチングの実践① (技術)	技術面から見たコーチング実践について理解を深める。
第 7 回	コーチングの実践② (体力)	体力面から見たコーチング実践について理解を深める。
第 8 回	コーチングの実践③ (戦術)	戦術面から見たコーチング実践について理解を深める。
第 9 回	コーチの心理	競技者の心理を理解したうえでコーチの心理について考える。
第 10 回	コーチング哲学	コーチの持つべき哲学について検討する。
第 11 回	コーチング倫理・危機管理	コーチの持つべき倫理・危機管理について検討する。
第 12 回	系統的指導プログラムの構成① (競技スポーツ)	競技スポーツのトレーニングプログラムの作成、発表を行う。
第 13 回	系統的指導プログラムの構成② (生涯スポーツ)	生涯スポーツのトレーニングプログラムの作成、発表を行う。
第 14 回	スポーツコーチング研究方法	スポーツコーチングの研究手法、データの解析方法を習得する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文検索サイトや図書館検索システムを利用しコーチングに関する論文や文献を読み、要約しておくこと。

準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に設けないが、適宜論文や文献を使用する

【参考書】

コーチングの心理 Q & A 不味堂

スポーツトレーニング理論 ブックハウス HD

【成績評価の方法と基準】

授業状況（70%）および授業内に行う課題レポート（30%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生にとって有意義な講義となるよう努めます。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The aim of this course is to gain in-depth knowledge of sports coaching and to learn how to develop one's own coaching style.

【到達目標（Learning Objectives）】

The goal of this class learns necessary expertise for practice of effective sports coaching and develops ability to apply.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Final grade will be calculated according to the following process: short reports (30%) and usual performance score (70%).

HSS500I1

スポーツ運動学特論

平野 裕一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ科学に立脚したスポーツ・運動の指導が求められている。これまでの科学的知見からスポーツ・運動の指導対象者のからだの理解と対象者ごとの指導方法・内容を学ぶ。

【到達目標】

指導対象者のからだの特徴を理解し、その指導方法・内容を選択・活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

興味のある対象者にスポーツ/運動指導を行った文献を学生に選んでもらい、要約してプレゼンテーションしてもらおう。指導対象者ごとの特徴、指導環境の特徴、指導方法・内容の特徴、それぞれの理解を促し、ディスカッションを活用して双方向の講義にする。

プレゼンテーションの内容は学習支援システムの「授業内掲示板」に掲示して共有できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	スポーツ・運動の指導における留意点 1	・対象者のライフステージの理解 ・対象者のからだの特性の理解
2 回	スポーツ・運動の指導における留意点 2	スポーツ科学に立脚した指導の理解
3 回	指導対象者の理解（性別）	女性を指導する際の特徴の理解
4 回	指導対象者の理解（年齢）	幼児を指導する際の特徴の理解
5 回	指導対象者の理解（年齢）	思春期生徒を指導する際の特徴の理解
6 回	指導対象者の理解（年齢）	中高年者を指導する際の特徴の理解
7 回	指導対象者の理解（体力レベル） 1	脆弱者を指導する際の特徴の理解
8 回	指導対象者の理解（体力レベル） 2	パラアスリートを指導する際の特徴の理解
9 回	指導対象者の理解（体力レベル） 3	アスリートを対象とした指導の特徴の理解
10 回	指導環境の理解 1	自然環境の影響を理解する
11 回	指導環境の理解 2	人工環境の影響を理解する
12 回	指導環境の理解 3	社会環境の影響を理解する
13 回	指導方法・内容の特徴 1	性別とその指導方法・内容を理解する
14 回	指導方法・内容の特徴 2	年齢とその指導方法・内容を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた対象者に関する先行研究を事前に読んで、内容をプレゼンするためのパワーポイントスライドを作成する。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

その都度参考書、先行研究を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

指導対象者を選択し、その指導に関するレポート（60%）、レポートのプレゼンテーション（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

バイオメカニクスに限らず、身体運動に関わる多くの分野の論文を輪読する

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンのための PC、PPT

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】**【Course outline】**

The purposes of this class are to learn the feature of physical construction and function on the various subjects and to find the procedures/contents of the training for each subject.

【Learning Objectives】

Objectives are to understand the procedures/contents of the training for various subjects, and to use these findings in the own research design and also in the training guidance.

【Learning activities outside of classroom】

Students search the reference in which physical training is conducted for the attractive subject and make the PPT slides for presentation.

【Grading Criteria/Policy】

Contents of the selected reference (60%) and presentation skill (40%)

HSS500I1

スポーツバイオメカニクス特論

平野 裕一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツにみられる動作を記録し、分析し、評価するのがスポーツバイオメカニクスである。そのための動作の計測法、分析法を学び、評価を検討する。

【到達目標】

- ・計測法の原理を理解する。
- ・計測法の活用を理解する。
- ・身体運動の計測・分析計画を立てられるようになる。
- ・身体運動を計測・分析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・バイオメカニクスの計測法を受講学生で分担し、それぞれその原理・活用を調べてプレゼンする。
- ・学んだ計測法を活用してスポーツでみられる身体運動を受講学生が選択し、計測・分析の計画を立てる。
- ・計画に基づいて実際に計測・分析し、フィードバックプレゼンをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	・講義の進め方の説明 ・身体運動の計測法の紹介 ・参考図書の紹介	計測法を分担し、原理・計測・分析法の調べ方を指示する
2 回	映像による計測法	高速度ビデオの原理、それを用いた映像による身体運動の計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
3 回	Motion Capture 法	Motion Capture 法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
4 回	ゴニオメータ法	ゴニオメータ法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
5 回	GPS 法	GPS 法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
6 回	超音波法、MRI 法	超音波法、MRI 法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
7 回	フォースプラットフォーム法	フォースプラットフォームの原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
8 回	ストレインゲージ法	ストレインゲージ法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
9 回	加速度計法	加速度計法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
10 回	筋電図法	筋電図法の原理、計測・分析法のプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
11 回	スポーツでみられる身体運動の計測・分析（歩、走）	歩、走動作のポイントを理解した上で、計測・分析の計画を立て、実施する
12 回	スポーツでみられる身体運動の計測・分析（跳）	歩、走動作の分析結果をフィードバックする。跳動作のポイントを理解した上で、計測・分析の計画を立て、実施する
13 回	スポーツでみられる身体運動の計測・分析（投、打）	跳動作の分析結果をフィードバックする。投、打動作のポイントを理解した上で、計測・分析の計画を立て、実施する
14 回	スポーツでみられる身体運動の計測・分析のまとめ	投、打動作の分析結果をフィードバックする。計測・分析のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・割り当てられた計測法の原理、計測・分析法を準備学習として調べ、プレゼンの準備をする。
 - ・割り当てられた身体運動の計測・分析の計画を立てて、プレゼンの準備をする。
 - ・割り当てられて計測した身体運動を分析し、フィードバックの準備をする。
- 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・「バイオメカニクス 身体運動の科学的基礎」金子公有、福永哲夫編、杏林書院

【参考書】

- ・「スポーツバイオメカニクス」深代千之ほか編著、朝倉書店
- ・「スポーツバイオメカニクス 20 講」阿江通良、藤井範久、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

- ・身体運動の計測法のプレゼン 40 点
- ・身体運動の分析結果のフィードバック 60 点

【学生の意見等からの気づき】

多様な分野の院生がいるので、講義開始時の説明をさらに理解しやすいものにする

【学生が準備すべき機器他】

プレゼン、分析、フィードバックのための PC

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

Principles and operations are introduced on several biomechanical machines, and then, human motions, especially sport motions, are measured and analyzed by using these biomechanical machines.

【Learning Objectives】

Objectives are to master the operation technique of biomechanical machines, and to measure and analyze the sport motion.

【Learning outside of classroom】

Students investigate the principle of measurement and present the analyzed data by using PPT slides.

【Grading Criteria/Policy】

Presentation of measurement procedure (40%) and feedback of the data obtained (60%)

HSS500I1

スポーツトレーニング学特論

NEMES ROLAND JANOS

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 5/Wed.5 | キャンパス：多摩
 配当年次：1～2 年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツの基本となる体力要素のトレーニング方法としてストレングス・コンディショニングトレーニングを中心に、様々なトレーニング方法に対する身体の諸適応およびその機序を学習する。対象・目的に応じた適切なトレーニングプログラムを作成するための基礎理論や各種スポーツ現場への実践のための段階的プログラミングについても学ぶ。

【到達目標】

筋力、パワー、全身持久力、スピード、協調性、柔軟性などの各種トレーニング理論と方法論について理解、具体的なプログラミングを行うトレーニングを推進するための適切な目標と課題の設定およびプログラム立案方法を理解、実践する傷害の評価および指導対象の評価とあわせて対象者に適切な運動処方を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

運動処方・運動療法として行われるプログラムの立案と実施における原理・原則、エクササイズの特性とその効果、各年代におけるトレーニングの注意点や個人差の要因等について、科学的根拠に基づき講義・議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	授業概要、基礎的知識の確認、原理・原則
2 回	コーチングとトレーニング	コーチング学、コーチング現場とトレーニング学の関係
3 回	トレーニングの基礎	様々な能力、スキルについて学ぶ
4 回	アスレチック的な能力の評価	測定方法や目的について学ぶ
5 回	ジュニア世代におけるフィジカルトレーニング	トレーニングにおける年代別、競技レベル別考え方
6 回	トレーニングモデルと漸増負荷性の原理	トレーニング負荷、様々な方法、順序について学ぶ
7 回	トレーニングのための準備	一般と専門的体力トレーニングについて学ぶ
8 回	効率的な運動運動のためのモーターパターン化	効率が良い運動パターンについて学ぶ
9 回	コアトレーニングについて	コアとコアの安定化と強化について学ぶ
10 回	トレーニングの基本期分け（ピリオダイゼーション）	ピリオダイゼーションにおける様々な考え方について学ぶ
11 回	柔軟性	柔軟性の最適化について学ぶ
12 回	球技のピリオダイゼーションにおける近代的な考え方	戦術的なピリオダイゼーション（タクトイカル）とブロックピリオダイゼーションについて学ぶ
13 回	技術・戦術トレーニング	トレーニングと技術や戦術の関係について学ぶ
14 回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

機能解剖学、生理学等基礎的知識の確認。海外の論文の翻訳・紹介。自身の経験から各種トレーニングを考察する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の際に紹介する

【参考書】

トレーニングのための生理学的知識. 市村出版
 競技力向上のトレーニング. 大修館書店
 スポーツコーチング学. 西村書店
 ストレングストレーニング&コンディショニング. ブックハウス・エイチデイ
 トレーニングの科学的基礎. ブックハウス・エイチデイ
 測定と評価 現場に活かすコンディショニングの科学. ブックハウス・エイチデイ

High-Performance Training for Sports. Human Kinetics

【成績評価の方法と基準】

2 回プレゼンテーション（1 回 25%）、試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline

The main goal of the course is to gain a general understanding of basic physiology and methodology in sports training science. Training and conditioning will be presented by a practical coaching point of view. Students are required to discuss and present related research papers.

Learning Objectives

The goals of this course to

1. understand the various training theories and methodologies for strength, power, total body endurance, speed, coordination, flexibility, etc.;
2. learn about appropriate goal and task setting and programming methods to promote training with specific programming; evaluate injuries to be practiced and exercise prescription appropriate for the subject in conjunction with evaluation of the subject to be taught.

Learning activities outside of classroom

Confirmation of basic knowledge of functional anatomy and physiology.

Translation and introduction of foreign papers.

Preparation and review time for this class, which discusses various types of training based on his/her own experience, will be 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Two presentations (25% each), final exam (50%)

HSS500I1

発育発達学特論

高見 京太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

乳幼児期から高齢期までのヒトの一生にわたる心身の変化について理解し、各時期における健康課題を明らかにすることで、その解決方法を探る。特に学童期から中・高生期においては、学校教育の中での保健体育科目を通じた運動実践や健康づくりについて追求する。また、中年期以降は加齢・老化と身体活動との関係をもとに、生活習慣病予防について議論する。

【到達目標】

- ・発育・発達、加齢に伴う身体変化について理解する。
- ・科学的根拠に基づいた健康教育や対策について検討できる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

人の誕生から成長、成熟、老化といったライフステージに沿って、その過程を概観し、生涯における心や身体、健康や体力の変化の現象を明らかにする。授業は、講義による基本的知識の共有した上で、受講者が準備した各回のテーマに沿った話題について受講者全体で討論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	用語の定義をして、発育期発達の区分を確認し、その評価方法を理解する。
2	発育発達の見方・とらえ方	身長や体重など、様々な発育曲線の読み方を学習し、早熟と晩熟、生活環境、運動能力などとの関係性を考察する。
3	発育曲線	発育発達や関連分野の論文等でしばしば引用されるスキヤモンの発育発達曲線が、どのように作られたかを理解し、その解釈を議論する。
4	発育期の肥満と痩せ	種々の身体組成測定法の原理を学んで、年代ごとの肥満と痩せの判定や骨格筋量の変化について理解する。
5	発育期の体力・運動能力	体力を定義し、発育期に身につけるべき体力と運動能力について理解する。
6	新体力テスト	世代ごとに定められた測定種目について、背景やねらい、特徴を理解し、新体力テストの範疇外となる幼児期の体力テストについて、歴史的変遷を理解し、現在の状況を知る。
8	子供の体力の提言	現在の子供の体力の現状を知るとともに、文部科学省や厚生労働省、また日本学術会議などが発表している指針や提言を理解する。
9	発育期の体力の変遷	発育期の体力の変遷について、論文や国・自治体が発表しているデータをもとに考察する。
10	発育期の生活習慣の変遷	発育期の生活習慣の変遷について、論文や国・自治体が発表しているデータをもとに考察する。
11	発育期の健康状態の変遷	発育期の健康状態の変遷について、論文や国・自治体が発表しているデータをもとに考察する。
12	発育期の健康関連指標との関係	発育期の健康関連指標を理解し、体力や身体活動量との関係を考察する。
13	発育期の身体活動量のガイドライン	国内外の発育期の身体活動のガイドラインについて理解する。
14	発育発達の関連話題	各自の研究テーマと関連付けた発育発達の話題を紹介し、互いに議論して、幅広い視野で発育発達を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて下調べを行う。また、話題提供の担当となった回には、討論のテーマと必要時応じて資料を用意する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はしない。講義内容との関連で、参考となる資料を配布していく。

【参考書】

その都度紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況 80 %
課題レポート 20 %

【学生の意見等からの気づき】

各受講者の研究テーマと関連を持たせるように、授業内容を工夫する。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students acquire to be able to understand the physical and mental changes that occur throughout a person's life and clarify the health problems that arise at different times and search for solutions.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To understand growth, development, and physical changes associated with aging.

To be able to consider health education and measures based on scientific evidence.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 20%, in class contribution: 80%

HSS500I1

スポーツ教育学特論

永木 耕介

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校体育を含むスポーツ教育の歴史・課題・展望について理解を深める。

【到達目標】

学校体育を含むスポーツ教育の基礎的知識を修得し、その知識を課題解決へ向けて応用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

広義の「スポーツ」について、概念、歴史、文化的様相を捉えながらその教育的側面を掘出する。次いで、日本の学校体育および国際スポーツの様相を捉えながらその教育的側面を掘出する。さらに、現代のグローバル化したスポーツの様相を捉えながら日本の学校体育/地域スポーツの今日的課題と今後の展望について議論する。特に後半では受講生の参加による議論を促し、レポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	本授業のスケジュール、ねらい、概要、評価等について受講生に説明する。
2 回	スポーツ・体育とは何か	スポーツと体育の概念について、これまでの日本での捉え方を含めて解説する。
3 回	スポーツの歴史①	未開～古代のスポーツについて概説し、その教育的側面を論じる。
4 回	スポーツの歴史②	前近代～近代のスポーツについて概説し、その教育的側面を論じる。
5 回	スポーツの歴史③	日本の江戸期における武術教育について論じる。
6 回	スポーツの歴史④	日本の明治期における体操・欧米スポーツの輸入と定着が学校体育にもたらした影響について論じる。
7 回	嘉納治五郎とクーベルタン	近代オリンピックの主導者・クーベルタンのスポーツ教育思想を、日本体育界の牽引者・嘉納治五郎の体育思想と関連づけながら論じる。
8 回	日本の体育とオリンピック	東京オリンピック（1964 年および幻に終わった 1940 年）について、日本の体育/スポーツ教育への影響という観点から論じる。
9 回	戦後日本の学校体育①	昭和の戦後における学校体育について、学習指導要領の変遷を中心に論じる。
10 回	戦後日本の学校体育②	現代におけるスポーツのグローバル化を捉え、主に学校体育に与える影響について論じる。
11 回	日本における体育授業の現状と課題①	今日の日本における体育授業の現状と課題について、主に学習内容・教材づくりの観点から論じる。
12 回	日本における体育授業の現状と課題②	今日の日本における体育授業の現状と課題について、主に教授法の観点から論じる。
13 回	日本における学校運動部活動の教育的意義および現状と課題	学校運動部活動の教育的意義について歴史的視点から講述し、さらに現状と問題点について地域スポーツのあり方と関連づけながら論じる。
14 回	学校体育/スポーツ教育における道徳教育の可能性	マナー、フェアプレイ、アンチ・ドーピング、責任学習など、学校体育/スポーツ教育が有する道徳教育としての可能性について論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ディスカッションおよびレポート作成のための講義内容の復習と、自己の意見を補足するための文献資料の調査等。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのか（ミネルヴァ書房）、よくわかるスポーツ倫理学（ミネルヴァ書房）、運動部活動の戦後と現在（青弓社）、等。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション等の参加状況（60%）、レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

今年度も少人数制の利点として、各種のトピックについて一歩深い議論を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

今日の学校体育/スポーツ教育は様々な課題や問題点を抱えているが、なぜそうなっているのか、改善するためには何が必要なのか、本授業でそれらを考える知力と見識を養いたい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This class is for students to consider why many subjects in Physical Education/Sports Education, and what is necessary to improve in these subjects.

[Learning Objectives] Acquire the basic knowledge of sports education including school physical education and be able to apply that knowledge to solve problems.

[Learning activities outside of classroom] Collect materials for discussion and reaction paper preparation.

[Grading Criteria /Policy] Participatory attitude (60%), understanding by reaction paper (40%)

HSS500I1

スポーツメンタルトレーニング演習

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 4/Wed.4 | キャンパス：多摩
 配当年次：1～2 年次
 備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、アスリートやスポーツチームのメンタルサポートに資する理論と方法の習得を目的とします。各授業では、アスリートやスポーツチームが抱える心理的諸問題に対する理解、ならびにその対処法となるスポーツメンタルトレーニングやスポーツカウンセリングをはじめとするメンタルサポートの理論と方法に関するテーマに取り組みます。

【到達目標】

1. アスリートが抱える心理的諸問題の改善に資するメンタルサポート（スポーツメンタルトレーニング、スポーツカウンセリング等）の理論と方法を習得する。
2. チームビルディングに資するメンタルサポートの理論と方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本演習では、まずスポーツフィールドで実践される種々のメンタルサポートや心理アセスメントの理論と方法に関する国内外の動向について概説する。次に、1) スポーツメンタルトレーニングならびにスポーツカウンセリングの諸技法の学習、2) 心理アセスメントの体験的学習に取り組む。また受講生は、当該領域に関する国内外の文献を精読し、その内容を抄録にまとめうえで発表し、全体で討議する。なお、授業で取り組むレポートやリアクションペーパー等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、他己紹介	学習目標、単位認定の方法、履修上の注意ならびにアスリートの心理支援について概説する。他己紹介を行う。
2	メンタルサポートの方法	アスリートのメンタルサポートをめぐる諸理論を概観する
3	心理アセスメント	心理アセスメントによる測定・評価について学ぶ
4	スポーツメンタルトレーニング	スポーツメンタルトレーニングをめぐる諸理論を概観する
5	スポーツカウンセリング	スポーツカウンセリングをめぐる諸理論を概観する
6	動機づけの理論と方法	動機づけに関する抄録発表および討議
7	目標設定の理論と方法	目標設定に関する抄録発表および討議
8	リラクゼーションの理論と方法	リラクゼーションに関する抄録発表および討議
9	認知療法の理論と方法	認知療法に関する抄録発表および討議
10	行動療法の理論と方法	行動療法に関する抄録発表および討議
11	事例研究 I	アスリートの実力発揮に関する事例研究

12	事例研究 II	アスリートの心理臨床に関する事例研究
13	事例研究 III	チームビルディングに関する事例研究
14	総括	本授業のまとめを行ない、今後の展望を語る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。その具体的な取り組み内容は次の通りです。

1. 授業はプレゼンテーションおよび討議により構成されるため、各自の研究テーマに関連する最新のトピックスに触れておくことが望ましい。
2. 指定した文献等がある場合には、事前に精読しておくようにしてください。
3. スポーツ場面や日常生活で感じたこと・気づいたことを日々記録することが望ましい。記録した内容が本授業の理解を深める手がかりとなります。
4. テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料・文献等を配布します。

【参考書】

1. 中澤 史「アスリートの心理学」日本文化出版 2016
2. 日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本三訂版」大修館書店 2016
3. 内田 直「スポーツカウンセリング入門」講談社 2011

【成績評価の方法と基準】

次の基準に従い総合評価します。

1. 授業への参画状況、リアクションペーパー：50 %。
2. 課題等の提出物：50 %。

※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。

※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。

※課題等の提出物では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 授業内容に関する説明等を実施するため初回授業から出席してください。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire the fundamental theory and methods to contribute to psychological support of athletes and sport teams.

【Learning Objectives】

1. Learn the theory and method of mental support (sports mental training, sports counseling, etc.) that contributes to the improvement of athletes' psychological problems.
2. Learn the theory and methods of mental support that contribute to team building.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. The specific details of our efforts are as follows.

1. Classes consist of presentations and discussions, so it is advisable to be in touch with the latest topics related to your research theme.
2. If you have any specified documents, please read them carefully in advance.
3. It is desirable to record daily what you feel / notice in sports scenes and daily life. The recorded content will be a clue to deepen your understanding of this class.
4. Get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the contents of this lecture.

【Grading Criteria /Policy】

Comprehensive evaluation is performed according to the following criteria.

1. Participation status in class, reaction paper: 50%.
2. Submissions for various assignments: 50%.

HSS50011

アスレティックトレーニング特別演習

泉 重樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツにおける外傷・障害予防、運動機能評価に基づいた運動療法の実践方法について学習する。アスレティックリハビリテーション、ストレングス&コンディショニングトレーニングの背景となるさらに国内外の研究論文の検討から、最新の研究成果や知見について理解するとともに、エクササイズ自体の実践方法を習得する。

【到達目標】

スポーツ外傷・障害に関する基本的な身体特性の評価方法、予防・改善のためのコンディショニング・リコンディショニングについて学び、実際の研究計画立案のための基礎となる知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

学生の発表を主体とした演習形式で行う。アスレティックリハビリテーション、ストレングス&コンディショニングトレーニングに必要な解剖学的基礎知識（筋・腱・神経等）の復習やスポーツ外傷・障害に対する評価、スポーツ外傷・障害予防・パフォーマンスアップのためのエクササイズに関する文献（論文）精読と発表が中心である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	文献（論文）購読について、機能解剖学知識の確認
2 回	スポーツ傷害予防	緊急対応、安全管理体制、アライメント、関節可動域、筋力評価、スペシャルテスト
3 回	アスレティックリハビリテーション	傷害評価、運動療法、リスク管理
4 回	上肢の評価	手・前腕・肘・肩関節の評価／講義
5 回	上肢の運動療法	手・前腕・肘・肩関節の運動療法／講義
6 回	文献講読：上肢①	手・前腕・肘・肩関節の評価／文献（論文）購読
7 回	文献講読：上肢②	手・前腕・肘・肩関節の運動療法／文献（論文）購読
8 回	体幹の評価	頸部・胸腰椎・骨盤の評価／講義
9 回	体幹の運動療法	頸部・胸腰椎・骨盤の運動療法／講義
10 回	文献講読：体幹①	頸部・胸腰椎・骨盤の評価／文献（論文）購読
11 回	文献講読：体幹②	頸部・胸腰椎・骨盤の運動療法／文献（論文）購読
12 回	下肢の評価	足・膝・股関節の評価／講義
13 回	下肢の運動療法	足・膝・股関節の運動療法／講義
14 回	文献講読：下肢およびまとめ	足・膝・股関節の評価／文献（論文）購読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

機能解剖学・生理学の知識が必須である。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義の際に紹介する

【参考書】

臨床スポーツ医学編集委員会：スポーツ外傷・傷害の理学診断・理学療法ガイド第 2 版（文光堂）

小林直行，成田崇矢，泉重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング（医歯薬出版）

日本スポーツ協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト（財団法人日本体育協会）

広瀬統一他，アスレティックトレーニング学（文光堂）

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み状況（30%）、プレゼンテーション・レポートの取り組み状況（70%）

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表に基づいた議論を演習の中心に置いている。そのため議論が活発になり、双方向性の授業が展開できたと考えている。本年度もこの方法で続けていく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

学生自身の発表の際には、PC とパワーポイント使用による発表が基本になる。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] The purpose of the athletic training seminar is as follows, students study how to practice exercise therapy based on sports injury prevention and motor function evaluation. Students review domestic and international research papers and present the latest research results and findings.

[Learning objectives] Students will learn about evaluation methods related to sports injuries, training and conditioning for prevention of sports injuries, as well as acquire knowledge that will serve as a basis for students to formulate their own research plans.

[Learning activities outside of classroom] Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following, Class presentation: 70%, in class contribution: 30%.

OTR60011

スポーツ健康学演習 I

泉 重樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1 年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課題設定能力を高め、自らの研究テーマであるアスレティックトレーニング、スポーツ医学分野の関連知識と研究方法論を整理し明確にする。

【到達目標】

1. 修士 1 年生対象の研究構想発表会および修士論文の計画の準備ができる力を身に付けることを目標とする。2. 上記に基づき、スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ外傷・障害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果等に関する国内外の文献を検討し、修士論文の研究手法、実践内容について理解を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スポーツ外傷・障害予防を軸に、運動機能評価、アスレティックリハビリテーション、各種トレーニング方法、スポーツ科学、統計解析法などに関する国内外の文献を討議し、論文作成における関連知識と方法論を深く修得する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	論文抄読の概要、各自の研究計画発表
2 回	スポーツ外傷・障害予防に関する論文抄読	① スポーツ外傷・障害予防とはなにかについて論文抄読を通して議論する。
3 回	スポーツ外傷・障害予防とエクササイズに関する論文抄読	スポーツ外傷・障害予防のためのエクササイズに関する論文抄読を通して議論する。
4 回	スポーツ外傷・障害（上肢）評価の論文抄読	上肢のスポーツ外傷・障害評価やエクササイズに関する論文抄読を通して議論する。
5 回	スポーツ外傷・障害（体幹）評価の論文抄読	体幹のスポーツ外傷・障害評価の論文抄読やエクササイズに関する論文抄読を通して議論する。
6 回	スポーツ外傷・障害（下肢）評価の論文抄読	下肢のスポーツ外傷・障害評価やエクササイズに関する論文抄読を通して議論する。
7 回	スポーツ外傷・障害予防・評価：まとめ	これまでみてきたスポーツ外傷・障害予防・評価に関する研究から自身の研究について議論する。
8 回	研究計画発表②	これまでの活動を通して各自の研究計画発表を改めて行う。
9 回	アスレティックリハビリテーション（上肢）の論文抄読	上肢のアスレティックリハビリテーションとエクササイズに関する論文抄読を通して議論する。
10 回	アスレティックリハビリテーション（体幹）の論文抄読	体幹のアスレティックリハビリテーションとエクササイズに関する論文抄読を通して議論する。
11 回	アスレティックリハビリテーション（下肢）の論文抄読	下肢のアスレティックリハビリテーションとエクササイズに関する論文抄読を通して議論する。
12 回	一般的物理療法の論文抄読	物理療法に関する論文抄読を通して議論する。
13 回	東洋医学的物理療法の論文抄読	東洋医学について講義するとともに東洋医学的物理療法に関する論文抄読を通して議論する。
14 回	プレゼンテーション方法	抄録、プレゼンテーションファイル、ポスター作製したものを通して作成方法について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究領域以外の研究にも積極的に触れる姿勢が望まれる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田中喜代次他、身体活動科学における研究方法、NAP
 広瀬統一他、アスレティックトレーニング学、文光堂

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み状況（50%）、プレゼンテーションの取り組み状況（50%）

【学生の意見等からの気づき】

論文抄読と研究計画の進捗とのバランスをとりながら進めていきたい。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] Students are required to clarify their research topics by organizing related knowledge in the field of athletic training and sports medical science.

[Learning objectives] Students review literature on sports injury disability prevention, athletic rehabilitation, and physical therapy to gain a better understanding of their master's research.

[Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

[Grading criteria/policy] Grading will be decided based on lab reports 50%, and the quality of the students experimental performance in the lab 50%.

OTR6001I

スポーツ健康学演習 I

伊藤 真紀

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1 年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツマネジメント領域の研究として修士論文を完成させるために必要となる様々な概念や理論について学習するとともに、先行研究で明らかにされていない研究課題を特定し、自らの研究テーマを設定する。

【到達目標】

受講者は演習を通じて以下の目標に到達する：
 (1) 各自の問題意識に基づいて研究テーマを設定できる。
 (2) 各自が選んだ研究テーマに関連する先行研究を概括し、過去の研究が明らかにできなかった課題を特定することができる。
 (3) 学術的貢献を果たすため、研究の目的、重要性を示すことができる。
 (4) 研究テーマにおける重要概念を正しく定義し、理論的な背景を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スポーツマネジメント関連の重要概念、理論、事例などについて理解を深め、各自の研究テーマを決定するため、授業では様々な重要概念や理論について探究し、どのように自身の研究に応用できるのかについてディスカッションを行う。受講者は毎回事前に配布される資料を読み、議論に参加する準備を行う必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび修士論文の説明	本演習の目的および授業計画や実践内容などについて理解するとともに、修士論文において求められる研究の内容、構成、意義について学ぶ。
2	研究計画の設定	研究遂行に関する講義、併せて再度論文の構成に関する講義を受け、1 年を通して取り組む研究計画を立てる。
3	先行研究を調べる	スポーツマネジメントに関して理解が深まるような研究テーマを設定するため、先行研究を調べ、読む。
4	先行研究をまとめる	スポーツマネジメントに関して理解が深まるような研究テーマを設定するため、先行研究を調べ、読み、まとめる。
5	文献の整理	研究のテーマとなる先行研究の問題を特定するため、15 本～20 本程度の文献を検索し、それぞれの特徴（概念化、測定方法、研究環境）をまとめる。
6	研究の背景	これまでの研究背景をもとに研究課題を設定する。
7	概念的枠組み 1	修士論文研究で扱う重要概念や分析において測定する主要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
8	概念的枠組み 2	修士論文研究で扱う重要概念や分析において測定する主要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
9	概念的枠組み 3	修士論文研究で扱う重要概念や分析において測定する主要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
10	研究の目的	これまでの研究背景をもとに研究課題を設定し、研究の目的を設定する。
11	研究の重要性	自身の研究の必要性・意義・従来の研究との差（独創性）について明確にする。
12	研究の新規性	自身の研究の新規性について明確にする。
13	仮説の設定	仮説を理論的根拠とともに導出する。
14	方法:研究環境および対象	研究環境を設定し、対象とする母集団と標本抽出方法を特定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、しっかりと事前に配布される論文を読んで疑問や感想を書き出し、ディスカッション形式で展開される演習に参加できるように準備してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

先行研究のレビュー、概念図の作成、先行研究の問題の特定、研究目的の設定、研究の重要性の特定、重要概念の定義の各項目を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

修士論文を執筆するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Learning Objectives

Students will learn about the various concepts and theories necessary to complete a master's thesis in the field of sports management. Furthermore, students will identify research issues that have not been clarified in previous research and set their own research themes.

The goals of this course are as follows:

1. Setting the research theme
2. Examination of previous research
3. Research objectives, importance, factor definitions
4. Defining important concepts in a research theme and explain the theoretical background,

Learning activities outside of classroom

For this class, please read the papers distributed well in advance, write down your questions and impressions, and prepare to participate in the exercises that are developed in a discussion format. Review previous research, create a conceptual diagram, identify problems in previous research, set research objectives,

Identify the importance of research and comprehensively judge each item of the definition of important concepts.

Grading Criteria /Policy

Comprehensive judgment will be made on assembling methodologies in line with research themes, research planning, drafting and drafting ethics application forms, etc.

OTR60011

スポーツ健康学演習 I

井上 尊寛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1 年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成のため、研究とは何かということを通して学んでいく。具体的には課題の設定と、問題を解決するための能力や方法を習得することを目的とする。

【到達目標】

初学者として、必要な知識や能力の獲得。
 具体的には以下について修士論文作成に必要な水準の能力の獲得を目指す。
 ・研究倫理の問題
 ・研究の妥当性や信頼性の担保
 ・適切な課題の設定
 ・研究の価値（学術性・新規性）
 ・適切な分析方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、研究者として必要な資質や能力を養うことを目的として進めていく。基本的にはテーマに即した文献や資料を自らでまとめ、プレゼンをおこなう形で進めていくものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	修士論文についての理解	修士論文とはどのような論文であり、いかなる水準が求められるのか十分に理解する。併せて、文献の検索方法について学ぶ。
2 回	スポーツマネジメント領域の捉え方①	スポーツマネジメントとはどのような概念であり、学問として体系だっているのかについて解説する
3 回	スポーツマネジメント領域の捉え方②	スポーツマネジメントの独立性や新規性について理解を深める
4 回	スポーツマネジメントの実践①	スポーツマネジメント研究が現場でどのように用いられているのか事例を用いながら解説する
5 回	スポーツマネジメントの実践②	スポーツマネジメント研究における成果を現場にてどのように用いているのかについて解説する
6 回	スポーツマネジメントに関する研究課題①	スポーツマネジメント領域における主な研究テーマについて解説する
7 回	スポーツマネジメントに関する研究課題②	スポーツマネジメント領域における主な研究テーマ、特に近年の傾向について解説する
8 回	スポーツマネジメントに関する資料・データを読み取る①	先行研究で扱っているデータや分析方法について検討する。
9 回	スポーツマネジメントに関する資料・データを読み取る②	プロ・スポーツリーグやチームの定量的な情報を持ちて、経営的な課題や顧客の行動を検討する
10 回	課題に対する解決方法の検討および提案①	課題に対する適切な分析手法（単純集計、クロス集計、t 検定等）について検討する
11 回	課題に対する解決方法の検討と提案②	課題に対する適切な分析手法（回帰分析、多変量解析等）について検討する
12 回	要因とモデル	先行要因および結果要因を概念図と文章にて説明する
13 回	問題の所在	社会的、学術的な観点から問題の所在について検討する
14 回	研究の目的	何をどこまで明らかにするかについて検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の抄読など予習を必要とする内容が多いため、事前に文献を読む事と、資料をあらかじめ用意しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

研究テーマに関連する先行研究および文献

【成績評価の方法と基準】

期末レポート (30%) および授業への関与状況 (40%)、成果物の評価 (30%) などを踏まえ、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

修士論文を執筆するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【Outline (in English)】

(Course outline) Master's theses are composed of the sections of introduction, literature review, conceptual framework, hypotheses development, method, results, discussion, and conclusion. (Learning Objectives) In this course, following the methodology designed for the master's thesis of each student, s/he will collect data and analyze the results of her/his study. (Learning activities outside of classroom) Before each class, students are expected to analyze data and write the method and result sections. (Grading Criteria/Policy) Grading will be decided based on the quality of writing on the master's thesis the quality of writing on the master's thesis on research setting (20%), measurement (20%), data collection, sample characteristics (20%), and reliability and validity assessments (20%).

OTR6001I

スポーツ健康学演習 I

鬼頭 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1 年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①課題設定能力を高め、自らの研究テーマを整理し明確にする。
 ②研究とは何か、研究計画はどのように組み立て、進めるのかについて、学校保健や健康教育の領域を題材として、理解を深める。

【到達目標】

① 9 月に実施予定の研究構想発表会の準備ができる力を身に付けることを目標とする。
 ②学校保健、健康教育の領域において、児童生徒学生における様々な現代的健康課題を踏まえ、研究テーマを設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学校保健、健康教育の領域において、児童生徒学生にかかわる様々な健康課題があることを認識した上で、どのような先行研究がどのような方法で進められてきたかについて説明する。その上で、受講者が学校保健、健康教育に関する調査報告や研究論文を読み、それらがどのように構成されているのかを理解できるようにする。その都度、レポートまたはプレゼンテーションにより発表する。なお、研究テーマの質の向上を目指すため受講者間での積極的な意見交流を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	学校保健、健康教育領域に関する概論	学校保健、健康教育領域における研究の概要について児童生徒学生の直面する健康課題を交えて紹介し、研究テーマに関する意見交換を行う。
2 回	研究テーマの意見交換	関心のある研究テーマについて意見交換を行い、その意義と実施可能性についてディスカッションする。
3 回	先行研究の検索法	研究テーマに即した文献の検索方法について指導する。
4 回	テーマと関連する先行研究の収集	研究テーマに関連する先行研究をもとに、論文構成を理解するとともに、方法、結果、考察について要約する。
5 回	テーマと関連する総説の読み合わせと課題の抽出	研究テーマに関連する総説の読み合わせにより研究課題の抽出と仮説設定の進め方について議論する。
6 回	様々な研究方法について理解を深める	研究の進め方、質的研究、量的研究について先行研究の論文を踏まえて理解を進める。
7 回	様々な分析方法について理解を深める	様々な分析方法、統計解析の進め方について、進めようとする研究テーマを踏まえ、先行研究をもとに理解を深める。
8 回	結果の書き方について理解を深める	論文における「結果」の記述について、進めようとする研究テーマを踏まえ、先行研究をもとに理解を深める。
9 回	考察の進め方について理解を深める。	考察の進め方、記述法について、進めようとする研究テーマを踏まえ、先行研究をもとに理解を深める。
10 回	研究テーマを抽出する。	進めようとする研究テーマを抽出し、研究計画の概要をまとめる。
11 回	研究テーマの目的と仮説設定を進める上での計画立案	研究テーマの目的及び仮説設定とともに、予備調査、本調査に向けての内容の検討を行う。
12 回	研究テーマの分析方法の検討	統計手法を含め、分析方法について適用の可能性について理解を深める。
13 回	研究計画で予測される仮説及び新規性の検討	先行研究と比較検討し、仮説と新規性の検討を行う。
14 回	研究方法の確立	調査内容から導き出される結果をもとに、仮説の立証が可能であるか意見交換の上、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学校保健、健康教育について日頃から関心を持ち、進めたい研究テーマを探索する。

【テキスト（教科書）】

文献や調査報告を適宜配付

【参考書】

必要に応じて適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況及びレポート（60%）、プレゼンテーション（40%）

【学生の意見等からの気づき】

本演習は集中とはされているが、定例的かつ時間の制約は設けずに実施することで、進捗状況及び課題の把握がより的確にできる。これまでの実績を踏まえ、特に意見交換は十分に行うこととする。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline) The purpose of this course is for students to deepen their understanding of health education and public health.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to acquire the knowledge and skill for teacher of health education.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Reports(50%),presentation on research(40%), in class contribution(10%).

OTR60011

スポーツ健康学演習 I

山本 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1 年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(1) 課題設定能力を高め、自らのテーマを整理し明確にする。
 (2) スポーツ健康学を、学部時代に培った知識に加え、新たな「知見を加えた上で高いレベルに結実させる。緻密で広範な見識を元に、修士論文執筆への基礎的な思考回路や方法論を身につける。

【到達目標】

A. 研究構想発表会の準備ができる力を身につけることが当面の目標である。
 B. そのためには研究を十分に展開できるような日本語力の習得と、先行研究を深いところまで読み込む広範な知識の獲得が欠かせない。
 C. スポーツとその周辺に点在する「魅力」や「問題点」を十分に洞察できるように、「スポーツ」と「健康」およびそれらを取りまく「社会環境」について、互いの連携にも意識をおきながら、体系的に理解する能力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

受講生生の自主的な行動、意欲的な研究、それに旺盛な好奇心が演習の活力を生む。活字と思考の世界に籠もるばかりでなく、社会との接点を広げるために、外の世界との交流のチャンスを積極的に紹介していく。また、試行錯誤を恐れることなく、チャレンジングなテーマ設定をすることで理論形成の基部を安定したものにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	受講生のバックグラウンドの研究の対象を見比べながら、研究に取り組むルートの設定を図る。
2 回	スポーツを取り巻く政治	第二次大戦後のスポーツを取りまく環境が、政治的にどのように変わってきたか。その変遷を確認する。
3 回	スポーツを取り巻く経済	国内外のスポーツが経済、経営に対して、どのように向き合ってきたか分析する。
4 回	スポーツを取り巻く社会	スポーツをする、教える、見る、そして伝える動きがどう関係し合ってきたか、三次元的に総括する。
5 回	自分視点	修士論文執筆を構想した自らの思考回路、テーマ設定が、スポーツ環境の変化の中でどう位置づけられるか検討する。
6 回	テーマの主軸点検①	論文の骨組みを考える。
7 回	テーマの主軸点検②	仮説の妥当性を吟味する。
8 回	資料検索	仮説を検証するデータ、調査法、意見集約、先行研究を注意深くチェックする。
9 回	論文の筋立て構成①	先行研究、現代のジャーナルな論評などを照らしてみる。
10 回	論文の筋立て構成②	類似のテーマに対し、時代を縦に切ったときにどのような評価があったのか。それぞれを対比して分析する。
11 回	調査項目素案	論文の方向を規定する調査項目に関して、どのような尺度を用いるのか、近接研究から検討する。
12 回	調査項目研究	類似テーマに関して、先行事例をチェックしながら、自らの調査項目に反映させる。
13 回	プレゼンテーション①	先行研究や予備調査を元にプレゼンテーションを作成し、テーマに沿ってどのような構成が可能か検討する。
14 回	プレゼンテーション②	ここまでの成果を、レベルを一段上げてプレゼンテーションで発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連する先行研究には、間断なく接するように意識を高く持つこと。論文の精度と説得力を高いレベルに維持するためには、時代の変化に敏感であり続けなければならない。そのためにも、社会のありようを常に素材として取り上げながら、論文の設計構築に当たりたい。受講生のテーマを追求するには、ジェンダー研究に関する深い知識が要求される。ジェンダー関連論文や著作に積極的に目を通して、客観的な指標を構築していくこと。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

飯田貴子、熊安貴美江、来田享子編「よくわかる スポーツとジェンダー」ミネルヴァ書房、2018 年
 藤田真文「メディアの卒論~テーマ・方法・実際~」ミネルヴァ書房、2016 年
 杉本喜代栄編著「女性学入門」（改訂版）ミネルヴァ書房、2021 年

【成績評価の方法と基準】

「わかりやすさ」「新しい視点」「説得力のある展開」「引用（統計、研究成果など）の適性」（各 15%）それに「論理的整合性」がバランスよく勘案されるかどうか（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度実績なし

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

論文やプレゼンテーションに使う可能性のある素材、とりわけ写真やデータに関しては普段から「もの」「こと」「人」を意識して撮り、記録しておくこと。キャプションを記載することも忘れないように。記憶しておくべきフレーズや引用は、必ず出典情報を詳細に残しておく。

【Outline (in English)】

(1) To improve problem-setting skills and organize and clarify one's own themes.

(2) To bring sports health studies to a high level of fruition by adding "new" expertise to the knowledge cultivated during undergraduate years. Acquire basic thought processes and methodologies for master's thesis writing based on detailed and extensive insights.

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅱ

泉 重樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 研究構想の作成、予備実験・予備調査を通して、データ収集や分析といった研究する力を総合的に高める。
2. 修士論文作成に必要なアスレティックトレーニング、スポーツ医学分野の関連知識と研究方法論を修得する。

【到達目標】

1. 2 年次 4 月に提出する修士論文の概要および研究計画の作成準備に取りかかれる力を獲得する。
2. スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果、等に関する国内外の文献を討議し修士論文の研究計画の完成・予備実験等を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スポーツ外傷・障害予防を軸に、運動機能評価、リハビリテーション・トレーニング法、統計解析法などに関する国内外の文献を討議し、研究計画を完成させるとともに予備実験等の実践を含め方法論を磨く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	各自の研究計画の発表、ディスカッションを行う。
2 回	スポーツ外傷・障害予防に関する論文抄読	スポーツ外傷・障害予防と自身の研究に関する論文抄読を通して議論する。
3 回	スポーツ外傷・障害評価に関する論文抄読	スポーツ外傷・障害評価と自身の研究に関する論文抄読を通して議論する。
4 回	上肢・体幹のアスレティックリハビリテーションに関する論文抄読	上肢・体幹のアスレティックリハビリテーションと自身の研究に関する論文抄読を通して議論する。
5 回	下肢のアスレティックリハビリテーションに関する論文抄読	下肢のアスレティックリハビリテーションと自身の研究に関する論文抄読を通して議論する。
6 回	運動器に対する物理療法に関する論文抄読	運動器に対する物理療法と自身の研究に関する論文抄読を通して議論する。
7 回	予演/ディスカッション	各自の研究に関するプレゼンテーションを行い、研究計画について議論する。
8 回	研究計画発表（練習）	各自の現時点での研究計画に関するプレゼンテーションを行い、議論する。
9 回	総合的な論文抄読	スポーツ外傷・障害予防・評価、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法に関する論文抄読を通して、各自の研究計画について議論する。
10 回	エクササイズの前備実験の実施	エクササイズ・トレーニングに関するミニ実験を行い結果を検討する。
11 回	評価の前備実験	評価に関するミニ実験を行い結果を検討する。
12 回	動作解析に関する前備実験	三次元動作分析機器計測に関するミニ実験を行い結果を検討する。
13 回	前備実験のまとめ	これまでの前備実験・論文抄読から自身の研究計画を検討する。
14 回	研究計画発表会	修士論文の研究計画を完成させ、発表会にて発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究分野だけでなく、広い視野を持って論文抄読、研究に臨む姿勢が重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田中喜代次他、身体活動科学における研究方法、NAP
 広瀬統一他、アスレティックトレーニング学、文光堂

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み状況（50%）、プレゼンテーションの取り組み状況（50%）

【学生の意見等からの気づき】

これまでのように学生が積極的にかかわることで本授業を活性化していきたい。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] There are two purposes of this seminar. First, through preliminary experiments and preliminary surveys, comprehensively enhance the ability to study such as data collection and analysis. Second, to make a research plan for master's thesis.

[Learning objectives] Students will prepare a master's thesis outline and research plan.

[Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

[Grading criteria/policy] Grading will be decided based on lab reports 50%, and the quality of the students experimental performance in the lab 50%.

OTR6001I

スポーツ健康学演習Ⅱ

伊藤 真紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の作成に必要な方法論を学習するとともに、自らの研究テーマに沿った方法論および研究構想を設定する。

【到達目標】

修士論文の序論の執筆、研究計画の立案、倫理申請を行うことを目標とする。
1. 修士論文の目的、リサーチエスチョン、仮説を設定する。
2. 修士論文の研究の目的に応じて適切な標本抽出方法を選択する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各自の研究テーマを決定し、研究方法論について学習し、研究計画の立案をたてる。研究方法論（目的、リサーチエスチョン、仮説、標本抽出方法）を設定し、倫理申請が行えるよう準備をしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期にまとめた先行研究を改めて考察し、概念的枠組み、修士論文の目的とリサーチエスチョンを確認する。修士論文において求められる研究方法、論文構成について学ぶ。
2	研究の重要性	各自のテーマに沿った研究の重要性を実践的視点と学術的視点の両方から考察する。
3	概念的枠組み 1	研究で扱う要因についての定義づけを行い概念的枠組みを明確に説明する。
4	理論的枠組み 2	研究で扱う要因についての定義づけを行い概念的枠組みを明確に説明する。
5	仮説の導出	自らの研究の遂行するため、仮説を設定する。
6	方法：研究のデザイン	自らの研究を進めるうえで用いる手法（質的、量的、混合型）について検討する。
7	方法：調査項目	量的調査において設定する必要のある人口動態的特性、心理的特性、行動的特性、関係的特性などに関する質問項目について学ぶ。
8	方法:調査票の作成	調査対象者の基本的属性、心理的要因を測定するための調査票を作成する。
9	方法:記述統計	標本の特性を示すために必要な記述統計について学習し、本文にその分析方法を記述する。
10	方法:推計統計	研究の目的および仮説に応じて必要とされる記述統計と推計統計を見極め、記述する。
11	分析:基本的属性と行動的特性の集計	対象者の基本的属性と行動的特性を集計した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
12	分析:t 検定と分散分析	t 検定と分散分析の内容と実施方法を学ぶ。
13	分析:心理的特性の分析	信頼性と妥当性の検証を必要とする心理的要因の分析方法について学ぶとともに、これらの要因間の関係性を分析する。
14	分析:心理的尺度の分析	心理的要因の構成概念妥当性を検証するために必要な確認的因子分析の内容と実施方法について理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義時に出題される課題に取り組み、演習に参加できるように準備してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じて資料を配付する）。

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

研究のテーマに沿った方法論を組み立てること、研究計画立案、倫理申請書の考案、作成など総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

修士論文を執筆するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】

演習で身に付けた知識とスキルを実際に用いて倫理申請を行なってもらいます。

【Outline (in English)】

Students will learn about the various concepts and theories necessary to complete a master's thesis in the field of sports management. Furthermore, students will identify research issues that have not been clarified in previous research and set their own research themes.

The goals of this course are as follows:

1. Setting the research theme
2. Examination of previous research
3. Research objectives, importance, factor definitions, hypothesis setting
4. Appropriately set the research method

Learning activities outside of classroom

For this class, please read the papers distributed well in advance, write down your questions and impressions, and prepare to participate in the exercises that are developed in a discussion format.

Grading Criteria /Policy

Comprehensive judgment will be made on assembling methodologies in line with research themes, research planning, drafting and drafting ethics application forms, etc.

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅱ

井上 尊寛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツマネジメント研究にて用いられる概念や、課題について理解するとともに、修士論文作成に資する研究方法や分析の手法などについて理解する。

【到達目標】

修士論文作成において、ベースとなる以下の事柄について理解し、設定しうる能力の獲得を目標とする

- ・ 研究の目的、方法を設定できる。
- ・ 合理的な根拠をもって仮説の設定ができる。
- ・ 正しい標本の抽出や測定尺度の設定ができる。
- ・ 適切な分析方法を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義は、テーマに即した文献や資料を自らでまとめ、プレゼンをおこなう形で進めていくものとする。事前・事後学習の内容 各回の予習・復習には約 90 分～120 分かかると想定されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	スポーツマネジメント領域の修士論文に求められる学術的重要性と実践的重要性について学ぶ
2 回	文献の整理	スポーツマネジメント研究における主なテーマや課題について整理するため、15～20 本程度の文献を検索し、それぞれについてまとめる
3 回	先行研究のレビュー①	レビュー結果について報告する（概念化）
4 回	先行研究のレビュー②	レビュー結果について報告する（測定方法）
5 回	先行研究のレビュー③	レビュー結果について報告する（研究環境）
6 回	研究の新規性・重要性	新規性のある要因の設定や要因間の関係について整理し、学術的・実践的な重要性についてまとめる
7 回	研究の目的・リサーチクエスション	研究の目的とリサーチクエスションを設定する。
8 回	仮説の設定①	自らの論文にて設定する仮説導出部分について検討する
9 回	仮説の設定②	設定する仮説の合理的な根拠となる理論についてまとめる
10 回	研究の方法	自らの研究を進めるうえで用いる手法（質的、量的、混合型）について検討する
11 回	研究方法の妥当性①	標本抽出の方法や、分析の手法、要因と項目の妥当性などについて検討する
12 回	研究方法の妥当性②	統計的な妥当性、信頼性だけでなく、内容的な妥当性や研究対象に対する尺度の設定や分析における妥当性についても検討する
13 回	記述統計	実際のデータを用いて分析を行い、結果を記述する
14 回	t 検定・分散分析	さらに、収集したデータを用いて実際の分析を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は予習を必要とします。事前に出題される課題をまとめ、授業内で発表および議論できる状態にしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

授業への関与状況 (30%)、成果物の評価 (40%)、提出物や議論の内容 (30%) などを踏まえ、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline) Master's theses are composed of the sections of introduction, literature review, conceptual framework, hypotheses development, method, results, discussion, and conclusion. (Learning Objectives) In this course, following the methodology designed for the master's thesis of each student, s/he will collect data and analyze the results of her/his study. (Learning activities outside of classroom) Before each class, students are expected to analyze data and write the method and result sections. (Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on the quality of writing on the master's thesis the quality of writing on the master's thesis on research setting (20%), measurement (20%), data collection, sample characteristics (20%), and reliability and validity assessments (20%).

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅱ

鬼頭 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究構想の作成、予備実験・予備調査を通して、データ収集や分析といった研究する力を総合的に高める。

【到達目標】

- ① 2 年次 4 月に提出する修士論文の概要および研究計画の作成準備に取りかかれる力を獲得する
- ② 具体的な研究計画を踏まえ、事前の予備調査を実施、分析するとともに、修士論文の全体構想を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

設定した研究テーマと研究実施計画を踏まえ、具体的に予備調査を実施し、結果の解析を進めることにより信頼性、妥当性の検証及び本調査に向けての基礎資料を得るようにする。
本調査に向けての研究計画の立案と方法についてディスカッションにより内容の改善を図り、予備調査の結果を分析して改善の工夫を講じる。受講者間の意見交換により、他者からの異なる視点も視野に入れられるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	研究テーマを包含する領域の総説の検討	予備調査実施の手順及びその内容について再度考え方を整理する。また、倫理的配慮について指導する。
2 回	先行研究における質的アプローチの視点を踏まえた先行研究の進め方の検討	質的アプローチの模索のため、先行研究における質的アプローチの方法について意見交換し、進めようとする研究への導入について検討する。
3 回	先行研究における量的アプローチの研究手法と結果の課題の検討	量的アプローチの模索のため、先行研究における量的アプローチの方策について意見交換し、進めようとする研究への導入について検討する。
4 回	予備調査の実施方法の検討	先行研究を踏まえ、研究計画を進めるための予備調査の実施について検討する。
5 回	予備調査の手続き及び実施	予備調査を進めるために必要な手続きの確認と調査の実施
6 回	予備調査の結果解析	実施した予備調査の結果の解析を進め、課題の抽出を行う。
7 回	研究と関連する先行研究の収集と内容の検討	研究と関連する先行研究を収集し、内容の検討により相違点、や課題の洗い出しを行う。
8 回	研究計画とは異なる視点での先行研究の分析方法及び結果の比較検討	研究計画とは異なる視点での先行研究の分析方法及び結果について、予備調査の分析結果と照らし合わせ、進めようとする研究への適用の可能性について検討する。
9 回	先行研究における論理構成の検討	先行研究において新規性の抽出の進め方について意見交換する。
10 回	様々な先行研究の分析手法について検討する。	先行研究で採用する分析手法について意見交換する。
11 回	関連する先行研究との相違点や課題について検討する。	研究テーマと先行研究との相違点、論理構成や予備調査の分析結果を踏まえ、研究計画の改善のための方策について意見交換する。
12 回	研究計画全体の整合性及び実施しようとする研究アプローチの検討	研究計画全体の整合性、実施可能な研究アプローチについて検討し、あわせて調査対象についても検討を進める。
13 回	修士論文の全体構想を踏まえた研究計画の作成	これまでの議論の積み重ねから導き出した考え方を踏まえ、修士論文の全体構想及び研究計画の試案を作成する。
14 回	修士論文の全体構想を踏まえた研究計画の確定	先行研究や予備調査の結果を踏まえ、修士論文の全体構想及び研究計画について協議し確定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマに関連する文献について検索を行い、研究領域に関する知識を高めるとともに、研究の進め方、計画立案についても理解しておくようにする。

【テキスト（教科書）】

文献や調査報告を適宜配布

【参考書】

必要に応じて紹介するが、統計に関する書籍は読んでおくこと。

【成績評価の方法と基準】

論文作成に向けた進捗状況及びレポート（60%）、プレゼンテーション（40%）

【学生の意見等からの気づき】

本演習は集中とはなされているが、定期的かつ時間の制約は設けず実施することで、進捗状況及び課題の把握がよりの確にできる。これまでの実績を踏まえ、特に意見交換は十分に行うこととする。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)The purpose of this course is to heighten the research ability the data collection and analytical methods of this field through the research plan and preliminary study and survey.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to complete graduation thesis based on the sophisticated expertise of health education or public health.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following process

Mid-term report(20%),Graduation thesis(80%)

OTR6001I

スポーツ健康学演習Ⅱ

山本 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(1) 研究構想の作成、継続しての先行研究調査、さらに研究テーマ周辺の人々や活動に関する予備調査を通して、データ収集や分析といった研究する力を総合的に高める。

(2) 具体的な競技・種目（テレビ・タブレットといったメディアを通じて関心を高めている競技）の中で、研究対象として選択すべき小集団を抽出し、そこに内在する表現や報道が何を反映しているのか。受容者のリアクションにも配慮しながら、研究の道筋を探る。

【到達目標】

① 国内外のジェンダーに関わる報道・表現に関して、高度で専門的な知識を獲得するために、斯界の複数の専門家に対する聞き取りなどを進めることによって、レベルをさらに引き上げる。

② 受講生がターゲットにした競技を中心に、隣接する競技にも視野を広げ、適切な研究方法を用いて考察できる力を蓄える。それによって 2 年次 4 月に提出する修士論文の概要および研究計画書の作成準備に取りかかる力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

あくまで受講生のアクションをベースにした授業運営とする。その上で、自らの研究対象とするスポーツ報道を、海外の類似メディアとの比較をしたりしながら見る能力を身につける。そのためには、「文化人類学」「社会学」「政治学」「心理学」などの知見も獲得して研究の深みを広げていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	スポーツ社会の捉え方①	スポーツは個人で楽しむのがベースだったが、やがて組織のあるなしが、そのスケールに大きな差を生むことになった。改めてスポーツに関わる組織の仕組みを総括的に検討する。
2 回	スポーツ社会の捉え方②	競技団体。この組織は競技の特性によって、影響力、認知度、商品価値、経済的な力など大きな違いが生まれている。その根源にあるところを知る。
3 回	メディアの構造①	既存のメディアは活字媒体、電波媒体ともに苦しい時代を迎えている。受容する世代の多数が、デジタル媒体に移行してしまったからだ。危機的な伝統媒体の体制の変容ぶりを研究する。
4 回	メディアの構造②	スポーツがプロ化してからというもの、スポーツは消費者の側が主導権を持つ世界に変わってしまった。報道哲学の今を分析する。
5 回	組織の仕組み⑤	競技団体の役員の構成に関しても、ガバナンスコードが男女平等の観点から厳格な注文をつけるようになった。それが社会に何をもたらしているかを確認する。
6 回	組織の仕組み⑥	競技スポーツを取り上げたときに誰もが必ず視野に入れる、それが IOC（国際オリンピック委員会）である。その施政方針は、世界のスポーツのこの先に大きな影響を与えかねない。IOC の仕組みと思想の変遷を追う。
7 回	プレゼンテーション①	様々なスケールで分析を続けてきた、スポーツを取り巻く環境の変化を見落とすことなく、研究テーマに関しての、プレゼンテーションを行う。
8 回	プレゼンテーション②	第一回のプレゼンテーションで改善の余地があったところに修正を加えたものを改めて披露する。

9 回	プレゼンテーション検討①	研究テーマに即したこれまでのテレビによるスポーツ番組（ドキュメンタリー等）をピックアップし、その構成を参考にしながら、研究テーマのくみ上げ見直しをする。
10 回	プレゼンテーション検討②	取り上げた研究テーマに近い活字の論考を参考にしながら、自身のプレゼンテーションの改善を行う。
11 回	修士論文に寄せて①	ここまでの修士論文の骨格を、ここ 2 回の検討を参考にしながら修正する。
12 回	プレゼンテーション再①	様々な角度から見直しを加えたプレゼンテーションを改めて再現する。
13 回	プレゼンテーション再②	修正箇所を再検討をする。
14 回	プレゼンテーション総括	修論とプレゼンテーションとを対比させながら、現段階の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2023 年度は、大きなイベントが連続する。南アフリカの世界卓球（ダーバン）、世界水泳（福岡）、FIFA 女子 W 杯サッカー（オーストラリア・ニュージーランド）、亜細亜大会（杭州）、ラグビー W 杯（フランス）。研究テーマと密接な関わりのある特定の組織、チーム、指導者、選手、スタッフなどにアプローチし、恒常的に情報のやりとりをしながら、独自の観点からのまとめを仕上げる材料を常時収集すること。研究論文、海外の事例にも間断なく視点を置いておきたい。

メディアの動向が、スポーツビジネスの最前線では方向転換のきっかけになることがある。報道と世論との相関にも間断なく注意を払うことを求める。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

日本放送文化研究所「放送研究と調査」月刊誌、日本放送協会放送批評懇談会「GALAC」月刊誌、NPO 法人放送批評懇談会

【成績評価の方法と基準】

多様なものの見方（30%）、利害のぶつかり合う部分に対する評価（20%）、レース/試合を背景に、客観性と独自性のある批評（20%）、現実的で着実な発想と説得力のある表現（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度実績なし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン。

【その他の重要事項】

スポーツ庁の出す「スポーツ白書」、文部科学省の「文部科学白書」（媒体の現状把握に欠かせない）、日本新聞協会の発表情報、また笹川スポーツ財団から出る調査系の書籍には必ず目を通しておきたい。さまざまな調査が行われ、世論の確認に欠かせない。

【Outline (in English)】

(1) To enhance research skills comprehensively, such as data collection and analysis, through the creation of an investigation plan, ongoing research on previous studies, and preliminary fact-finding on people and activities around the research theme.

(2) Among specific competitions and events (competitions that are attracting increasing interest through media such as TV and tablets), select a small group of activities to be selected as the research subject, and find out what is reflected in the expressions and news reports inherent in these competitions and events. We will explore avenues of research, taking into consideration the reactions of the recipients.

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅲ

昇 寛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表による演習方式を中心とし、学生と双方向のやり取りの機会をより増やし、学生自身が積極的にかかわることで本演習をより活性化したい。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

Understand the basic methods of reseachs of sports and rehabilitation.

【Learning Objectives】

Understand about body and health.

【Learning activities outside of classroom】

Students should research the body and health in the title of the lecture.

【Grading Criteria /Policy】

Grades will be determined by regular exams and reports.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を総合的に高める。
2. アスレティックトレーニング、スポーツ医学分野の関連知識と研究の方法論から修士論文を作成する

【到達目標】

1. 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を身につける。
2. スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果、等に関する研究方法より、各自の研究計画に基づき研究を実践する。
3. 関連分野における学会発表を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果等に関する各自の研究計画に基づき実験等を実践し、議論を行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	各自の研究計画の振り返り、ディスカッション
2 回	研究倫理	研究倫理について、科学的不正行為の7領域について
3 回	研究実践/実験計画	各自の研究計画に基づいた実験計画立案・記載方法について
4 回	研究実践/実験方法	各自の研究計画に基づいた実験方法の確認と検証
5 回	研究実践/参加者と器具及び手順	各自の研究計画に基づいた参加者、使用器具、手順の確認
6 回	研究実践/分析方法	各自の研究計画に基づいた実験結果の分析方法の検討
7 回	中間プレゼンテーション	中間発表に至る過程での振り返りとまとめ、各自のプレゼンテーション、研究方法の再検討
8 回	研究実践/論文抄読1/統計概念の理解	実験等研究実践報告、各自の専門領域の抄読、統計学の基礎について
9 回	研究実践/論文抄読2/変数間の関係	実験等研究実践報告、
10 回	研究実践/論文抄読3/偏相関・重回帰	実験等研究実践報告、各自の専門領域の抄読、偏相関・重回帰について
11 回	研究実践/論文抄読4/差の統計的検定	実験等研究実践報告、各自の専門領域の抄読、t検定と分散分析
12 回	研究実践/論文抄読5/ノンパラメトリック法	実験等研究実践報告、各自の専門領域の抄読、ノンパラメトリック検定について
13 回	中間発表・予演	各自のプレゼンテーション・ディスカッション
14 回	中間発表会	各自の研究の中間発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の研究分野だけでなく、広い視野を持って論文抄読、研究に臨む姿勢が重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

その都度紹介する

【参考書】

その都度紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み状況（50%）、プレゼンテーションの取り組み状況（50%）

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅲ

井上 尊寛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては修士論文について「方法」の手順に従ってデータを収集し、「結果」の分析および信頼性・妥当性の検討を適切に行うことを目的とします。

【到達目標】

本演習の到達目標は、調査の仕様を確定させ、実際にデータを収集する際の調査計画を作成し、それに基づいてデータを収集することと、収集したデータから得られた結果を適切な統計手法を用いて分析し、まとめることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

計画的に修士論文の執筆を進める。毎週、受講者は事前に指示された点について授業時間外に記述・分析し、演習ではそれに関する添削を受ける。併せて、次の学習課題に関して指導を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の章立ての確認	修士論文が論理的な構成のもとで作成が進んでいるか確認する。
第 2 回	研究環境および対象の決定	修士論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。
第 3 回	調査計画	実際にデータを収集するための調査計画を立てる。
第 4 回	質問項目	調査対象者の人口動態的特性、心理的要因、行動的特性などを測定するための質問項目を設定する。
第 5 回	調査票の作成	対象となる標本の人口動態的、心理的、行動的特性を測定するための調査票を作成し、データを実際に収集する。
第 6 回	序論（研究目的、重要性）と分析方法の調整	序論（1 章）の研究目的や研究の意義が、方法（4 章）で分析しようとする内容と一致しているか確認し、必要に応じて修正する。
第 7 回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリ変数の作成などを行う。
第 8 回	記述統計	標本の特性を示すために必要な記述統計を実施し、本文にその結果を記述する。
第 9 回	心理的尺度の信頼性と妥当性	対象者の心理的特性を分析した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
第 10 回	結果：仮説の検証（要因間の関係性）	推計統計を用いて仮説を検証する。
第 11 回	結果：仮説の検証（要因間の関係性）の記述	要因間の関係性に関する仮説検証の結果を本文に記述する。
第 12 回	結果：仮説の検証（調整変数の検証）	必要に応じて二元配置の分散分析やセグメント別の多母集団構造方程式モデリングなどを行い、その結果を説明する文章を記述する。
第 13 回	結果：仮説の検証（調整変数の検証）の記述	調整変数の影響に関する仮説検証の結果を本文に記述する。
第 14 回	まとめ	まとめとして、目的、方法、結果の内容が論理的につながるように調整するとともに、データや結果が正確に記述されているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習として毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じて資料を配布する）

【参考書】

研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

データ収集：20 点
 記述統計：20 点
 尺度の信頼性および妥当性：20 点
 仮説検証（関係性）：20 点
 仮説検証（調整変数）：20 点

【評価基準】

それぞれの課題で獲得する得点は、以下の基準によって決定する。

100%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進め、研究としての新規性が十分に認められる。

80%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進めている。

60%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定のもとで議論を展開している。

40%：計画に沿って研究を実施する中で、科学的な方法に基づき客観的に発表（または記述）している。

20%：自身が立てた計画に沿って研究を実施している。

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【Outline (in English)】

(Course outline) Master's theses are composed of the sections of introduction, literature review, conceptual framework, hypotheses development, method, results, discussion, and conclusion. (Learning Objectives) In this course, following the methodology designed for the master's thesis of each student, s/he will collect data and analyze the results of her/his study. (Learning activities outside of classroom) Before each class, students are expected to analyze data and write the method and result sections. (Grading Criteria/Policy) Grading will be decided based on the quality of writing on the master's thesis the quality of writing on the master's thesis on research setting (20%), measurement (20%), data collection, sample characteristics (20%), and reliability and validity assessments (20%).

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅲ

越智 英輔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、修士論文の作成に向けて実験結果を解釈し、考察につなげることを目的とします。

【到達目標】

1. 研究データの分析法を習得する
2. 修士論文の結果を完成させる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

履修者それぞれの研究課題の実験データの解析法、データの解釈について検討する。必要な情報・知識を深めることで結果を作成し、場合によっては方法なども修正する。適宜履修者がプレゼンテーションを行い、それに対して教員がフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	筋力の本測定	筋力データを取得し、分析する
2 回	筋電図の本測定	筋電図データを取得し、分析する
3 回	筋厚の本測定	筋厚データを取得し、分析する
4 回	筋硬度の本測定	筋硬度のデータを取得し、分析する
5 回	結果の確認	院生ごとに「結果」をディスカッションし、必要ならば「方法」を再検討する
6 回	統計処理	統計分析を行う
7 回	筋力結果のプレゼンテーション	筋力結果の方法から結果までをプレゼンテーションする
8 回	筋電図のプレゼンテーション	筋電図の方法から結果までをプレゼンテーションする
9 回	筋厚のプレゼンテーション	筋厚の方法から結果までをプレゼンテーションする
10 回	筋硬度のプレゼンテーション	筋硬度の方法から結果までをプレゼンテーションする
11 回	得られた結果の総合的解釈	それぞれの結果を総合的に解釈する
12 回	結果を踏まえた考察の着想	結果に基づいた考察を検討する
13 回	結果の限界	結果に基づく研究の限界を検討する
14 回	考察についての検討	これまでの授業をふまえて総合的な考察を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献検索やプレゼンテーション資料の作成を実施してもらいます。これらの準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要となる参考書をその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文の「結果」の完成度（60%）、プレゼンテーション（40%）とします

【学生の意見等からの気づき】

修士論文の結果の執筆に向けて、個別の課題に対応していきます。

【学生が準備すべき機器他】

PCおよびプレゼンソフト

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic components of data acquisition and analysis to students.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of interpretation of the results.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on results of master thesis (60%) and lab reports and presentations (40%)

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅲ

苅部 俊二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
配当年次：2 年次
備考（履修条件等）：
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の作成、口頭発表の実施

【到達目標】

研究計画に沿って実践して得られた結果について考察し、修士論文の作成を行うとともに口頭発表を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

少人数での集中演習方式で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の進捗状況の確認	修士論文の進捗状況の確認を行う。
第 2 回	修士論文中間発表	修士論文の進捗状況について発表する。
第 3 回	修士論文中間発表のフィードバック	修士論文中間発表のフィードバックを行う。
第 4 回	計画の再確認と倫理審査	修士論文執筆に向けた計画の立案・倫理審査申請書の作成を行う。
第 5 回	研究計画の確認と今後の方向性	研究計画に基づき今後の方向性を確認する。
第 6 回	研究計画に基づいた実験・調査①（実験・調査の準備）	研究計画に基づき実験・調査の準備を行う。
第 7 回	研究計画に基づいた実験・調査②（実験・調査の実）	研究計画に基づき調査・実験を実施する。
第 8 回	実験・調査結果の整理	実験・調査の結果の整理を行う。
第 9 回	実験・調査結果の分析	実験・調査の結果の分析を行う。
第 10 回	結果の整理、分析の考察	実験・調査結果の整理・分析に対するディスカッションおよびその考察を行う。
第 11 回	修士論文の執筆計画の立案	修士論文の執筆計画の立案を行う。
第 12 回	中間発表資料の作成	中間発表資料の作成を行う。
第 13 回	中間発表	中間発表を行う。
第 14 回	進捗状況と秋学期の計画確認	前期進捗状況の確認と修士論文完成に向けた計画の作成を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験、調査の整理を行い、論文の執筆、校正を行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に設けない。

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常評価（60 点）発表（40 点）とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生にとって、有意義な講義を行う。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Students develop practical skills to carry out the research plan, which is necessary for writing a master's thesis.

【到達目標（Learning Objectives）】

The aim is to increase specialist knowledge for master's thesis writing.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Your study time will be more than four hours for this seminar.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Final grade will be calculated according to the following process: oral presentation (40%) and usual performance score (60%).

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅲ

木下 訓光

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①調査・実験結果の分析
- ②調査・実験結果の提示

【到達目標】

- ① 調査・実験・測定データのデータを正しく分析し、これを図表を用いて学術論文において適切に提示できる。
- ② 研究論文における「結果」の枠組みとなる部分について雛形としての草稿を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学部ゼミに毎週出席をする。
 ゼミの冒頭で【授業の概要と目的（何を学ぶか）】に沿って進捗をゼミ生および教員に報告し、都度指導を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	調査・実験のデータの妥当性検証	研究計画に基づき教員の指導のもと得られたデータの妥当性検証を行う。
2 回	調査・実験のデータの信頼性検証	研究計画に基づき教員の指導のもと得られたデータの信頼性検証を行う。
3 回	調査・実験のデータベース作成指導	妥当性・信頼性が担保されたデータをもとに、分析を行うデータベースを作成する。
4 回	調査・実験のデータベース提示	妥当性・信頼性が担保されたデータをもとに、作成したデータベースを提示する。
5 回	調査・実験のデータベース検証	作成したデータベースの構造が、採用している統計解析に適しているか検証する。
6 回	調査・実験のデータの記述的・探索的検証	作成したデータベースを用いてデータの記述的・探索的分析を行う。
7 回	記述的・探索的検証結果の提示	記述的・探索的検証結果に関する図表を作成し、提示する。科学論文にふさわしい図表を作成するための技術を習得する。 DeltaGraph, SigmaPlot, Photoshop などを用いて作成することも学ぶ。
8 回	統計解析	作成したデータベースを用いて、あらかじめ想定していた検定などを行う。
9 回	統計解析結果の提示（図の作成）	あらかじめ想定していた検定などに関する結果を、図を用いて提示する。

10 回	統計解析結果の提示（表の作成）	あらかじめ想定していた検定などに関する結果を、表を用いて提示する。
11 回	図表の検証・選定	「結果」セクションの執筆に提示する図表を選択する。
12 回	「結果」セクションの構造検証	「背景」「方法」セクションと一貫性・整合性のある分析結果の提示・執筆するためこれを検証する。
13 回	研究結果の論述	修士論文の「結果」セクションの草稿執筆を継続し進捗分を提出して議論、指導を受ける。初学者は結果セクションに書くべきでない内容を含めることがあるが、そのような論文は研究構造を損なうため、最終審査で著しく低い評価となる。このような事態を回避する上で「結果セクション」の書き方に習熟する。特に結果と考察を混同させて書く初学者が多いので注意すること。また統計解析の結果を正しく叙述できていないことも多い。統計解析の結果について、海外の学術ガイドラインに沿って学び、過不足なく適切に報告する方法について学習する。
14 回	研究結果の執筆提出	これまでの学習を踏まえて修士論文の「結果」セクションに該当する草稿を完成させて提出し指導を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
 指定した文献の事前精読、課題に対する資料作成。

【テキスト（教科書）】
 特になし。

【参考書】
 必要な文献などは毎回指定する。

【成績評価の方法と基準】
 ①適切に分析を行い、図表を用いて科学的な提示ができたか（50%）
 ②研究論文の「結果」セクションを適切にまとめることができたか（30%）
 ③研究室に出頭して報告とディスカッションを行ったか（20%）
 以上3項目について各々評定し、合計得点によって総合評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
 前年度開講がないため、該当なし。

【その他の重要事項】
 臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う

【Outline (in English)】
[Course outline] Students have to analyze obtained data by measurement, experiments, and investigation and report them appropriately. Students have to finish writing the result section of the thesis.

[Learning objectives] The goal of the lecture is to acquire the skill of appropriate presentation of measured data using tables and figures, and finally to finish writing the result section of the thesis.

[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 20 hours. Students are strongly encouraged to visit the laboratory for consultation about their thesis frequently.

[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of the following:

- 1) how appropriately the students present measured data using tables and figures (50%)
- 2) whether the students could finish writing the result section of the thesis (30%)
- 3) how frequent the students report their progress in their research and visit the laboratory for consultation (20%)

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅲ

永木 耕介

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を総合的に高める。
- ② データの収集と分析による結果の把握。

【到達目標】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を身につける。
- ② 研究計画を推進し、データの収集と分析によって結果を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スポーツ健康学演習Ⅱで選定した研究方法によるデータの収集と分析を行い、一定の結果を把握するよう指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	予備調査①	調査の観点、項目、内容等を確認するよう指導する。
2 回	予備調査②	フィールドにおいて調査対象への依頼手続きや状況、人数、回収方法等を確認するよう指導する。
3 回	予備調査③	予備調査の実施を指示する。
4 回	予備調査④	収集したデータの集計等を行い、適切な方法で分析を行うよう指導する。
5 回	予備調査⑤	データの分析によって得られた結果を整理して演習内で発表し、研究仮説等の観点から意見交換を行う。
6 回	本調査①	予備調査の検討結果を踏まえ、問題があれば研究方法に対する修正を行うよう指導する。
7 回	本調査②	調査対象への依頼手続きや状況、人数、回収方法等を確認するよう指導する。
8 回	本調査③	本調査の実施を指示する。
9 回	本調査④	収集したデータの集計等を行い、適切な方法で分析を行うよう指導する。
10 回	本調査⑤	データの分析によって得られた結果を整理して演習内で発表し、研究仮説等に照らした検討を行う。
11 回	分析法の修正・追加等	検討結果を踏まえ、得られた結果が不十分であれば分析法の修正や追加等を行うよう指導する。
12 回	調査方法の見直し	分析方法の修正や追加等を行っても十分な結果が得られない場合、調査方法の見直しを行うよう指導する。
13 回	研究計画の再確認	研究テーマ、目的、仮説、研究方法、結果について、演習内で発表し、意見交換を行う。
14 回	プレゼンテーションの準備	大学院2年次の9月（予定）に全体で行われる「修士論文中間発表会」へ向けた準備を行うよう指示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データの分析方法について、授業外においても関連する先行研究・文献を読み込む等、理解を深めること。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

『よくわかる心理統計』（ミネルヴァ書房）、『体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方』（市村出版）、等

【成績評価の方法と基準】

論文作成へ向けた進捗状況・レポート（70%）、プレゼンテーション（30%）

【学生の意見等からの気づき】

研究計画を継続的に見直し、成果を段階的にまとめていくように指導する。

【学生が準備すべき機器他】

パーソナルコンピューター。

【その他の重要事項】

進捗状況によって、指導の順序が入れ替わる場合がある。

【Outline (in English)】

[Course outline] The purpose of this seminar is for students to comprehensively improve their overall thesis applications, as well as bettering their understanding of the data analysis.

[Learning Objectives] Drive research plans and understand results through data collection and analysis.

[Learning activities outside of classroom] It is necessary to collect and analysis literature materials and data to write a thesis.

[Grading Criteria /Policy] report score (70%), presentation (30%)

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅲ

林 容市

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を総合的に高める。
 ② 健康・スポーツ体力学に関連した課題をもとに、修士論文作成を見据えた演習を行う。修士論文作成に向けた具体的な研究計画を確定して実践し、研究方法や結果の提示方法を習得する。

【到達目標】

① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を身につける。
 ② 健康・スポーツ体力学における実験・調査を実践できる。
 ③ 実験・調査の結果を使用し、研究論文のアウトラインを執筆できる。
 ④ 実験・調査で得られたデータを適切に分析できる能力を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スポーツ・健康体力学に関する研究計画に従って、修士論文に向けた実験・調査を実践します。この結果を用いて、研究全体のアウトラインの作成、「方法」および「結果」の執筆を最終的な目標とします。

授業においては、毎回課題を出し、次の授業で発表した上で、それに対して受講者全体で討論や意見交換を行います。また、修士論文作成に向けた実験・調査に関する課題も出します。これらの課題を発表するためにも、準備および討論等に向けた受講者の主体的な参加が重要となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	修士論文計画の修正	これまでに作成した修士論文計画について、発表会等でのコメントを受けて討論し、修正する方向性を定める。
2 回	実験・調査に向けた計画	修士論文作成に向けた具体的な実験・調査の計画（日程等を含む）を作成し、論議する。
3 回	修士論文の研究計画の確定	修士論文を作成するための最終的な研究計画書を作成して提出する。
4 回	実験・調査の経過報告：問題点の確認	実験・調査を開始した状況を報告し、修正等の必要性について論議する
5 回	実験・調査の経過報告	実験・調査の進行状況を報告し、修正等の必要性について論議する。
6 回	実験・調査の経過報告：中間報告	実験・調査の中間報告を行い、データ集約の方向性について論議を行う。
7 回	データの整理・分析	実験・調査した結果得られたデータについて、実際に入力、データセットの作成、分析を開始し、分析結果を報告する。また、必要に応じて追加で行うべき分析方法についても論議する。
8 回	結果の示し方	前回の分析結果について、論文に記載する上で効果的な図表の作り方、示し方を理解する。
9 回	分析結果の報告	前回の内容を踏まえ、修士論文に向けたデータ分析の結果を発表し、論議する。
10 回	修士論文執筆の実際	修士論文全体のアウトラインの書き方を理解する。
11 回	修士論文執筆の実際：アウトラインの発表	前回内容に添って、修士論文全体のアウトラインを作成して発表し、論議する。
12 回	研究手順の提示方法：「方法」の書き方	実験・調査の「方法」を提示するための記載方法・表記方法を学ぶ。
13 回	研究手順の提示方法	前回内容に添って、修士論文の「方法」の部分を執筆し発表する。
14 回	データを理解するための提示方法：「結果」の書き方	読者の理解を深める「結果」の記載方法・表記方法を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則、毎回の課題に加えて、修士論文に関する実験・調査の進行を指示する予定ですので、課された課題に従って予習の作業を行ってください。また、授業での論議に基づいて発表内容を修正して再発表する課題（2, 3～7, 9, 11, 13, 15 回）も多いため、自らの課題を見直し、復習・修正を行ってください。これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ 2 時間以上を標準とします。また、3, 11 回目の「修士論文の研究計画の確定」、「修士論文執筆の実際：アウトラインの発表」に関する課題の提出は、評価のための必須項目となります。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

・身体活動科学における研究方法/田中喜代次他（訳）/ナッパ
 ・健康・スポーツ科学のための調査研究法/出村慎一（監）/杏林書院
 ・ユーザーのための教育：心理統計と実験計画法/山際勇一郎他/教育出版

【成績評価の方法と基準】

1) 各回における課題の内容および発表・達成状況：40%、2) 「修士論文の研究計画の確定」、「修士論文執筆の実際：アウトラインの発表」に関する課題の内容：30%、3) 討論等への参画状況：30%
 なお、1) に関して 3 回以上の未発表がある者、2) の課題未発表者については評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度開講していないため、特になし。

【その他の重要事項】

「スポーツ健康学演習Ⅰ、Ⅱ」の単位を取得していることを前提に授業を進行します。なお、進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】Graduate students will practice experiments and investigations for their master's thesis according to their research plan on sports and health fitness. Based on the results, the final goal is to prepare an outline of the fundamental research and to write "Methods" and "Results." [Learning Objectives] By the end of the Course, graduate students should be able to: 1. Acquire the applied skills to concretely execute a research plan necessary for writing a master's thesis. 2. Ability to research health and sports physical fitness. 3. write an outline of a research paper using the results of experiments and investigations. 4. Acquire the ability to analyze data obtained from experiments and investigations appropriately. [Learning activities outside of classroom] Each class will be instructed on the progress of experiments and investigations related to the master's thesis, so please work according to the assigned tasks. In addition, since graduate students are often required to make a presentation based on discussions in class, please review their assignments, and review and revise them. In addition, the submission of assignments related to "Finalizing the research plan for the master's thesis" and "Presenting the outline of the master's thesis writing" are required for evaluation. [Grading Criteria/Policy] Grading will be decided based on achievement of each assignment (40%), Finalization of the research plan for the master's thesis, presentation of outline for writing the master's thesis (30%), and Participation in the discussion (30%). Graduate students who do not submit the assignment more than three times and do not the presentation of the research proposal will not evaluate.

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅲ

平野 裕一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツバイオメカニクス、トレーニング科学に関する修士論文の作成に向けてこれまでの「緒言」、「方法」を受けて「結果」を書き上げ、「考察」を検討する。

【到達目標】

修士論文作成に向けて、「結果」を書き上げ、「考察」を検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・修士論文の「結果」までの作成に向けて、結果をディスカッションし、必要ならば「方法」を再検討する。方法を改めたならば、「結果」を再構築する。
 ・その上で、「緒言」から「結果」までをプレゼンテーションする。さらに、「結果」に基づいた「考察」の検討まで至る。
 ・「結果」と「考察」の内容について、逐次フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	MCの本測定	MC測定によってデータを取得し、分析する
2 回	VTRの本測定	VTR測定によってデータを取得し、分析する
3 回	技術測定の本測定	技術測定によってデータを取得し、分析する
4 回	「結果」についてのディスカッション	院生ごとに「結果」をディスカッションし、必要ならば「方法」を再検討する
5 回	「結果」の再構築	「方法」を再検討した院生について「結果」を再構築する
6 回	MC測定による論文の結果までのプレゼンテーション	MC測定による論文の「緒言」から「結果」までをプレゼンテーションする
7 回	VTR測定による論文の結果までのプレゼンテーション	VTR測定による論文の「緒言」から「結果」までをプレゼンする
8 回	技術測定による論文の結果までのプレゼンテーション	技術測定による論文の「緒言」から「結果」までをプレゼンする
9 回	再検討「結果」の報告	再検討した「結果」について改めてプレゼンし、検討する
10 回	「緒言」から「結果」までの検討	院生ごとに「緒言」から「結果」までをプレゼンし、全体を通して「結果」を検討する
11 回	MC測定による論文の考察の検討	MC測定による論文の「結果」に基づいた「考察」を検討する
12 回	VTR測定による論文の考察の検討	VTR測定による論文の「結果」に基づいた「考察」を検討する
13 回	技術測定による論文の考察の検討	技術測定による論文の「結果」に基づいた「考察」を検討する
14 回	考察についての検討	「結果」に基づいた「考察」を全体を見通して検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成に向けて、自分の研究にとって必要なデータを分析し、結果および考察のパワーポイントを作成する。復習として、分析に4時間、パワーポイントの作成に4時間を用いる。

【テキスト（教科書）】

その都度紹介する。

【参考書】

「バイオメカニクス 人体運動の力学と制御」D.A.Winter, ラウンドフラット, 2011, 7000 円
 「身体運動のバイオメカニクス研究法」D.G.E Robertson et al., 大修館書店, 2008, 3800 円

【成績評価の方法と基準】

修士論文の「緒言」から「結果」までの完成度（60%）、プレゼンテーション（40%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし

【学生が準備すべき機器他】

PCおよびプレゼンソフト

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class asks the students to learn the data acquisition and its analysis and to write up the master's thesis from "introduction" to "result".

【Learning Objectives】

Objectives are to acquire and analyze the data properly and to write the master's thesis from "introduction" to "results".

【Learning activities outside of classroom】

Students analyze the data acquired and make the PPT slides of the own research for master's thesis.

【Grading Criteria/Policy】

"results" for master's thesis (60%) and presentation of the research (40%)

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅲ

山本 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究テーマに関する世界を概観する。とりわけメディアの特性や環境を分析し、スポーツとメディアの関係を通じて、問題となる事象へのアプローチを図る。そのためには、メディアの構造だけでなく、その時点での社会の評価、経営、そこを統御する規範や歴史にも深い見識が必要である。

【到達目標】

スポーツ世界を構成する要素の中で、アスリートの周りに展開する肉体やボールの描くベクトルを除けば、勝敗を規定するの要素は政治、経済、社会の枠組みの中にも点在する。研究テーマの周辺で：「政治」が仮説にどう影響を与えているか。「経済」がどう関わっているか。「社会」がどうつながっているかを詳細に検証すること。それぞれを単体で調べ上げるのではなく、そうした要素に深く関わる人材を通じて、論証を試み、情報を収集して、論文構成の柱を構築すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

仮説と論考に関わる小さなテーマを複数取りだし、そのつながる世界を多量に抽出する。小さなスケールで初めて、やがて大きなうねりにまともていく。時間をかけて視野を広げる演習とする。少人数の強みを生かして、研究室をベースに、研究の進捗にあわせて柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：研究するスポーツの個性と周辺環境の洗い出し	自ら取り上げたテーマに関するスポーツを軸に、類似スポーツの周辺環境を含めてその特性を調べ上げる。
第 2 回	スポーツの基礎Ⅰ：当該スポーツと政治	テーマに関わる要素の成り立ちや栄枯盛衰に関わった因子を、国内外を問わず広く収集する。
第 3 回	スポーツの基礎Ⅱ：当該スポーツと経済	ターゲットとなる要素の、経済的側面からの評価。それが仮説にどう影響するかを検討する。
第 4 回	スポーツの基礎Ⅲ：当該スポーツと社会	人気、知名度、環境への負荷。社会の中でどのように見られ、取り込まれているのか。ターゲットを取り巻く組織や団体はどのような評価を与えているのか。
第 5 回	メディアの基礎Ⅰ：メディアとスポーツ	ターゲットがメディアの中でどう扱われてきたか。世界の変容とともにその変化を追う。
第 6 回	メディアの基礎Ⅱ：メディア需要の変化とメディアの変身	社会の中のメディアの受け止められ方と、それによって姿を変えた周辺の対応を探る。
第 7 回	メディアの基礎：他のメディアの反応	ターゲットが、他のさまざまなメディアからどのような評価を受けてきたのか。その検証をする。
第 8 回	先行研究調査：研究テーマにかかる先行研究調査	過去から直近までの先行研究の分析と評価。国内外の研究にもしっかりと焦点を当てる。
第 9 回	変化と今Ⅰ：メディア世界	メディアの環境、とりわけ電波メディアとインターネットメディアとの競争の中で何がどう変化しているか。
第 10 回	変化と今Ⅱ：ジェンダーの捉え方	社会が捉えるジェンダーの有り様は、ここ 10 年のうちに大きな変化を遂げてきた。それがスポーツ世界にはどう反映されているか。
第 11 回	変化と今Ⅲ：スポーツの魅力は何に求める	スポーツ伝達の媒体の多様性は、受け手の嗜好を変え始めているのではないか。スポーツ需要の今を見る。
第 12 回	社会の声を聞くⅠ	仮説検証のための調査への準備。質問の方向と狙いの検討。
第 13 回	社会の声を聞くⅡ	調査項目の抽出と決定。
第 14 回	社会の声を聞くⅢ	調査方法、そのための手続き確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習、復習に少なくともそれぞれ 2 時間、合計 4 時間は必要。研究を遂行する上で、間断なく視野を広げること。テーマの設定を考慮した場合、狭い世界の検証だけで、結論を導くことは困難なケースが少なくない。外国の事例を参考に上げる際には、そうした国や地域の習慣、歴史、社会情勢などにも気を配る必要がある。この授業のためにかける予習・復習時間は当然、かなり膨大なものになる。

【テキスト（教科書）】

使用せず。そのときに応じて、最適のものを抽出する。

【参考書】

「放送研究と調査」NHK 放送文化研究所（月刊誌）
 「GALAC テレビとラジオの批評誌」放送批評懇談会 KADOKAWA（月刊誌）
 「21 世紀スポーツ大辞典」大修館書店 2018 年
 「よくかわるスポーツとジェンダー」飯田貴子ほか ミネルヴァ書房 2018 年

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習の中での完成度 70 %
 事前の調査や分析 30 %
 演習内でのやりとりをベースに、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

テーマに関わる人材を積極的に紹介し、リサーチをかけられるような体制を充実させる。とりわけ、メディア、メディア周辺産業、さらには学部学生からの意見徴収にも道を開く。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

先行研究に対する取り組みが表面的なものに終始する嫌いがある。Review 論文の要素も取り入れなければならないことを考慮すれば、海外の学会の発表などにも、深く切り込んでいく必要がある。

【Outline (in English)】

(Course Outline)An overview of the world related to the research theme. In particular, we will analyze the characteristics and environment of the media and try to approach problematic phenomena through the relationship between sports and the media. To that end, it is necessary to have a deep insight into not only the structure of the media, but also the evaluation of society at that time, management, and the norm and history that governs it.

(Learning Objectives)Among the elements that make up the world of sports, apart from the physical body that surrounds the athlete and the vector drawn by the ball, the elements that determine victory or defeat are scattered within the framework of politics, economy, and society. Around the research topic: How does 'politics' affect hypotheses? How is the "economy" involved? Examine in detail how "society" is connected. Instead of researching each of them individually, try to demonstrate and collect information through people who are deeply involved in these elements, and build the pillars of the thesis composition.

(Learning Activities Outside of Classroom)At least 2 hours each for preparatory study and review, totaling 4 hours. Continuously broaden your horizons as you pursue your research. Considering the setting of the theme, there are many cases where it is difficult to draw conclusions only by verification of a narrow world. When using foreign cases as reference, it is necessary to pay attention to the customs, history, and social conditions of those countries and regions. Naturally, the amount of time spent preparing and reviewing for this class is enormous.

(Grading Criteria/Policy)Completion in each exercise 70%

Preliminary research and analysis 30%

Comprehensive judgment based on exchanges in the exercise.

OTR600I1

スポーツ健康学演習Ⅳ

昇 寛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【Outline (in English)】

【Course outline】

Understand the basic methods of reseachs of sports and rehabilitation.

【Learning Objectives】

Understand about body and health.

【Learning activities outside of classroom】

Students should research the body and health in the title of the lecture.

【Grading Criteria /Policy】

Grades will be determined by regular exams and reports.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成に必要な研究の文章化、そしてこれを発信する力を高める。

【到達目標】

1. 引き続き、スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果等に関する各自の研究を実践する。
2. 研究データを論文として纏め上げ、わかりやすくプレゼンテーションできる。
3. 関連分野における学会発表を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果等に関する各自の研究実践結果に基づき議論を行うとともに、修士論文を完成させる

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	これまでの各自の研究の振り返り、ディスカッション
2 回	研究実践／方法論の振り返り	実験等自身の行ってきた研究方法の振り返り
3 回	研究実践／結果のまとめ	実験等自身の行ってきた研究の結果報告
4 回	研究実践／結果に基づいた考察	自身の行ってきた研究の結果に基づいて考察する
5 回	研究実践／考察（外傷・障害予防の観点）	自身の行ってきた研究について外傷・障害予防の観点から考察する
6 回	研究実践／考察（運動機能評価の観点）	自身の行ってきた研究について運動機能評価の観点から考察する
7 回	学会発表予演およびディスカッション	自身の行ってきた研究のプレゼンテーションおよびディスカッション
8 回	学会発表	関連各種学会で研究発表を行う
9 回	研究実践／考察（アスレティックトレーニング全般含む）	学会発表で得られた知見を踏まえてさらに考察を深める
10 回	研究実践／考察の完成	自身の研究の考察までを文章として完成させる。
11 回	修士論文の完成（仮）	予備審査提出用の修士論文を完成させる
12 回	査読後の修士論文チェック	予備審査を踏まえて、修士論文を推敲する
13 回	修士論文の完成および最終発表予演	修士論文を完成させるとともに審査会用のプレゼンテーションの予演を行う
14 回	最終発表会	修士論文の最終発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の研究分野だけでなく、広い視野を持って研究に臨む姿勢が重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度紹介する

【参考書】

その都度紹介する

【成績評価の方法と基準】

修士論文完成に向けた資料・データの分析、考察・まとめ等の達成度（80%）、修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション（10%）、発表会等への参加態度（10%）

【学生の意見等からの気づき】

学生による発表が演習の中心となる。学生と双方向のやり取りの機会を増やし、学生自身が積極的にかかわることで本演習をより活性化したい。

【その他の重要事項】

特になし

OTR6001I

スポーツ健康学演習Ⅳ

井上 尊寛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、研究をまとめ、その成果を発信する能力を身に付けること、研究テーマのもと修士課程の集大成として修士論文を書き上げることを目的とする。

【到達目標】

これまでは結果が示唆する内容についてまとめ、考察部分を書き上げること、主・副指導教員や他者からの助言に従って修士論文に修正を加え、指摘された問題点を適切に改善することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

これまでの学習を基に、修士論文を計画的な手順（文献研究、調査の計画、データ収集、分析、結果の考察）に沿って進め、論文を完成させることを目的とする。本演習では修士論文の結果の考察、本文の執筆、全体的な推敲を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツマネジメント研究としての修士論文	スポーツマネジメント領域の修士論文の水準と論理的な構成のもとで作成が進んでいるかどうかを確認する。
第 2 回	考察（心理的尺度）	心理的尺度の因子分析の結果を先行研究、研究環境、サンプル特性、データ収集方法などと照らし合わせながら考察し、学術的貢献について論じる。
第 3 回	考察（要因間の関係性）	要因間の関係性に関する仮説検証の結果を考察し、修士論文が果たす学術的貢献についても論じる。
第 4 回	考察（調整変数の影響）	調整変数の影響に関する仮説検証の結果を考察し、研究環境やグループ間の違いを説明するとともに、結果が示す学術的貢献についても記述する。
第 5 回	考察（棄却された仮説）	仮説どおりにならなかった結果や予期しなかった結果について、何故そのような事態になったのか慎重に考察する。
第 6 回	考察（実践的貢献）	研究結果を基に、修士論文がスポーツマネジメントの現場に対して果たす実践的貢献について説明する。
第 7 回	考察（研究の限界と今後の展望）	各自の修士論文の作成において生じた制約、方法上の限界、バイアス、弱点などについて記述するとともに、それらを踏まえ今後の展望を紹介する。
第 8 回	研究の目的、結果、考察つながり	研究を通じて目的がどの程度達成されたかどうかを確認し、論理性に問題があれば修正する。
第 9 回	結論	目的と結果を照らし合わせ、どの程度目的が達成されたかを説明するとともに、結論として重要な発見を特定し、記述する。
第 10 回	引用文献、巻末資料	引用文献と巻末資料を整え、修士論文を書き上げる。
第 11 回	全体を通しての推敲	序論、先行研究、概念的枠組みと仮説、方法、結果、考察、結論の 7 章から成る修士論文を読み返し、内容を精査する。
第 12 回	他者評価に基づく修正	指導教員や副指導教員をはじめとした専門家から問題点を指摘してもらい、内容を適切に修正する。
第 13 回	論文審査への対応方法（プレゼンテーション）	各自の修士論文の論旨（目的、重要性、主な結果、学術的貢献）が明確に伝わる研究報告とするためのプレゼンテーション資料を作成し、実際に発表する。

第 14 回 論文審査への対応方法（原稿の修正）

各自の修士論文に対して与えられる指摘や批判を想定するとともに、それらへの適切な対応方法について十分に理解し、実際の対応に役立てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2 年次後期には分析に必要なすべてのデータが揃います。各自が修士論文の作成を進め、序論から結論までの論理性を再度確認し、必要に応じて修正してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じて資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

考察（心理的尺度）：10 点

考察（仮説検証）：10 点

考察（予期せぬ結果）：10 点

考察（学術的貢献）：10 点

考察（実践的貢献）：10 点

考察（研究の限界と今後の展望）：10 点

結論（目的の達成度）：10 点

文章力：10 点

書式、体裁、参考文献、巻末資料：10 点

全体を通しての完成度：10 点

合計：100 点

【評価基準】

それぞれの観点を以下の基準に従って評価する：

10 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者からの指摘を適切に修正へとなげ、内容に独創性と論理性が十分にあり、修士論文として優れた水準に達している。

8 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へとなげ、内容に独創性と論理性がある。

6 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へとなげ、内容に独創性がある。

4 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へとなげている。

2 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆している。

【学生の意見等からの気づき】

授業では論理性に注意し、履修者がより深く考えるように進めていきます。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course introduce how to complete the master's thesis and to learn the presentation skill. (Learning objectives) The purposes of this course are to (1) develop skills to present the results of a research study and (2) write a master's thesis that is worthy of being considered as a scientific paper in the field of sport management. (Learning activities outside of classroom) Before each class, students are expected to analyze data and write the result and discussion sections. (Grading criteria) Grading will be decided based on the quality of writing on the master's thesis (100%).

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅳ

越智 英輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、修士論文の考察を進めることで、論文完成につなげることを目的とします。

【到達目標】

1. 修士論文の結果を完成させる
2. 修士論文の発表にむけたプレゼンテーション能力を向上させる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

履修者それぞれの研究テーマにあわせた考察をまとめる。あわせて結語と要旨を作成し、必要な支援をする。適宜履修者がプレゼンテーションを行い、それに対して教員がフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	筋力の論文の考察	先行研究をもとに筋力論文の考察をまとめる
2 回	筋電図の論文の考察	先行研究をもとに筋電図論文の考察をまとめる
3 回	筋厚の論文の考察	先行研究をもとに筋厚論文の考察をまとめる
4 回	筋硬度の論文の考察	先行研究をもとに筋硬度論文の考察をまとめる
5 回	考察全体のまとめ	全体を通して考察をまとめる
6 回	修士論文の結語	修士論文の結語を作成する
7 回	修士論文の要旨	修士論文の要旨を作成する
8 回	結語と要旨の作成	全体を通して結語と要旨を検討する
9 回	緒言の発表	緒言のスライドを作成し、プレゼンテーションする
10 回	方法の発表	方法のスライドを作成し、プレゼンテーションする
11 回	結果の発表	結果のスライドを作成し、プレゼンテーションする
12 回	考察の発表	考察のスライドを作成し、プレゼンテーションする
13 回	修士論文全体の発表	修士論文発表会に向けた発表練習する
14 回	発表スライドと発表時間の最終確認と投稿準備	最終的なプレゼンテーションの確認と論文投稿の準備をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献検索やプレゼンテーション資料の作成を実施してもらいます。これらの準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要となる参考書をその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文の完成度ならびにプレゼンテーション（100%）

【学生の意見等からの気づき】

修士論文の執筆に向けて、個別の課題に対応していきます。

【学生が準備すべき機器他】

PC およびプレゼンソフト

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduce how to complete the master's thesis and to learn the presentation skill.

【Learning Objectives】

The end of the course, students should acquire to write master's thesis.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

master's thesis (100%)

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅳ

学部 俊二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の作成、口頭発表の実施

【到達目標】

研究計画に沿って実践して得られた結果について考察し、修士論文を完成させ、口頭発表を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

少人数での集中演習方式で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中間発表資料の作成	中間発表の資料を作成する。
第 2 回	中間発表	修士論文中間発表を行う。
第 3 回	中間発表のフィードバック	中間発表のフィードバックを行い、修士論文の完成に向け執筆の準備を行う。
第 4 回	修士論文の研究デザイン の最終検討	修士論文の研究デザインの最終検討を行い、論文完成への方向性を確認する。
第 5 回	修士論文の作成① アウトラインの作成	論文のアウトライン論文のアウトラインを作成し、執筆指導を行う。
第 6 回	修士論文の作成② 添削・推敲・校正	推敲、校正修士論文の添削から推敲、校正を繰り返す。
第 7 回	修士論文の作成③ 論文形式の構成	論文形式調整さらに修士論文の推敲、校正を繰り返し行い、論文としての形式を整える。
第 8 回	修士論文の執筆④ 構成のチェック	修士論文の全体的な推敲を行い、論文構成のチェックを行う。
第 9 回	修士論文の作成⑤ 最終校正	最終校正修士論文 1 次提出に向け、最終校正を行う。
第 10 回	修士論文 1 次提出	修士論文を完成させ主査、副査に提出し、予備審査を受ける（1 次提出）。
第 11 回	1 次提出された論文の フィードバック	副査も含めた、1 次提出された論文のフィードバックを行い、審査結果を踏まえて、修士論文の推敲を行う。
第 12 回	修士論文口頭発表資料の 作成	修士論文口頭発表資料の作成を行う。
第 13 回	修士論文口頭発表資料の 作成および口頭発表リ ハーサル	修士論文口頭発表の最終チェックを行い、発表のリハーサルを行う。
第 14 回	修士論文最終提出および 口頭試問に向けた準備	修士論文の完成および最終提出、口頭試問に向けた準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験、調査の整理を行い、修士論文の執筆、校正を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に設けない。

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文（60 %）、口頭発表 2 回（30 %）6、平常点（10 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生にとって、有意義な講義を行う。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

【授業の概要（Course outline）】

Students examine the results collected through analysis in accordance with their research plan and then complete a master's thesis.

【到達目標（Learning Objectives）】

The aim of this seminar is to write a master's thesis and make an oral presentation.

The aim of this seminar is to complete a master's thesis and make an oral presentation.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Your study time will be more than four hours for this seminar.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the seminar will be decided based on the following term end examination: master's thesis: 60% oral presentation: 30% usual performance score: 10%.

OTR600I1

スポーツ健康学演習Ⅳ

木下 訓光

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究の考察と修士論文の完成

【到達目標】

- ①論拠に基づき論理的な考察ができるようになる。
- ②研究の delimitation を踏まえたうえで研究の limitation について正しく叙述・記述できるようになる。
- ③論理的な考察に基づき科学的な記述ができるようになる。
- ④国際的ガイドラインに則り、参考文献の記載方法を習得する。
- ⑤原稿の推敲・校正の技術を習得する。
- ⑥学術誌に投稿できる水準の修士論文を執筆・完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

これまでに得られた研究データを踏まえて、設定したりサーチ・クエスチョンおよび仮説の妥当性、研究データの信頼性、研究自体の科学的水準、倫理性を総括・検証し、各データに対して先行研究との比較から考察を行っていく。授業はデータの提示に対して口頭試問・インタビューを行い、ディスカッションをする形式で展開される。研究の限界について考察し、将来の研究計画への展望を考察する。これらを踏まえて修士論文の「考察」「結論」セクションを執筆し、定められた様式に則った推敲水準の高い論文を作成する訓練を経て修士論文の作成を終了させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	研究データの検証	設定したりサーチ・クエスチョン、仮説に基づいて。研究データについて考察する。
2 回	研究データの考察	考察の一貫性・妥当性を検証する。
3 回	研究結果の臨床的意義	研究成果の臨床的意義について検証する。
4 回	研究の限界	研究の限界について考察し、将来の研究計画への展望を考察する。
5 回	研究論文の「結論」	研究の「結論」を決定し、検証する。
6 回	修士論文【草稿】の提示	修士論文全体の草稿を検証する。
7 回	修士論文の校正技術	論文の校正技術について習得し、草稿の参考文献以外について校正を行う。
8 回	参考文献・引用の執筆	参考文献記載方法の国際的指針を学び、これに則って修士論文の「参考文献」セクションを執筆し、提出する。
9 回	参考文献・引用セクションの提示【校正】	参考文献の校正技術について習得し、草稿の参考文献部分について校正を行う。
10 回	研究論文の作成方法	指定された様式・スタイルで論文を記載するための技術を指導する。
11 回	研究発表【予備】	学会形式で研究について口頭発表を行うための準備を行う。発表内容について口頭試問・インタビュー・ディスカッションを行う。
12 回	完成修士論文の提示【予備】	修士論文の草稿を提出し指導を受ける。
13 回	研究発表【最終】	【予備】発表において「指摘された部分を改訂し、再度学会形式で研究について発表を行う。発表内容について口頭試問・インタビュー・ディスカッションを行う。
14 回	完成修士論文の提示【最終】	これまで執筆した修士論文の各セクションをまとめて完成稿を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定した文献の事前精読、課題に対する資料作成。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要な文献などは毎回指定する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文の完成（100%）

【学生の意見等からの気づき】

前年度開講がないため、該当なし。

【その他の重要事項】

臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students also have to finish writing the discussion, limitation, and conclusion section of the thesis. Finally, students have to finish writing the thesis.

【Learning objectives】 The goal of the lecture is to acquire the skill of critical and logical examination and consideration for obtained results of the research, to write the reference section appropriately according to the international guideline, and to obtain the skill of proofreading. Finally, students have to finish writing the thesis.

【Learning activities outside of classroom】 Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 20 hours. Students are strongly encouraged to visit the laboratory for consultation about their thesis frequently.

【Grading criteria/policy】 The grading will be determined on whether or not the students can finish writing the thesis (100%).

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅳ

永木 耕介

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の完成に向けて考察力、まとめる力、そして発信力を高める。

【到達目標】

研究データを論文として纏め上げ、わかりやすくプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スポーツ健康学演習Ⅲで析出した結果に対する考察を深める。その際、スポーツ健康学演習Ⅰで整理した先行研究・文献等をもとにさらなる資料を収集し、結果に対する十分な解釈・説明が果たせるよう指導する。さらに、結果と考察をまとめて一定の結論を導出するとともに、本研究の限界を認識し、今後の課題を提示するよう指導する。それら全体を修士論文としてまとめ、審査に合格した後はできるだけ学会誌への投稿を促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	修士論文中間発表会	大学院2年次の9月（予定）に全体で行われる「修士論文中間発表会」において、研究テーマ、目的、仮説、研究方法、結果を発表するよう指導する。
2 回	学会発表等	研究テーマ、目的、仮説、方法、結果をまとめ、日本体育学会等において一般研究発表ができるよう指導する。
3 回	結果に対する考察①	スポーツ健康学演習Ⅰで収集した先行研究・文献等の考察部分を抽出するとともに、その他の参考資料を収集するよう指導する。
4 回	結果に対する考察②	収集した先行研究・文献等の考察部分を分析・検討するよう指導する。
5 回	結果に対する考察③	検討した先行研究・文献等の考察部分から、本研究の結果の解釈・説明につながる部分を選択し、記述していくよう指導する。
6 回	結果に対する考察④	自らの考え（論証）を加えながら、第一段階としての考察を創り上げるよう指導する。
7 回	結果に対する考察⑤	まとめた考察について、演習内で発表し、意見交換を行う。
8 回	結果に対する考察⑥	意見交換を踏まえ、さらなる文献資料等の収集や自らの考え（論証）の付加を促し、考察を深めるよう指導する。
9 回	結論の導出①	結果と考察をまとめ、一定の結論を導出するよう指導する。

10 回	結論の導出②	導出した結論から、研究の全体像、特に研究テーマ、目的、仮説等との整合性について見直すよう指導する。
11 回	研究の限界、今後の課題の提示	研究の全体像を把握したうえで、研究の限界を認識し、今後の課題を提示するよう指導する。
12 回	修士論文審査の準備①	論文審査会へ向けて、論文の要旨を確認する。
13 回	修士論文審査の準備②	論文審査会へ向けて口頭試問のリハーサルを行う。
14 回	学会誌へ論文投稿の準備	審査に合格後、コンパクトにまとめてできるだけ学会誌へ投稿するように促す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外においても、考察に役立つ文献資料を積極的に読み込むこと。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

保健体育専攻学生卒業論文・修士論文集（日本教育大学協会、全国保健体育・保健研究部門）

【成績評価の方法と基準】

修士論文完成に向けた資料・データの分析、考察・まとめ等の達成度（80%）、修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション（10%）、発表会等への参加態度（10%）

【学生の意見等からの気づき】

研究計画を継続的に見直し、成果を段階的にまとめていくように指導する。

【学生が準備すべき機器他】

パーソナルコンピューター。

【その他の重要事項】

進捗状況によって、指導の順序が入れ替わる場合がある。

【Outline (in English)】

[Course outline] The purpose of this seminar is for students to improve their ability to communicate their thesis through proper summary and integration of information.

[Learning Objectives] Can summarize research data as a paper and present it in an easy-to-understand manner.

[Learning activities outside of classroom] Actively read literature materials that are useful for consideration.

[Grading Criteria /Policy] Achievement of discussion and summary (80%), presentation in master's thesis (10%), academic spirit (10%)

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅳ

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①修士論文作成に必要な研究の文章化、そしてこれを発信する力を高める。
- ②健康・スポーツ体力学に関連した課題をもとに、修士論文の作成、口頭発表の手法を見据えた演習を行う。修士論文作成に向けて実際に文章を執筆し、研究の背景（緒言）や考察の展開方法、提示方法を習得する。

【到達目標】

- ① 研究データを論文として纏め上げ、わかりやすくプレゼンテーションできる。
- ② 実験・調査の結果を使用し、従来の研究に対する研究成果の位置づけを明確化できる。
- ③ 実験・調査で得られたデータが、どのような意義を有するか考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スポーツ・健康体力学に関する研究計画に従って、修士論文に向けた本文の執筆および口頭発表に向けた発表能力の育成を目指します。修士論文の完成および口頭試問における理解しやすいプレゼンテーションの実現を最終的な目標とします。

授業においては、毎回課題を出し、次回の授業で発表した上で、それに対して受講者全体で討論や意見交換を行います。これらの課題遂行、さらには修士論文の完成に向けては、準備および討論等、受講者の主体的な参加が重視となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	修士論文の概略	研究を行う意義について、「緒言」としてまとめるための提示方法、執筆方法を学ぶ。
2 回	修士論文の構成の確認	修士論文中間発表会に向け、研究目的、方法などを再確認し、提示方法について学ぶ。
3 回	修士論文中間発表会に向けた発表練習	修士論文中間発表会への準備として発表練習を行い、受講者間で論議を行う。
4 回	修士論文の再構成	修士論文中間発表会で受けたコメントを受けて、再構成した修士論文全体のアウトラインを発表する。
5 回	研究の位置づけ：「文献研究」の書き方	実験・調査の結果をとりまとめ、「文献研究」を踏まえた上で、研究成果が該当分野のどこに位置づけられるのかを明確にする。
6 回	研究の位置づけ：「文献研究」の提示方法	先行研究を整理し、研究目的が理解できるよう「文献研究」を執筆し、発表する。

7 回	研究背景を理解できる「緒言」の構成	「文献研究」および実験・調査に関する「方法」、「結果」を踏まえ、修士論文の「緒言」部分のアウトラインを執筆して発表する。
8 回	研究背景を理解できる「緒言」の執筆	前回の講義内容に基づき、「緒言」を執筆して発表し、履修者全体で論議する。
9 回	研究結果の解釈：「考察」の構成	得られた結果をどのように「考察」していくべきかについて、様々な手法を学ぶ。
10 回	研究結果の解釈：「考察」の展開方法	前回の講義内容に基づき、「考察」のアウトラインを作成して発表し、論議を行う。
11 回	研究結果の解釈：「考察」の執筆	前回の論議内容に基づき、「考察」を再構成し、内容を発表する。
12 回	修士論文のまとめ：「結語」の提示方法	修士論文全体の「結語」を作成して発表し、主張が首尾一貫しているかどうか、趣旨が明瞭かどうかを確認する。
13 回	修士論文の校正	執筆規定に基づいて本文が書かれているかを確認し、校正を行う。
14 回	要旨の作成	修士論文提出に向けた準備として、要旨の作成法を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則、毎回の課題に加えて、修士論文に関する実験・調査の進行を指示する予定ですので、課された課題に従って予習の作業を行ってください。また、授業での論議に基づいて発表内容を修正して再発表する課題（3, 4, 6～8, 10～12, 15回）も多いため、自らの課題を見直し、復習・修正を行ってください。これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ2時間以上を標準とします。また、4, 8, 11 回目「修士論文の再構成」、「研究背景を理解できる「緒言」の執筆」、「研究結果の解釈：「考察」の執筆」に関する課題の提出は、評価のための必須項目となります。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

・身体活動科学における研究方法/田中喜代次他（訳）/ナッパ
・健康・スポーツ科学のための調査研究法/出村慎一（監）/杏林書院
・ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法/山際勇一郎他/教育出版

【成績評価の方法と基準】

修士論文完成に向けた資料・データの分析、考察・まとめ等の達成度（80%）、修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション（10%）、発表会等への参加態度（10%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度開講していないため、特になし。

【その他の重要事項】

「スポーツ健康学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の単位を取得していることを前提に授業を進行します。なお、進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course, outline】 The class aims to develop graduate students' ability to write a master's thesis and give an oral presentation according to a research plan on sports, health, and physical fitness. In each class, graduate students will be given the assignment to present in the next class, and the whole class will discuss and exchange opinions. In order to accomplish these tasks and to complete the master's thesis, the graduate student's active participation in preparation and discussion will be emphasized. **【Learning Objectives】** By the end of the Course, graduate students should be able to: 1. summarize research data as a master's thesis and present it in an easy-to-understand manner. 2. to clarify the position of one's research results about previous research. 3. Discuss the significance of the data obtained from experiments and surveys. **【Learning activities outside of classroom】** Each class will be instructed on the progress of experiments and investigations related to the master's thesis, so please work according to the assigned tasks. Furthermore, since graduate students are often required to make a presentation based on discussions in class, please review their assignments, and review and revise them. In addition, the submission of assignments on "Restructuring the master's Thesis," "Writing an Introduction to Understand the Research Background," and "Writing a Discussion as an Interpretation of the Research Findings" are required for evaluation. **【Grading Criteria /Policy】** Achievement in analyzing, discussing, and summarizing materials and data for completing the master's thesis (80%), presentation at the interim presentation of the master's thesis (10%), and attitude toward participation in presentations (10%).

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅳ

平野 裕一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツバイオメカニクス、トレーニング科学に関する修士論文を完成させ、プレゼンテーションする力を高める。

【到達目標】

修士論文の「考察」を深め、全体を完成させる。さらに学会発表に備えてプレゼンテーションスキルを向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

修士論文の「考察」をまとめ、結語と要旨を作成し、必要な補足をする。また論文全体についてディスカッションし、プレゼンテーションもする。さらに、論文の投稿先を検討し、投稿規定に合わせた修正をする。途中で逐次内容のフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	MC 論文の「考察」のまとめ	MC 論文の「考察」をまとめる
2 回	VTR 論文の「考察」のまとめ	VTR 論文の「考察」をまとめる
3 回	技術測定論文の「考察」のまとめ	技術測定論文の「考察」をまとめる
4 回	「考察」のまとめ	全体を通して「考察」をまとめる
5 回	MC 論文の「結語」と「要旨」の作成	MC 論文の「結語」と「要旨」を作成し、必要な補足をする
6 回	VTR 論文の「結語」と「要旨」の作成	VTR 論文の「結語」と「要旨」を作成し、必要な補足をする
7 回	技術測定論文の「結語」と「要旨」の作成	技術測定論文の「結語」と「要旨」を作成し、必要な補足をする
8 回	「結語」と「要旨」の作成	全体を通して「結語」と「要旨」を検討し、必要な補足をする
9 回	MC 論文の発表	MC 論文をプレゼンし、ディスカッションする
10 回	VTR 論文の発表	VTR 論文をプレゼンし、ディスカッションする
11 回	技術測定論文の発表	技術測定論文をプレゼンし、ディスカッションする
12 回	MC 論文のポスター作成と投稿準備	MC 論文のポスターを作成し、発表練習する。加えて論文投稿の準備をする
13 回	VTR 論文のポスター作成と投稿準備	VTR 論文のポスターを作成し、発表練習する。加えて論文投稿の準備をする
14 回	技術測定論文のポスター作成と投稿準備	技術測定論文のポスターを作成し、発表練習する。加えて論文投稿の準備をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成に向けて、自分の研究背景および意義、研究方法、結果、考察を検討・修正する。また、全体を表すパワーポイントを作成してプレゼンテーションする。復習として、検討・修正に 4 時間、パワーポイント作成とプレゼンテーション練習に 4 時間を用いる。

【テキスト（教科書）】

その都度紹介する。

【参考書】

「バイオメカニクス 人体運動の力学と制御」D.A.Winter, ラウンドフラット, 2011, 7000 円

「身体運動のバイオメカニクス研究法」D.G.E.Robertson, 大修館書店, 2008, 3800 円

【成績評価の方法と基準】

修士論文完成に向けた資料・データの分析、考察・まとめ等の達成度（100%）

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーションを多くするためにオフィスアワーを活用する

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class asks the students to write up the master's thesis and to learn the presentation skill.

【Learning Objectives】

Objectives are to write up the master's thesis and to improve the presentation skill for the research.

【Learning activities outside of classroom】

Students examine their own master's thesis and make the PPT slides of the research for presentation.

【Grading Criteria/Policy】

master's thesis (100%)

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅳ

山本 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究テーマの進捗状況に応じて、周辺の情報整理、調査の正確性、統計の適正適用、インタビューの分類などをチェックしながら、修士論文完成に向けての道をつける。

【到達目標】

完成度の高い修士論文執筆はもとより、そこに時代と土地（「いま」「どこで」）、社会環境の反映された論旨が展開できることを目標とする。そのためには、研究テーマの舞台となる国や地域の特性をしっかりとわきまえた上での、大所高所からの指摘につなげる。国が違えば、受け止め方、受容の層に違いが生まれ、時代が異なっても同じような変異が生じる。社会の揺れがどこから生まれたのか、照準を正確に当てながら、2023年の時代をしっかりと切り取ることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

研究の進展に伴って、時間を合理的に捻出。調査、研究が一段落を迎えるところで、随時、集中的にセミナーを行う。途中経過ではブロックごとのプレゼンテーションや、他の商都の整合性を確認するなど、大局観を失わないようにしながら、執筆を進める。子細分析のチェック、思い込みによる記述などを排除しながら、完成に向ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	完成度チェック	個別の確認。論文の章ごとの完成度をチェックする。
2	整合性とバランス確認	整合性の確認、とりわけ論文の章と章との間の整合性を確認する。
3	国内外の文化比較	論文の中に現れる彼我の世界観の違いが、統一した論旨を阻害していないか検証する。
4	内外論文比較	類似論文の論調を分析しながら、自己の研究に照らし合わせて瑕疵を探る。
5	論旨チェック	複数の章にまたがって、論旨の流れの向かう先を検証する。
6	連動情報検証	調査から時間を経過したところで、調査結果に連動する情報を確認する。
7	研究内容精査	インタビュー、聞き取りの声を改めて洗い出し、世論の反応などを参考に研究内容を精査する。
8	メガイベント検証	メガイベントの社会の反応「W 杯ラグビー」「サッカー女子 W 杯」「世界陸上」などを検証し、研究に反映させる。
9	校正チェック	論文の内容のチェック。論旨の整合性、使用語の校正をかける。
10	情報再確認	データ、情報、調査結果の数値、索引などのチェック。
11	最終校正	全体を再確認する。引用、出典チェックをかける。
12	プレゼンテーションのブロックを検証する	プレゼンテーションをスライドごとに、お互いの関連を考慮しながら再考する。
13	発表トータル検証	研究成果のプレゼンテーションを完成させ、抄録のチェックをする。
14	完成前点検	研究全体を改めて確認するとともにチェックシートを点検する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究だけではなく、時代とともに公開される類似分野の論文、書籍には間断なく目を通すこと。これは、国外の研究に関しても該当することを忘れないこと。この授業の準備学習・復習時間は少なくともそれぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

事前指定はない。

【参考書】

研究テーマにしたがって随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論文執筆の過程での思考の流れ、情報選択、国内外論文へのアプローチ、聞き取り相手の選択と実施、調査方法の適性を検証。これを 20 %。

論文本編の評価を 80 %。

【学生の意見等からの気づき】

ポイントを逃さない指導と、範囲をやや広げた、調査対象人物の紹介を積極的に進めたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン。

【その他の重要事項】

比較的新分野の研究であることに鑑み、内外の論文を積極的に渉猟すること。

【Outline (in English)】

(Course Outline) Depending on the progress of the research theme, check the organization of surrounding information, the accuracy of the survey, the appropriate application of statistics, the classification of interviews, etc., and pave the way to completing the master's thesis.

(Learning Objectives) The goal is not only to write a highly complete master's thesis, but also to be able to develop a thesis that reflects the time, place ("now", "where"), and social environment. In order to do so, it is necessary to have a firm understanding of the characteristics of the country or region that will be the stage of the research theme, and to point this out from a broader perspective. If the country is different, there will be differences in how to receive it and the layer of acceptance, and even if the times are different, similar variations will occur. The goal is to accurately cut out the era of 2023 while accurately aiming at where the social turmoil was born.

(Learning Activities Outside of Classroom) In addition to previous research, read papers and books in similar fields published over time without interruption. Remember that this also applies to research abroad. The standard preparation and review time for this class is at least 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy) Verification of flow of thought in the process of writing a thesis, selection of information, approach to domestic and foreign papers, selection and implementation of interviewees, and adequacy of research methods. 20% of this.

80% evaluation of the main article.

HSS50011

スポーツ健康学高度開発特論 A (ヘルス領域)

泉 重樹、越智 英輔、鬼頭 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学高度開発特論 A（ヘルス系）では、医科学的なアプローチから、身体の構造と機能に基づく評価・処置、運動器リハビリテーションに関する専門的知識や技能を修得する。運動科学的アプローチからは、機能解剖学、運動生理学、運動指導について、健康科学的アプローチから、健康教育・公衆衛生学に関する専門的知識を修得する。以上により、生涯を通じての積極的な健康づくりを支援・指導できるようになるための専門的知識や技能を修得し、健康づくりの高度な促進を支援・指導できるようになることを目的とする。

【到達目標】

健康づくりの高度な促進を支援・指導するための知識と技能の修得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

医科学的アプローチ（泉）から身体の構造と機能に基づく評価・処置、運動器リハビリテーションについて解説し、運動科学的アプローチ（泉、越智）から機能解剖学、運動生理学、運動指導について解説する。健康科学的アプローチ（鬼頭）から健康教育・公衆衛生学については解説する。なお、研究倫理教育として、本学が指定する e ラーニングコースを利用した講義を 1 コマ分を行う（担当：鬼頭）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究倫理について	研究倫理教育の一環として、研究者によるねつ造、剽窃等の不正行為の徹底した防止を目的に、本学が指定する e ラーニングコースを利用した講義を行う（担当：鬼頭）。
第 2 回	機能解剖学、健康科学の研究分野と課題	機能解剖学、健康科学、運動器リハビリテーション分野の具体的研究を紹介しそれぞれの研究分野やあるいは重複する分野を紹介しながら整理する（担当：泉）。
第 3 回	姿勢とアライメントが運動器に及ぼす影響についての研究課題	正常な姿勢を理解し実際に修得し、これから逸脱した時のストレスがどこにかかるかなどを体験しながら考察していく。こうしたマルアライメントが運動器疾患に及ぼす影響についての研究を紹介し議論する（担当：泉）。
第 4 回	習慣的動作が運動器に及ぼす影響についての研究課題	日常生活動作に関わる正常な動作パターンを理解し、これから逸脱した時のストレスがどこにかかるかを体験しながら考察していく。正常から逸脱した動作パターンを繰り返すことで引き起こされる運動器の障害について研究論文を紹介し議論する（担当：泉）。
第 5 回	アスレティックトレーニング	日本のアスレティックトレーニングを北米のアスレティックトレーニングの歴史と現状を対比させながら紹介し超高齢社会の日本におけるヘルスケア専門職としての役割を議論する（担当：泉）。
第 6 回	スポーツ現場の安全管理	本邦のスポーツ時緊急対応計画の現状を米国のスポーツ現場の安全管理の最新状況と対比させながら紹介するとともにスポーツ現場の安全管理の実態に関して議論する（担当：泉）。
第 7 回	外傷・障害予防	アスレティックトレーナーを中心にスポーツ現場で行われる外傷・障害予防に関する研究を紹介しながらスポーツ傷害を「防ぐことが可能である必然的な事象」として向き合うための方策について議論する（担当：泉）。

第 8 回	コンディショニング・リコンディショニング	外傷・障害の受傷から競技復帰までの取り組みについて主に外傷・障害評価および運動器リハビリテーションの観点から研究を紹介しスポーツにおける多職種役割と連携について議論する（担当：泉）。
第 9 回	身体運動科学、運動生理学の視点による運動科学①	運動生理学的視点から健康の維持・増進および疾病予防を理解する。関連する最新の知見からライフステージ別あるいは疾患別に解説およびディスカッションする（担当：越智）。
第 10 回	身体運動科学、運動生理学の視点による運動科学②	健康づくりを高度に促進するための運動・栄養摂取について理解を深める。特に運動に伴う骨格筋の損傷・肥大に関して、先端的知見をミクロ・マクロの視点から解説およびディスカッションする（担当：越智）。
第 11 回	身体運動科学、運動生理学の視点による運動科学③	健康づくりを高度に促進するための運動・栄養摂取について理解を深める。特に運動に伴う呼吸循環器系の応答・適応に関して、先端的知見をミクロ・マクロの視点から解説およびディスカッションする（担当：越智）。
第 12 回	健康教育の視点による健康科学①	生涯を通じての健康を妨げる要因、危険行動について現状把握と課題克服に向けての取組の在り方について論じる。（担当：鬼頭）
第 13 回	健康教育の視点による健康科学②	学校教育における健康教育の課題と対応について論じる。（担当：鬼頭）
第 14 回	公衆衛生学の視点による健康科学	健康への環境対策や感染症対策などに焦点を当て、疫学的な視点も踏まえて、対策の手立て等について論じる。（担当：鬼頭）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オムニバス形式により担当教員が各々の専門的授業を行うので、専門的知識の予習・復習が必要となる。予習・復習少なくとも 2 時間は必要。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を配付する。

【参考書】

適宜、資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

授業での取組状況（参加態度による）(40 点)、レポート 60 点（担当者：鬼頭、泉、越智が 20 点満点で評価）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

泉担当：特になし。越智担当：特になし。鬼頭担当：ノートパソコン。

【その他の重要事項】

各担当教員による授業の順番は進捗状況によって変更することがある。

【Outline (in English)】

(Learning Objectives)

Students will acquire the knowledge, and skills to be able to support and lead on health promotion through one's life.

(learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Reports(60%),in class contribution(40%)

HSS5001I

スポーツ健康学高度開発特論 B (マネジメント領域)

伊藤 真紀、吉田 政幸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1～2 年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学高度開発特論 B (マネジメント系) では、スポーツ組織のマネジメントに関する基礎的かつ専門的知識を修得することを目的とし、履修者はスポーツ組織の内部環境と外部環境のマネジメントについて学ぶ。スポーツ組織の内部環境のマネジメントについてはスポーツ組織論のアプローチから理解を深める。スポーツ組織の外部環境のマネジメントについては、スポーツマーケティング論のアプローチから学習する。

【到達目標】

高度なスポーツマネジメント能力の向上において不可欠な (1) スポーツ組織の内部環境のマネジメント (スポーツ組織論) と (2) 外部環境のマネジメント (スポーツマーケティング) について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

学期の前半では組織論、組織行動論、社会心理学などの知見をスポーツへと応用し、スポーツ組織の内部環境のマネジメントの構造、重要概念、理論について学習するとともに、履修者の興味のある事例にそれらをあてはめ、考察する。学期の後半ではマーケティング論、消費者行動論、社会心理学などの知見をスポーツへと応用し、スポーツ組織の外部環境のマネジメントの構造、重要概念、理論について学び、併せて履修者の興味のある事例にそれらを適応・調整することで理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	研究倫理について	研究倫理教育の一環として、研究者によるねつ造、剽窃等の不正行為の徹底した防止を目的に、本学が指定する e ラーニングコースを利用した講義を行う (担当：伊藤)。
第 2 回	組織行動論	組織論の目的、組織とは何か、組織の分類、組織の境界線、経営組織と集団行動 (チームのダイナミクス)、組織文化について学習する (担当：伊藤)。
第 3 回	個人の理解 (パーソナリティと対人認知)	パーソナリティと組織行動について学習する。組織における対人認知、対人的コミュニケーションと組織コミュニケーション、組織における効果的なコミュニケーション戦略について理解を深める (担当：伊藤)。
第 4 回	組織の中の集団	組織の中の集団チームを理解する。コミュニケーションプロセス並びに異文化コミュニケーションについて理解する (担当：伊藤)。
第 5 回	動機付けの基本的なコンセプト	モチベーション理論 (自己決定理論、期待理論など) を理解し、人のモチベーションのメカニズムを理解する (担当：伊藤)。
第 6 回	モチベーション理論 (自己決定理論、期待理論など) を理解し、人のモチベーションのメカニズムを理解する (担当：伊藤)。	リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する (担当：伊藤)。
第 7 回	組織変革と組織開発	組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を理解し、スポーツ組織における組織形態について学習し、組織開発におけるマネジメントについて学習する (担当：伊藤)。
第 8 回	スポーツビジネスと顧客満足	人々がスポーツに求めるニーズに応え、顧客満足を獲得することはスポーツ組織の重要なマーケティング目標である。今回はこのテーマについて、顧客満足理論と属性理論の視点から理解を深める (担当：吉田)。

第 9 回	スポーツ消費者態度	人々はスポーツイベント、選手、チーム、スタジアム、開催都市、スポンサーなどに対して好意的、あるいは非好意的な態度を形成する。そのメカニズムを態度理論と精緻化見込みモデルによって説明する (担当：吉田)。
第 10 回	スポーツ消費者の態度変容	人々は外部環境からの刺激や自己の心理状態を理由にスポーツ関連の対象 (イベント、選手、チーム、スポンサー、テクノロジーなど) の評価を変容させる。この変容のプロセスを計画的行動理論とテクノロジー受容モデルの視点から学ぶ (担当：吉田)。
第 11 回	スポーツビジネスと社会的アイデンティティ	スポーツは人々のアイデンティティ形成と密接に関わっている。アイデンティティに基づいたスポーツマーケティングを理解するため、社会的アイデンティティ理論と組織的アイデンティティ理論をスポーツへと応用する (担当：吉田)。
第 12 回	スポーツビジネスと心理的連続モデル	人々はスポーツ関連の対象との関係性を段階的に強めていく。このプロセスを理解するため、心理的連続モデルとスポーツ関与について学習する (担当：吉田)。
第 13 回	スポーツビジネスとブランド	スポーツブランドのイメージは付加価値を生み出す。この価値の構造と高め方について、ブランド価値モデルとブランドビルディング理論の視点から理解を深める (担当：吉田)。
第 14 回	まとめ	これまで学習した内容をまとめ、スポーツマネジメント能力とは何かという疑問に対する答えを導き出す (担当：吉田)。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オムニバス形式により担当教員が各々の専門的授業を行うので、専門的知識の予習・復習が必要となる。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を配付する

【参考書】

適宜、資料を配付する

【成績評価の方法と基準】

スポーツ組織の内部環境のマネジメントに関するレポート：50 点、スポーツ組織の外部環境のマネジメントに関するレポート：50 点

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

The goal of this course is to understand the management principles of sport organizations.

(Learning objectives)

In this course, students will learn both internal and external management theories which include organizational behavior and sport marketing.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters.

(Grading criteria)

Grading will be decided based on mid-term (50%) and final (50%) reports. Upon successful completion of this course, students will be able to understand the logic, importance, and uniqueness of the management of sport organizations.

HSS500I1

スポーツ健康学高度開発特論 C (コーチング領域)

永木 耕介、中澤 史、林 容市、平野 裕一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1~2 年次
 備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学高度開発特論 C (コーチング領域) では、自然科学および心身科学的アプローチから、履修者が高度なスポーツパフォーマンスの発揮・向上に関する専門的知識を修得しつつ、選手・コーチやスポーツ組織の支援・指導について理解を深めることを目的とする。また、人文社会科学的アプローチから、履修者が生涯スポーツに結びつく学校体育や社会一般を含めたスポーツ教育としてのよりよい支援・指導について理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

高度なスポーツパフォーマンス向上に対する支援・指導、および質の高いスポーツ教育の支援・指導について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

自然科学的アプローチ（平野：バイオメカニクス、林：体力学・体力測定評価学）からスポーツパフォーマンス向上のための体力や身体の機能と構造・メカニクス、測定・評価方法等について解説し、さらに心身科学的アプローチ（中澤：スポーツ心理学）から人格形成に及ぼす効果やメンタルトレーニングの技術・方法について解説する。また、人文社会科学的アプローチ（永木：スポーツ教育学）から生涯スポーツ教育について解説する。なお、研究倫理教育として、本学が指定する e ラーニングコースを利用した講義を 1 コマ分を行う（担当：永木）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究倫理について	研究倫理教育の一環として、研究者によるねつ造、剽窃等の不正行為の徹底した防止を目的に、本学が指定する e ラーニングコースを利用した講義を行う（担当：永木）。
第 2 回	生涯スポーツ教育① -学校体育の目標の変遷-	日本の学校体育がどのような目標と内容によって行われてきたのかについて諸外国との比較を踏まえて解説し、ディスカッションを通して理解を深める（担当：永木）。
第 3 回	生涯スポーツ教育② -学校運動部と学校外クラブについて-	日本のスポーツを支えてきた学校運動部および学校外クラブのこれまでと今後のあり方について講述し、ディスカッションを通して理解を深める（担当：永木）。
第 4 回	生涯スポーツ教育③ -スポーツの教育的価値とは何か-	スポーツの教育的価値がどのように捉えられてきたかについて、日本と諸外国を対比させながら講述し、ディスカッションを通して理解を深める（担当：永木）。
第 5 回	トレーニング科学① -フィジカル・トレーニングの理論と支援-	新しいフィジカル・トレーニングの内容・方法を紹介し、そのメカニズムの理解を深める一方で、それらを活用したトレーニング支援の現状と課題を解説する。（担当：平野）
第 6 回	トレーニング科学② -スキル・トレーニングの理論と支援-	心理学で検討されてきたスキル・トレーニングと生理学で検討されてきたそれとを対比・検討する一方で、スキル向上を支援するバイオメカニクスと IT 活用の現状と課題を解説する。（担当：平野）
第 7 回	トレーニング科学③ -スポーツバイオメカニクスの役割とは-	フィジカルおよびスキル・トレーニングで変容した身体機能が動作として表出されるので、それをスポーツバイオメカニクスがどのように解析しているか、変遷を含めて解説する。（担当：平野）

第 8 回	体力学・測定評価学① -体力測定・評価で明らかになるものとは-	スポーツやトレーニング時の身体状態などを測定・評価する種々のテストについて解説し、国内外におけるテストの開発や評価法の変遷について理解を深める（担当：林）。
第 9 回	体力学・測定評価学② -体力測定・評価の信頼性・妥当性-	体力やパフォーマンスを測定する種々のテストの妥当性、評価の信頼性について解説し、テストで得られる結果と生理的要因などとの関連について理解を深める（担当：林）。
第 10 回	体力学・測定評価学③ -データを分析・評価法とする適切な統計手法-	体力・パフォーマンステストで得られた結果を分析・評価する方法、さらに代表的な統計手法を解説し、適切な測定・評価を選択できる能力を身につける（担当：林）。
第 11 回	応用スポーツ心理学に依拠したアスリートの心理支援	応用スポーツ心理学に依拠したアスリートの心理支援に関する先行研究を提示し、その支援の競技力向上効果についてディスカッションを通して理解を深める（担当：中澤）。
第 12 回	臨床スポーツ心理学に依拠したアスリートの心理支援	臨床スポーツ心理学に依拠したアスリートの心理支援に関する先行研究を提示し、その支援の競技力向上効果についてディスカッションを通して理解を深める（担当：中澤）。
第 13 回	心理支援におけるアスリートの心理社会的スキル	人間関係の軋轢、進路、怪我などの心理的課題を訴えるアスリートへの心理支援に関する先行研究を提示し、その支援がアスリートの心理社会的スキルの向上に及ぼす効果についてディスカッションを通して理解を深める（担当：中澤）。
第 14 回	心理支援におけるアスリートの人格形成	人間関係の軋轢、進路、怪我などの心理的課題を訴えるアスリートへの心理支援に関する先行研究を提示し、その支援がアスリートの人格形成に及ぼす効果についてディスカッションを通して理解を深める（担当：中澤）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オムニバス形式により担当教員が各々の専門的授業を行うため、毎回の授業に対して専門的知識の予習・復習をそれぞれ 2 時間以上行うことを想定し、各授業を実施します。

【テキスト（教科書）】
適宜、資料を配付します。

【参考書】

永木担当：『気概と行動の教育者-嘉納治五郎』（生誕 150 周年記念出版委員会編、筑波大学出版会、2011）、『中学校学習指導要領・保健体育編解説』（文部科学省、東山書房、2017）、『体育の人間形成論』（友添秀則、大修館書店、2009）、『よくわかるスポーツ倫理学』（友添秀則編著、ミネルヴァ書房、2017）
 中澤担当：『スポーツメンタルトレーニング教本三訂版』（日本スポーツ心理学会（編）、大修館書店 2016）

【成績評価の方法と基準】

授業参加態度点（40 点）、レポート 60 点（担当者：永木・平野・林・中澤が 15 点満点で評価）

【学生の意見等からの気づき】

博士論文の作成に向けて参考になる情報や資料の提示を心がけた授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

永木担当：特になし。
 平野担当：必要に応じて授業中に指示する。
 林担当：必要に応じて授業中に指示する。
 中澤担当：特になし。

【その他の重要事項】

各担当教員による授業の順番は進捗状況によって変更することがあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this class is to study students' acquired expertise on the demonstration and improvement of advanced sports performance through natural and psychosomatic science approaches and to deepen understanding of how to provide support and guidance to athletes, coaches, and sports organizations. In addition, students will deepen their understanding of providing better support and guidance in sports education related to school physical education and lifelong sports through the humanities and social science approach.

【Learning Objectives】

Promote a greater understanding of support and coaching for improved sports performance and quality sports education.

【Learning activities outside of classroom】

This course is taught in an omnibus format by the faculty members in charge of each specialty and requires 2 hours of preparation and review for each class of specialized knowledge of the faculty members.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on the contents of class participation (not attendance) (40 %) and the evaluation of a report (60%).

OTR70011

スポーツ健康学高度開発研究 I

越智 英輔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1 年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究倫理の徹底や論文英語のリーディング・ライティングの能力等、基礎的な研究スキルを高めながら、研究テーマに関する先行研究・情報データの蒐集とそれらの整理・検討の方法についての支援・指導を行い、研究構想・計画の立案を行うことを目的とする。

【到達目標】

博士論文作成へ向け、研究の構想を練り計画を立案する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 1」、「DP 2」に関連

【授業の進め方と方法】

最新のトピック、研究の新規性に対する理解を深めるため、国内外の先行研究を収集し、レビューする。また、運動生理学だけでなく生理学や生化学・分子生物学等の関連領域の実験法も広く視野に入れ、基礎的な研究力を培い、研究構想・計画の立案を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの想定①	博士論文作成へ向けて、修士論文との関連を踏まえてどのような研究テーマに関心があるのか、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 2 回	研究テーマの想定②	想定する研究テーマの意義・目的、独創性等について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 3 回	先行研究・文献資料の収集①	想定する研究テーマに対して、履修者がこれまでに収集した先行研究・文献資料にはどのようなものがあるのかについてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行う。
第 4 回	先行研究・文献資料の収集②	必要な先行研究・文献資料の検索についてインターネットによる調査方法を演習し、また国会図書館、各大学図書館等における資料収集についても推奨し、網羅的な収集の支援・指導を行う。
第 5 回	外国語（英語）文献の講読①	履修者が新たに入手した英語による重要な先行研究・文献資料を指導教員とともに講読し、意見交換を行う。
第 6 回	外国語（英語）文献の講読②	前回に加え、英語による重要な先行研究・文献資料を教員とともに講読し、意見交換を行う。
第 7 回	先行研究・文献資料の整理・検討①	先行研究・文献資料の整理・検討の方法（タグ付、カテゴライズ、ソフトウェア等）について指導を行う。
第 8 回	先行研究・文献資料の整理・検討②	履修者が研究テーマと関わる重要な複数の先行研究・文献資料を取り上げ、それらの共通性と相違性、実験法についてプレゼンテーションし、意見交換と指導を行う。
第 9 回	外国語（英語）によるプレゼンテーション①	履修者が前回で明らかとなった重要な複数の先行研究・文献資料の共通性と相違性、実験法について英語でプレゼンテーションし、意見交換と指導を行う。
第 10 回	先行研究・文献資料の整理・検討③	研究テーマと関わる重要な複数の先行研究・文献資料の整理・検討を通して、これまで何が明らかなのか、今後の課題は何かについて履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。

第 11 回	外国語（英語）によるプレゼンテーション②	履修者がこれまでの先行研究・文献資料で明らかとなっている点、および今後の課題について英語でプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 12 回	研究テーマの検討①	先行研究・文献資料の傾向を踏まえ、暫定的な研究テーマの意義、独創性等についてさらに検討するよう指導する。
第 13 回	研究テーマの検討②	先行研究・文献資料の傾向を踏まえた暫定的な研究テーマの意義、独創性等について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 14 回	暫定的な研究テーマの設定	ここまでの作業を踏まえ、暫定的な研究テーマを設定するよう指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究等の収集と検討、日本語および英語によるプレゼンテーションの準備。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜、資料を配付。

【成績評価の方法と基準】

資料収集力および分析能力（50%）、プレゼンテーション力（50%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト、文献整理用ソフトウェア

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic components of research works at PhD course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding to find the previous studies that the student will be useful to plan the PhD thesis.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria / Policies: Grading will be decided based on lab reports (50%) and presentations (50%)

OTR70011

スポーツ健康学高度開発研究 I

鬼頭 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1 年次
 備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究倫理の徹底や論文英語のリーディング・ライティングの能力等、基礎的な研究スキルを高めながら、研究テーマに関する先行研究・情報データの蒐集とそれらの整理・検討の方法についての支援・指導を行い、研究構想・計画の立案を行うことを目的とする。

【到達目標】

着手しようとする研究テーマについて、既存の論文の内容検討を行い、探求しようとする研究内容の新規性を明確化できるようにする。そのうえで、研究計画を立案し、研究の実施に向けて進めることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 1」、「DP 2」に関連

【授業の進め方と方法】

設定した研究テーマと研究実施計画を踏まえ、具体的に予備調査を実施し、結果の解析を進めることにより信頼性、妥当性の検証及び本調査に向けての基礎資料を得るようにする。

本調査に向けての研究計画の立案と方法についてディスカッションにより内容の改善を図り、予備調査の結果を分析して改善の工夫を講じる。受講者間の意見交換により、他者からの異なる視点も視野に入れられるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの構想検討	博士論文作成へ向けて、修士論文との関連を踏まえて、着手しようとする研究テーマの妥当性について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 2 回	研究テーマの内容検討	想定する研究テーマの意義・目的、独創性等について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 3 回	先行研究・文献資料の収集	想定する研究テーマに対して、履修者がこれまでに収集した先行研究・文献資料にはどのようなものがあるのかについてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行う。
第 4 回	先行研究・文献資料の内容検討	必要な先行研究・文献資料の検索についてインターネットによる調査方法を演習し、各大学図書館等における資料収集についても推奨し、網羅的な収集の支援・指導を行う。
第 5 回	外国語（英語）文献の講読	履修者が新たに入手した英語による重要な先行研究・文献資料を指導教員とともに講読し、意見交換を行う。
第 6 回	テーマを補完する文献の講読	前回に加え、英語による重要な先行研究・文献資料を教員とともに講読し、意見交換を行う。
第 7 回	関連領域の論文についてのレビュー	先行研究・文献資料の整理・検討の方法（タグ付、カテゴリズ、ソフトウェア等）について指導を行う。
第 8 回	先行研究・文献資料と研究テーマとの関連性について整理	履修者が研究テーマと関わる重要な複数の先行研究・文献資料を取り上げ、それらの共通性と相違性、実験法についてプレゼンテーションし、意見交換と指導を行う。
第 9 回	外国語（英語）によるプレゼンテーション	履修者が前回で明らかとなった重要な複数の先行研究・文献資料の共通性と相違性、実験法について英語でプレゼンテーションし、意見交換と指導を行う。

第 10 回	先行研究・文献資料の整理・検討③	研究テーマと関わる重要な複数の先行研究・文献資料の整理・検討を通して、これまで何が明らかなのか、今後の課題は何かについて履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 11 回	外国語（英語）によるプレゼンテーション②	履修者がこれまでの先行研究・文献資料で明らかとなっている点、および今後の課題について英語でプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 12 回	研究テーマの検討①	先行研究・文献資料の傾向を踏まえ、暫定的な研究テーマの意義、独創性等についてさらに検討するよう指導する。
第 13 回	研究テーマの検討②	先行研究・文献資料の傾向を踏まえた暫定的な研究テーマの意義、独創性等について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 14 回	暫定的な研究テーマの設定	ここまでの作業を踏まえ、暫定的な研究テーマを設定するよう指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究等の収集と検討、日本語および英語によるプレゼンテーションの準備。準備にかかる時間は事前・事後も含め 4 時間以上は必要。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜、資料を配付。

【成績評価の方法と基準】

資料収集力および分析能力（50%）、プレゼンテーション力（50%）

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業でのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト、文献整理用ソフトウェア

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic components of research works at PhD course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding to find the previous studies that the student will be useful to plan the PhD thesis.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria / Policies: Grading will be decided based on lab reports (50%) and presentations (50%)

OTR70011

スポーツ健康学高度開発研究 I

平野 裕一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1 年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究倫理の徹底や論文英語のリーディング・ライティングの能力等、基礎的な研究スキルを高めながら、研究テーマに関する先行研究・情報データの蒐集とそれらの整理・検討の方法についての支援・指導を行い、研究構想・計画の立案を行うことを目的とする。

【到達目標】

博士論文作成へ向け、研究の構想を練り計画を立案する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 1」、「DP 2」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツバイオメカニクスおよびトレーニング科学分野の特性と位置づけを改めて指導する。その上で博士論文の作成に向けて議論を重ねていく。履修者が想定する研究テーマに直結あるいは関連した先行研究の収集、プレゼンテーションを含めたその解釈、そしてデータベース化を指導する。併せて、必要となる測定・分析の原理と手技を指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの想定①	博士論文作成へ向けて、修士論文との関連を踏まえてどのような研究テーマに関心があるのか、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 2 回	研究テーマの想定②	想定する研究テーマの意義・目的、独創性等について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 3 回	先行研究・文献資料の収集①	想定する研究テーマに対して、履修者がこれまでに収集した先行研究・文献資料にはどのようなものがあるのかについてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行う。
第 4 回	先行研究・文献資料の収集②	必要な先行研究・文献資料の検索についてインターネットによる調査方法を演習し、また国会図書館、各大学図書館等における資料収集についても推奨し、網羅的な収集の支援・指導を行う。
第 5 回	外国語（英語）文献の講読①	履修者が新たに入手した英語による重要な先行研究・文献資料を指導教員とともに講読し、意見交換を行う。
第 6 回	外国語（英語）文献の講読②	前回に加え、英語による重要な先行研究・文献資料を教員とともに講読し、意見交換を行う。
第 7 回	先行研究・文献資料の整理・検討①	先行研究・文献資料の整理・検討の方法（タグ付、カテゴライズ、ソフトウェア等）について指導を行う。
第 8 回	先行研究・文献資料の整理・検討②	履修者が研究テーマと関わる重要な複数の先行研究・文献資料を取り上げ、それらの共通性と相違性、実験法についてプレゼンテーションし、意見交換と指導を行う。
第 9 回	外国語（英語）によるプレゼンテーション①	履修者が前回で明らかとなった重要な複数の先行研究・文献資料の共通性と相違性、実験法について英語でプレゼンテーションし、意見交換と指導を行う。
第 10 回	先行研究・文献資料の整理・検討③	研究テーマと関わる重要な複数の先行研究・文献資料の整理・検討を通して、これまで何が明らかなのか、今後の課題は何かについて履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。

第 11 回	外国語（英語）によるプレゼンテーション②	履修者がこれまでの先行研究・文献資料で明らかとなっている点、および今後の課題について英語でプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 12 回	研究テーマの検討①	先行研究・文献資料の傾向を踏まえ、暫定的な研究テーマの意義、独創性等についてさらに検討するよう指導する。
第 13 回	研究テーマの検討②	先行研究・文献資料の傾向を踏まえた暫定的な研究テーマの意義、独創性等について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 14 回	暫定的な研究テーマの設定	ここまでの作業を踏まえ、暫定的な研究テーマを設定するよう指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究等の収集と検討、日本語および英語によるプレゼンテーションの準備。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜、資料を配付。

【成績評価の方法と基準】

資料収集力および分析能力（50%）、プレゼンテーション力（50%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト、文献整理用ソフトウェア

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic components of research works at PhD course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding to find the previous studies that the student will be useful to plan the PhD thesis.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria / Policies: Grading will be decided based on lab reports (50%) and presentations (50%)

OTR70011

スポーツ健康学高度開発研究Ⅱ

越智 英輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先行研究・情報データの分析・検討結果をまとめ、研究テーマに関するこれまでの国内外の研究成果と課題を整理するとともに、博士論文の研究計画を確立するための支援・指導を行う。また、1 年次の後期に設定される博士論文計画発表会を機に、プレゼンテーション力・論理的説明力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

博士論文作成へ向け、暫定的な目的・方法・仮説等を備えた研究計画を確立し、また、学会発表等スムーズに行うためのプレゼンテーション力・論理的説明力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 2」、「DP3」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

運動生理学分野のこれまでの研究成果と課題を明確にすることで、博士論文における研究目的および研究計画を明確に設定する。また、1 年次の後期に設定される博士論文計画発表会に向けて、プレゼンテーション力・論理的説明力を向上させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の意義・目的	研究の意義・目的について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 2 回	研究の独創性	研究の独創性について、これまでの先行研究と対比させながら履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 3 回	実験法の紹介	研究に関連した実験法について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 4 回	実験法の選定	前回紹介・意見交換した実験法のうち、研究目的に最適な手法を履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 5 回	暫定的な仮説構成	研究目的に照らし、選択した対象と方法からどのような結果が予想されるかについて、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 6 回	研究計画発表会の準備	研究計画発表会（公聴会）のリハーサルとして、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 7 回	倫理的配慮について	インフォームドコンセント、個人情報の保護等、倫理的配慮について説明し、確認する。
第 8 回	統計分析法①	基本的なデータ処理法、相関解析等について解説し、履修者が実際にソフトウェアを用いて演習する。
第 9 回	統計分析法②	T検定、一元配置分散分析等について解説し、履修者が演習する。
第 10 回	統計分析法③	二元配置分散分析、多重比較検定等について解説し、履修者が演習する。
第 11 回	内容分析・カテゴリー分析	文献資料等の分析法について解説し、履修者が演習する。
第 12 回	実験法と分析方法の整合性	実験法と分析方法のマッチングについて履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 13 回	研究計画の確立①	研究目的・方法・仮説構成を見定め、具体的な研究計画を確立するよう指導する。

第 14 回 研究計画の確立②

作成した研究計画を履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各プレゼンテーションの準備、研究方法の予習・復習

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

研究計画の立案力（40%）、研究方法に対する理解力（40%）、プレゼンテーション力（20%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト、統計分析用ソフト

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces how to summarize the data at PhD course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding to summarize the previous studies and the skills of presentation at PhD thesis.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on research plan (40%), understanding of research methods (40%), and presentations (20%)

OTR70011

スポーツ健康学高度開発研究Ⅱ

鬼頭 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先行研究・情報データの分析・検討結果をまとめ、研究テーマに関するこれまでの国内外の研究成果と課題を整理するとともに、博士論文の研究計画を確立するための支援・指導を行う。また、1 年次の後期に設定される博士論文計画発表会を機に、プレゼンテーション力・論理的説明力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

博士論文作成へ向け、暫定的な目的・方法・仮説等を備えた研究計画を確立し、また、学会発表等をスムーズに行うためのプレゼンテーション力・論理的説明力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 2」、「DP3」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

設定したテーマと研究実施計画を踏まえ、具体的に予備調査を実施し、結果の解析を進めることにより信頼性、妥当性の検証および本調査に向けての基礎資料を得るようにする。

本調査に向けての研究計画の立案と方法についてディスカッションにより内容の改善を図り、予備調査の結果を分析して改善の工夫を講じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の意義・目的	研究の意義・目的について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 2 回	研究の独創性	研究の独創性について、これまでの先行研究と対比させながら履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 3 回	実験法の紹介	研究に関連した実験法について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 4 回	実験法の選定	前回紹介・意見交換した実験法のうち、研究目的に最適な手法を履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 5 回	暫定的な仮説構成	研究目的に照らし、選択した対象と方法からどのような結果が予想されるかについて、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 6 回	研究計画発表会の準備	研究計画発表会（公聴会）のリハーサルとして、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 7 回	倫理的配慮について	インフォームドコンセント、個人情報の保護等、倫理的配慮について説明し、確認する。
第 8 回	統計分析法①	基本的なデータ処理法、相関解析等について解説し、履修者が実際にソフトウェアを用いて演習する。
第 9 回	統計分析法②	T検定、一元配置分散分析等について解説し、履修者が演習する。
第 10 回	統計分析法③	二元配置分散分析、多重比較検定等について解説し、履修者が演習する。
第 11 回	内容分析・カテゴリー分析	文献資料等の分析法について解説し、履修者が演習する。
第 12 回	実験法と分析方法の整合性	実験法と分析方法のマッチングについて履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 13 回	研究計画の確立①	研究目的・方法・仮説構成を見定め、具体的な研究計画を確立するよう指導する。

第 14 回 研究計画の確立②

作成した研究計画を履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各プレゼンテーションの準備、研究方法の予習・復習

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

研究計画の立案力（40%）、研究方法に対する理解力（40%）、プレゼンテーション力（20%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト、統計分析用ソフト

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces how to summarize the data at PhD course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding to summarize the previous studies and the skills of presentation at PhD thesis.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on research plan (40%), understanding of research methods (40%), and presentations (20%)

OTR70011

スポーツ健康学高度開発研究Ⅱ

平野 裕一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先行研究・情報データの分析・検討結果をまとめ、研究テーマに関するこれまでの国内外の研究成果と課題を整理するとともに、博士論文の研究計画を確立するための支援・指導を行う。また、1 年次の後期に設定される博士論文計画発表会を機に、プレゼンテーション力・論理的説明力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

博士論文作成へ向け、暫定的な目的・方法・仮説等を備えた研究計画を確立し、また、学会発表等をスムーズに行うためのプレゼンテーション力・論理的説明力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 2」、「DP3」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、春学期に進めてきた測定法の原理の理解と手技の習得について、トレーニング科学分野に関わるものを継続する。続いて、先行研究の収集・解釈、データベース化を通じて、履修者が想定した研究テーマを掘り下げ、研究計画を立てる指導を行う。そして計画発表会において受けた意見・指摘を踏まえて、研究計画をより有意義なものへと発展させる指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の意義・目的	研究の意義・目的について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 2 回	研究の独創性	研究の独創性について、これまでの先行研究と対比させながら履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 3 回	実験法の紹介	研究に関連した実験法について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 4 回	実験法の選定	前回紹介・意見交換した実験法のうち、研究目的に最適な手法を履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 5 回	暫定的な仮説構成	研究目的に照らし、選択した対象と方法からどのような結果が予想されるかについて、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 6 回	研究計画発表会の準備	研究計画発表会（公聴会）のリハーサルとして、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 7 回	倫理的配慮について	インフォームドコンセント、個人情報の保護等、倫理的配慮について説明し、確認する。
第 8 回	統計分析法①	基本的なデータ処理法、相関解析等について解説し、履修者が実際にソフトウェアを用いて演習する。
第 9 回	統計分析法②	T検定、一元配置分散分析等について解説し、履修者が演習する。
第 10 回	統計分析法③	二元配置分散分析、多重比較検定等について解説し、履修者が演習する。
第 11 回	内容分析・カテゴリー分析	文献資料等の分析法について解説し、履修者が演習する。
第 12 回	実験法と分析方法の整合性	実験法と分析方法のマッチングについて履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 13 回	研究計画の確立①	研究目的・方法・仮説構成を見定め、具体的な研究計画を確立するよう指導する。

第 14 回 研究計画の確立②

作成した研究計画を履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各プレゼンテーションの準備、研究方法の予習・復習

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

研究計画の立案力（40%）、研究方法に対する理解力（40%）、プレゼンテーション力（20%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト、統計分析用ソフト

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces how to summarize the data at PhD course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding to summarize the previous studies and the skills of presentation at PhD thesis.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on research plan (40%), understanding of research methods (40%), and presentations (20%)

OTR70011

スポーツ健康学高度開発研究Ⅲ

越智 英輔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を進展させるため、研究目的に応じた研究方法の選定や開発についての指導を受けながら、具体的な実験・調査等の準備を整え、計画を実行していくための支援を受ける。

【到達目標】

研究計画にもとづいた実験・調査を実施し、研究対象について具体的なデータを収集して分析を行い、研究を促進する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 2」、「DP3」、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

運動生理学分野の研究分野における博士論文の完成に向けて、具体的な実験や調査の内容を確定し、予備実験の分析結果等を踏まえて研究の方向性を確定させ、実際の研究活動が促進されるよう指導・支援を受ける。また、並行して投稿論文の作成・投稿に向けた指導・支援も受ける。さらに、受講生の活動に対しては助言を行い、課題等に対しては適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究内容の検討	博士論文で取り組む研究の観点・項目、内容等について履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を受ける。
第 2 回	研究内容の構成	博士論文で取り組む課題のうち、未実施のものについて具体的な実験・調査等のスケジュールを検討し、博士論文の作成過程を明確化に向けて指導を受ける。
第 3 回	予備実験・調査①	未実施の課題について予備実験・調査を行い、その進捗をプレゼンテーションして履修者間で論議し、研究方法を再検討する。
第 4 回	予備実験・調査②	前回に引き続き未実施課題の予備実験・調査の進捗および結果をプレゼンテーションし、研究方法確定に向けて履修者間で論議し、指導を受ける。
第 5 回	予備実験・調査③	未実施課題の予備実験・調査の結果を受けて研究方法を確定させる。また、得られた結果を踏まえて、博士論文全体の構成を検討し、指導を受ける。
第 6 回	研究の実践①	博士論文全体の構成を整理し、全体的な方向性、期待される結果等をプレゼンテーションして指導を受ける。また、博士論文を構成する各研究課題については実験・調査を進め、随時授業内で報告して指導を受ける。
第 7 回	研究の実践②	博士論文を構成する各研究課題について実験・調査を進め、随時授業内で結果を報告して指導を受ける。
第 8 回	研究の実践③	前回と同様、博士論文を構成する各研究課題について実験・調査を進め、授業内で結果を報告して指導を受ける。
第 9 回	論文投稿に向けた準備	研究課題遂行後の学術誌への論文投稿に向けて、確認事項や手続き等の指導を受ける。また、論文内容について、査読者の視点に基づくチェック事項について指導を受ける。
第 10 回	論文投稿後の手続き	論文を学術誌に投稿した後の手続きや査読者からのコメントへの返信について、実例を確認しながら指導を受ける。

- 第 11 回 投稿論文原稿の執筆① 実験・調査を進め、学術誌への投稿に向けて授業外で「方法」部分のアウトラインを作成して授業内で報告し、履修者間で内容の確認や論議を行う。また、実験・調査を行った結果を受けて博士論文全体の構成を検討し、指導を受ける。
- 第 12 回 投稿論文原稿の執筆② 実験・調査を進め、学術誌への投稿に向けて授業外で「結果」部分のアウトラインを作成して報告し、内容やまとめ方について指導を受ける。
- 第 13 回 投稿論文原稿の執筆③ 学術誌への投稿に向けて授業外で執筆した「考察」部分のアウトラインを授業内で報告し、履修者間で論議し、指導を受ける。また、半期の授業期間に実施した研究の結果を受けて博士論文全体の構成を検討し、指導を受ける。
- 第 14 回 博士論文の構成の確定 学術誌への投稿に向けて授業外で執筆した「緒言」部分のアウトラインを授業内で報告し、指導を受ける。また、半期の授業期間に実施した研究の結果を受けて、課題間の関係性を踏まえて博士論文全体の構成を検討し、研究の方向性を確定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、各授業時に指示される課題に取り組み、博士論文を構成する実験・調査を進める。各回の予習・復習の標準時間はそれぞれ 2 時間とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

特になし。必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本授業の成績は、研究方法に対する理解度（50%）、投稿論文の執筆内容（50%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初めて開講する科目であるため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業中に指示します。

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In order to advance the doctoral dissertation, the student will receive guidance on the selection and development of research methods according to the research objectives while receiving assistance in preparing specific experiments and investigations and in implementing the scheme.

【Learning Objectives】

Conduct experiments and investigations based on the research schema, collect specific data from the research subject, analyze, and facilitate the research.

【Learning activities outside of classroom】

Students will engage in tasks assigned in each class and conduct experiments and investigations to constitute their doctoral dissertations. The standard time for preparation and review for each class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The evaluation of this class depends on comprehension of research methods (50%) and writing content of submitted papers (50%).

OTR70011

スポーツ健康学高度開発研究Ⅲ

島本 好平

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期に実施する本調査をより質の高いものとするために、春学期に予備調査を実施し、必要な一連の知識や分析力、経験の習得を目指す。

【到達目標】

秋学期に実施する本調査をスムーズに進めるために必要な一連の知識や分析力、経験を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 2」、「DP3」、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

関連分野における先行研究の調査を進め、その結果をもとに予備調査での調査内容を洗練させていく。その後は調査実施・データ分析・結果への考察を経て、秋学期の本調査実施へとつなげていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
オンライン	予備調査実施前の最終確認	研究に必要なデータを過不足なく収集可能かどうか最終確認を行う
オンライン	予備調査の実施	対象に足して予備調査を適切に実施する
オンライン	予備調査データの確認	収集されたデータの欠損値等の不備を確認する
オンライン	予備調査データの分析（基本属性・基本統計量）	データにおける基本属性ならびに基本統計量を算出し、データの全体像を把握する
オンライン	予備調査データの分析	研究の仮説を検証するための一連の分析を実施する
オンライン	予備調査データの分析（再分析）	再度分析を実施し、先の結果と同様のものが得られるかを確認する
オンライン	分析結果に対する考察	関連する先行研究等をもとに、分析結果への考察を学生が中心となって行う
オンライン	分析結果に対するディスカッション	分析結果に対して、教員と学生とがディスカッションを行う
オンライン	分析結果の本調査への応用（調査内容の検討）	分析結果をもとに、本調査へ新たに追加すべき調査内容について検討する
オンライン	分析結果の本調査への応用（調査内容の作成）	本調査へ新たに追加すべき調査内容を自作する
オンライン	分析結果の本調査への応用（調査内容のブラッシュアップ）	関連する先行研究や教員とのディスカッションを経て、自作した調査内容の質を高める
オンライン	分析結果の本調査への応用（調査対象）	分析結果をもとに、本調査へ新たに追加すべき調査対象について検討する
オンライン	分析方法の再検討	一連の分析を振り返り、分析方法のあり方について再度検討を行う
オンライン	調査実施上の留意事項を確認	円滑な本調査実施に向けて、予備調査で得られた留意事項を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【調査実施前】 予備調査で使用する調査項目について検討作業
 【調査実施中】 関連する先行研究の調査等
 【調査実施後】 必要な分析を繰り返し実施し、結果の信頼性を高める

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配付する。

【参考書】

必要に応じて資料を配付する。

【成績評価の方法と基準】

データ収集前の準備・計画力（50%）、データ分析力（30%）、思考力（20%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、統計分析ソフト

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性あり。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces the opportunity to conduct the preliminary investigation and to analysis the data. And more, students will learn how to refine the main research plan by using the results from preliminary one.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students are expected to acquire the knowledge and analytical ability, and experience in conducting the investigation smoothly.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
 The planning ability: 50%, The analytical ability: 50%, The thinking ability: 20%

OTR70011

スポーツ健康学高度開発研究Ⅲ

中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を進展させるため、研究目的に応じた研究方法の選定や開発についての指導を行いながら、具体的な実験・調査等の準備を整え、計画を実行していくための支援を行う。

【到達目標】

研究計画にもとづいた予備実験・調査を実施し、研究対象について具体的なデータを収集し、結果を得て研究方法の妥当性を確かめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 2」、「DP3」、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

調査対象者、調査方法、分析方法等の研究計画の妥当性を担保するための予備調査の実施を目指し、各授業では、履修者が研究の進捗状況に関するプレゼンテーションを行い、その内容に対する意見交換や指導を行う。なお、授業内で行ったプレゼンテーション等の課題に対する講評や解説は当該授業の後半に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	調査内容の確認	履修者が予備調査の目的、意義、予想される結果等の詳細についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
2	調査手続きの確認	先行研究を踏まえながら、履修者が調査対象者、調査時期、調査方法等の詳細についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
3	予備調査の準備	履修者が作成・準備した調査説明書、倫理規定、同意書、質問紙等の内容について精査する。
4	予備調査の実施	研究倫理にもとづいた調査対象者への依頼手続き、調査方法、データの収集方法等について最終確認し、調査の実施を指導する。
5	データの集計・分類	履修者は調査で収集したデータの集計・分類等の進捗状況について報告し、それに対する意見交換と指導を行う。
6	データの分析	履修者が収集したデータの分析に適した統計分析・質的分析の方法についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
7	データの統計分析	履修者が統計処理した結果を図表に整理してプレゼンテーションし、その分析方法の妥当性を検討する。
8	統計分析の結果の検討	先行研究を踏まえ、統計分析を通して得た結果の信頼性・妥当性について検討する。
9	データの質的分析	履修者が質的に分析した結果についてプレゼンテーションし、その分析方法の妥当性を検討する。
10	質的分析の結果の検討	先行研究を踏まえ、質的分析を通して得た結果の信頼性・妥当性について検討する。
11	分析方法の修正・追加	得られた結果およびその信頼性・妥当性が不十分であれば分析方法の修正等を行うよう指導する。
12	研究仮説との整合性	履修者が得られた結果と研究仮説の整合性についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
13	調査方法の確認	履修者が本調査に向けた研究計画についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。

14 研究計画の確立

博士論文で行う本調査の方法について最終確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究等の収集と整理およびプレゼンテーションの準備に取り組んでください。国内外のスポーツ心理学関連の学会 HP ならびに学会誌掲載論文を確認してください。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間です。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料等を配付する。

【参考書】

1. 日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本三訂版」大修館書店 2016
2. 山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 2004

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション関連資料（50%）、プレゼンテーション（50%）

【学生の意見等からの気づき】

新設科目につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】

PC および資料の作成や共有、課題の提出が可能なソフトウェアを準備してください。また、必要に応じて授業中に適宜指示します。

【その他の重要事項】

授業計画は、研究遂行状況に応じて順番を入れ替える場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In order to progress the doctoral thesis, the doctoral student is guided in the selection and development of research methods in accordance with the research objectives, while being prepared to carry out specific experiments and investigations, and assisted in the implementation of the plan.

【Learning Objectives】

Conduct preliminary experiments and surveys based on the research plan, collect specific data on the research subject, obtain results and confirm the validity of the research methods.

【Learning activities outside of classroom】

Work on collecting and organising previous research etc. and preparing your presentation. Check the websites of domestic and international sport psychology-related academic societies and articles published in academic journals. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Comprehensive evaluation is performed according to the following criteria.

Presentation-related materials (50%), Presentation (50%)

OTR70011

スポーツ健康学高度開発研究Ⅲ

林 容市

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を進展させるため、研究目的に応じた研究方法の選定や開発についての指導を受けながら、具体的な実験・調査等の準備を整え、計画を実行していくための支援を受ける。

【到達目標】

研究計画にもとづいた実験・調査を実施し、研究対象について具体的なデータを収集して分析を行い、研究を促進する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 2」、「DP3」、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

体力学および体力測定評価分野の研究分野における博士論文の完成に向けて、具体的な実験や調査の内容を確定し、予備実験の分析結果等を踏まえて研究の方向性を確定させ、実際の研究活動が促進されるよう指導・支援を受ける。また、並行して投稿論文の作成・投稿に向けた指導・支援も受ける。さらに、受講生の活動に対しては助言を行い、課題等に対しては適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究内容の検討	博士論文で取り組む研究の観点・項目、内容等について履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を受ける。
第 2 回	研究内容の構成	博士論文で取り組む課題のうち、未実施のものについて具体的な実験・調査等のスケジュールを検討し、博士論文の作成過程を明確化に向けて指導を受ける。
第 3 回	予備実験・調査①	未実施の課題について予備実験・調査を行い、その進捗をプレゼンテーションして履修者間で論議し、研究方法を再検討する。
第 4 回	予備実験・調査②	前回に引き続き未実施課題の予備実験・調査の進捗および結果をプレゼンテーションし、研究方法確定に向けて履修者間で論議し、指導を受ける。
第 5 回	予備実験・調査③	未実施課題の予備実験・調査の結果を受けて研究方法を確定させる。また、得られた結果を踏まえて、博士論文全体の構成を検討し、指導を受ける。
第 6 回	研究の実践①	博士論文全体の構成を整理し、全体的な方向性、期待される結果等をプレゼンテーションして指導を受ける。また、博士論文を構成する各研究課題については実験・調査を進め、随時授業内で報告して指導を受ける。
第 7 回	研究の実践②	博士論文を構成する各研究課題について実験・調査を進め、随時授業内で結果を報告して指導を受ける。
第 8 回	研究の実践③	前回と同様、博士論文を構成する各研究課題について実験・調査を進め、授業内で結果を報告して指導を受ける。
第 9 回	論文投稿に向けた準備	研究課題遂行後の学術誌への論文投稿に向けて、確認事項や手続き等の指導を受ける。また、論文内容について、査読者の視点に基づくチェック事項について指導を受ける。
第 10 回	論文投稿後の手続き	論文を学術誌に投稿した後の手続きや査読者からのコメントへの返答について、実例を確認しながら指導を受ける。

- 第 11 回 投稿論文原稿の執筆① 実験・調査を進め、学術誌への投稿に向けて授業外で「方法」部分のアウトラインを作成して授業内で報告し、履修者間で内容の確認や論議を行う。また、実験・調査を行った結果を受けて博士論文全体の構成を検討し、指導を受ける。
- 第 12 回 投稿論文原稿の執筆② 実験・調査を進め、学術誌への投稿に向けて授業外で「結果」部分のアウトラインを作成して報告し、内容やまとめ方について指導を受ける。
- 第 13 回 投稿論文原稿の執筆③ 学術誌への投稿に向けて授業外で執筆した「考察」部分のアウトラインを授業内で報告し、履修者間で論議し、指導を受ける。また、半期の授業期間に実施した研究の結果を受けて博士論文全体の構成を検討し、指導を受ける。
- 第 14 回 博士論文の構成の確定 学術誌への投稿に向けて授業外で執筆した「緒言」部分のアウトラインを授業内で報告し、指導を受ける。また、半期の授業期間に実施した研究の結果を受けて、課題間の関係性を踏まえて博士論文全体の構成を検討し、研究の方向性を確定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、各授業時に指示される課題に取り組み、博士論文を構成する実験・調査を進める。各回の予習・復習の標準時間はそれぞれ 2 時間とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

特になし。必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本授業の成績は、研究方法に対する理解度（50%）、投稿論文の執筆内容（50%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度初めて開講した授業であり、進行等も手探りの部分もあったが、受講者の活動や学びは充実したものであったと感じている。次年度も、受講者とのコミュニケーションを密に図り、博士論文の完成に向けて着実な進展がなされるように授業を進める予定である。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業中に指示します。

【その他の重要事項】

「スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ、Ⅱ」の単位を取得していることを前提に授業を進行します。また、進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In order to advance the doctoral dissertation, the student will receive guidance on the selection and development of research methods according to the research objectives while receiving assistance in preparing specific experiments and investigations and in implementing the scheme.

【Learning Objectives】

Conduct experiments and investigations based on the research schema, collect specific data from the research subject, analyze, and facilitate the research.

【Learning activities outside of classroom】

Students will engage in tasks assigned in each class and conduct experiments and investigations to constitute their doctoral dissertations. The standard time for preparation and review for each class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The evaluation of this class depends on comprehension of research methods (50%) and writing content of submitted papers (50%).

OTR70011

スポーツ健康学高度開発研究Ⅳ

越智 英輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を進展させるために、実験・調査・文献等によるデータ収集をさらに進め、それらデータの整理・分析・検討の方法に対する指導を受ける。また、2 年次の後期に設定される博士論文中間発表会を機に、プレゼンテーション力・論理的説明力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

本調査を実施して結果を収集・分析し、考察を与えて学会誌への投稿を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 1」、「DP 2」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

運動生理学分野の博士論文執筆に向けて、進行中の実験・調査等の進展を支援し、得られたデータの整理、先行研究との比較・検討を踏まえた分析・解析に向けて指導を行う。また、学会誌への論文掲載に要する期間なども踏まえて、博士論文執筆および学位取得に向けたスケジュールを確定させる。さらに、2 年次後期に設定されている博士論文中間発表会で求められる水準を目指して、履修者の能力が向上するよう指導・支援を行う。さらに、課題等に対しては適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	本調査の実施	現在進行している研究内容を踏まえて博士論文全体としての進捗を報告し、博士論文に含める課題や研究方法の確認・修正を行う。
第 2 回	現状の確認と今後の課題設定	進行中の研究における結果を報告し、博士論文全体における位置づけや、今後の課題遂行についてプレゼンテーションを行う。また、学位取得のために必要な学術論文の学会誌への掲載に要する期間を踏まえて、研究スケジュールについて指導を受ける
第 3 回	学会発表等の準備①	学会発表の準備として、学会へのエントリー方法や抄録の種類（構造化抄録等）とその作成における注意点について指導を受ける。
第 4 回	学会発表等の準備②	博士論文中間発表会および学会発表の準備として、研究テーマ・目的・仮説・方法・結果のまとめ方について指導を受ける。
第 5 回	学会発表等の準備③	博士論文中間発表会および学会発表の準備として、実際の発表を想定した研究内容のプレゼンテーションを行い、それに対して履修者間で意見交換をし、指導を受ける。
第 6 回	外国語（英語）によるプレゼンテーション	国際学会の口頭発表を想定し、前回と同一の発表内容を英語でプレゼンテーションし、それに対する指導を受ける。
第 7 回	研究結果の解釈と展開①	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況や投稿後の査読過程の進捗などを報告し、以後の展開について指導を受ける。
第 8 回	研究結果の解釈と展開②	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況に合わせて先行研究を再度レビューし、結果の解釈について履修者間で論議する。
第 9 回	研究結果の解釈と展開③	進行中の研究について、前回の検討内容を踏まえて結果を再度吟味・解釈した上でプレゼンテーションを行い、指導を受ける。

第 10 回	研究結果の解釈と展開④	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況や投稿後の査読過程の進捗などを報告し、今後の展開について指導を受ける。また、得られた結果の状況によっては研究方法を再検討し、博士論文で取り組む課題を確認する。
第 11 回	博士論文の執筆に向けた研究の推進①	博士論文の執筆および学位取得の条件を満たすことを目的にさらなる投稿論文の作成を計画し、候補となる研究テーマをプレゼンテーションし、履修者間で論議を行う。
第 12 回	博士論文の執筆に向けた研究の推進②	前回計画した投稿論文について、これまで学んだ内容を踏まえてリサーチプロポーザルを作成してプレゼンテーションを行い、指導を受ける。また、投稿中の論文についての査読過程の進捗も報告する。
第 13 回	博士論文の執筆に向けた研究の推進③	前回報告したリサーチプロポーザルに従い、実験・調査の準備を行い、指導を受ける。
第 14 回	博士論文の執筆に向けた研究の推進④	本授業で作成したサーチプロポーザルに従い、実験・調査を開始し、進捗を報告する。それに対し、長期休暇中の研究活動の方向性について指導を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業時に適宜指示される博士論文を構成するための課題について実験・調査を進める。また、授業終了後の夏期休業を利用して、論文作成に向けたデータを収集するための実験・調査を随時行う。各回の予習・復習の標準時間はそれぞれ 2 時間とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

本授業の成績は、研究の計画的な進展（50%）、毎回の授業における課題の遂行状況（50%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

次年度初めて開講する科目であるため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業中に指示します。

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In order to further develop the doctoral dissertation, students will further collect data through experiments, surveys, and document retrieval and will receive guidance on how to organize, analyze, and examine such data. In addition, the doctoral dissertation interim presentation in the second semester of the second year will be used as an opportunity to improve the presentation and logical explanation skills.

【Learning Objectives】

In this class, students will analyze data obtained by conducting surveys or experiments and add considerably to the results, and aim for submission to an academic journal.

【Learning activities outside of classroom】

Students will engage in tasks assigned in each class and conduct experiments and investigations to constitute their doctoral dissertations. In addition, students will use the summer vacation after the end of the course to conduct experiments and surveys to collect data for their thesis. The standard time for preparation and review for each class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The evaluation of this class depends on the progress of research (50%) performance of assignments in each class (50%).

OTR70011

スポーツ健康学高度開発研究Ⅳ

島本 好平

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の進展に向けて、アンケート調査・文献等からのデータ収集をさらに進めるとともに、多数のデータの整理・分析・検討方法に対する指導を行う。また、プレゼンテーション能力やディスカッション能力の向上に向けて、学会発表や 2 年次秋学期の博士論文中間発表会の場を最大限に活用していく。

【到達目標】

本調査を実施して分析、ならびに結果に対する考察を行い、それらをまとめて学会誌への論文投稿を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 1」、「DP 2」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

関連分野における先行研究の調査をさらに進め、その結果をもとに本調査での調査内容を洗練させていく。その後は調査実施・データ分析・結果への考察を経て、プレゼンテーション能力や論文執筆能力の向上を目指していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
オンライン	本調査の実施	調査内容の最終確認を経て、本調査を実施する
オンライン	本調査データの確認と入力	欠損値等の不備を確認した後に、データの入力作業を行う
オンライン	データに対する分析	必要な分析を繰り返し実施し、事前の仮説等の検証を行う
オンライン	学会発表の準備（分析結果）	発表時に提示する分析結果を整理する
オンライン	学会発表の準備（パワーポイント資料）	発表時に提示するパワーポイント資料の作成を行う
オンライン	学会発表の準備（プレゼンテーション）	発表会に向けてプレゼンテーションの練習を行う
オンライン	学会発表後の対応	発表会時に受けたコメントや質問等をもとに、今後の対応を検討する
オンライン	再分析の実施	先に検討した対応をもとに再度分析を行い、より望ましい結果を見出していく
オンライン	分析結果への考察（研究の成果）	分析結果全体から得られる知見、成果について慎重に検討を行う
オンライン	分析結果への考察（結果の背景）	個々の結果が得られる背景について、先行研究等をもとに慎重に検討を行う
オンライン	分析結果への考察（研究の限界や今後の課題）	本研究の限界、ならびに今後の課題と展望について慎重に検討を行う
オンライン	学会誌投稿への準備（論文構成）	学会より提示される投稿規定をもとに、投稿する論文の構成について検討を行う。
オンライン	学会誌投稿への準備（文章執筆）	先に決めた論文の構成をもとに、必要な文章の執筆を行う
オンライン	学会誌投稿への準備（文章の推敲）	論文全体にわたり文章の推敲を十分に行った後に、学会誌へ論文を投稿する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データ収集後は必要な分析を繰り返し実施し、結果の信頼性を高めていく。また、投稿論文執筆時は文章の推敲作業に尽力する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配付する。

【参考書】

必要に応じて資料を配付する。

【成績評価の方法と基準】

必要な分析手法を組み立てて実施する力（30%）、個々の分析結果について思考し考察する力（50%）、論文執筆時の推敲力（20%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、統計分析ソフト、パワーポイントソフト

【その他の重要事項】

進捗状況に応じて授業計画は変更する可能性あり。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces the opportunity to conduct main research and to analysis the data. And more, students will learn how to write the paper based on the results of the main research.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students are expected to submit the paper to the related association.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
The analytical ability: 30%, The thinking ability: 50%, to refine sentences of the manuscript: 20%

OTR70011

スポーツ健康学高度開発研究Ⅳ

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の作成へ向けてさらにデータの精密な分析・検討を進めるよう指示し、十分なデータの質および量を確保できているかをチェックする。また、分析・検討の結果に対する考察の方法について指導・助言を行い、学会発表におけるプレゼンテーション力および論文の作成能力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

学会発表を行い、博士論文後半部分にあたる論文を作成して学会誌へ投稿できるよう指導を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 1」、「DP 2」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文の前半部分の論文作成を通して浮き彫りとなった研究課題の解明を目指し、後半部分の論文作成に必要なデータの収集・分析を進めるよう指導する。分析結果に対する考察に必要な数量的・質的分析法を扱った先行研究を精読し、博士論文の完成に備える。また、学会発表および学術雑誌へ投稿するよう指導する。なお、授業内で行ったプレゼンテーション等の課題に対する講評や解説は当該授業の後半に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の明確化	博士論文の前半部分の論文作成を通して浮き彫りとなった研究課題についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行い、後半部分の論文の研究課題を明確化する。
2	研究計画の確定	履修者が論文の研究計画について再考した結果についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行い、博士論文の後半部分の研究計画を確定する。
3	調査の実施	研究の準備状況を確認した後、調査を実施するよう指導する。
4	データの収集と分析	履修者が収集したデータを分析した結果についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
5	統計分析の結果の検討	先行研究等を踏まえ、履修者が統計分析の結果の信頼性・妥当性について検討した結果をプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
6	統計分析の考察の検討	先行研究等を踏まえ、履修者が統計分析の結果について考察を加え、導き出した知見についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
7	質的分析の結果の検討	先行研究等を踏まえ、履修者が質的分析の結果の信頼性・妥当性について検討した結果をプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
8	質的分析の考察の検討	先行研究等を踏まえ、履修者が質的分析の結果について考察を加え、導き出した知見についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
9	成果発表の準備	履修者が一連の研究成果をまとめた内容についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
10	発表・質疑応答	履修者が学会発表を想定したプレゼンテーションを行い、質疑応答の仕方等について指導する。

11	先行研究の精査	投稿論文の分析結果に対する考察に必要な数量的・質的分析法を扱った先行研究を精読し、論文作成の準備を整えるよう指導する。
12	投稿の準備	これまでの研究成果を論文化し、学術雑誌への投稿論文の作成を目指した取り組みを行うよう指導する。
13	投稿論文のリライト	投稿論文の内容について精査し、加筆・修正等の指導を行う。
14	投稿論文の完成	博士論文の後半部分に相当する論文を最終確認し、完成次第投稿するよう指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究等の収集と整理およびプレゼンテーションの準備に取り組んでください。国内外のスポーツ心理学関連の学会 HP ならびに学会誌掲載論文を確認してください。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間です。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料等を配付します。

【参考書】

・日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本三訂版」大修館書店 2016

2. 山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 2004 等

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション関連資料（50%）、プレゼンテーション（50%）

【学生の意見等からの気づき】

新設科目につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】

PC および資料の作成や共有、課題の提出が可能なソフトウェアを準備してください。また、必要に応じて授業中に適宜指示します。

【その他の重要事項】

授業計画は、研究遂行状況に応じて順番を入れ替える場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The students are instructed to carry out more precise analysis and examination of the data towards the preparation of their doctoral thesis, and to check that they have sufficient quality and quantity of data. Guidance and advice will also be given on how to discuss the results of the analysis and examination, with the aim of improving presentation skills at conference presentations and the ability to write the thesis.

【Learning Objectives】

Guidance is given so that the student can present at conferences and prepare a paper for the second half of the doctoral thesis and submit it to an academic journal.

【Learning activities outside of classroom】

Work on collecting and organising previous research etc. and preparing your presentation. Check the websites of domestic and international sport psychology-related academic societies and articles published in academic journals. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Comprehensive evaluation is performed according to the following criteria.

Presentation-related materials (50%), Presentation (50%)

OTR70011

スポーツ健康学高度開発研究Ⅳ

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を進展させるために、実験・調査・文献等によるデータ収集をさらに進め、それらデータの整理・分析・検討の方法に対する指導を受ける。また、2 年次の後期に設定される博士論文中間発表会を機に、プレゼンテーション力・論理的説明力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

本調査を実施して結果を収集・分析し、考察を与えて学会誌への投稿を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 1」、「DP 2」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

体力学および体力測定評価学分野の博士論文執筆に向けて、進行中の実験・調査等の進展を支援し、得られたデータの整理、先行研究との比較・検討を踏まえた分析・解析に向けて指導を行う。また、学会誌への論文掲載に要する期間なども踏まえて、博士論文執筆および学位取得に向けたスケジュールを確定させる。さらに、2 年次後期に設定されている博士論文中間発表会で求められる水準を目指して、履修者の能力が向上するよう指導・支援を行う。さらに、課題等に対しては適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	本調査の実施	現在進行している研究内容を踏まえて博士論文全体としての進捗を報告し、博士論文に含める課題や研究方法の確認・修正を行う。
第 2 回	現状の確認と今後の課題設定	進行中の研究における結果を報告し、博士論文全体における位置づけや、今後の課題遂行についてプレゼンテーションを行う。また、学位取得のために必要な学術論文の学会誌への掲載に要する期間を踏まえて、研究スケジュールについて指導を受ける
第 3 回	学会発表等の準備①	学会発表の準備として、学会へのエントリー方法や抄録の種類（構造化抄録等）とその作成における注意点について指導を受ける。
第 4 回	学会発表等の準備②	博士論文中間発表会および学会発表の準備として、研究テーマ・目的・仮説・方法・結果のまとめ方について指導を受ける。
第 5 回	学会発表等の準備③	博士論文中間発表会および学会発表の準備として、実際の発表を想定した研究内容のプレゼンテーションを行い、それに対して履修者間で意見交換をし、指導を受ける。
第 6 回	外国語（英語）によるプレゼンテーション	国際学会の口頭発表を想定し、前回と同一の発表内容を英語でプレゼンテーションし、それに対する指導を受ける。
第 7 回	研究結果の解釈と展開①	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況や投稿後の査読過程の進捗などを報告し、今後の展開について指導を受ける。
第 8 回	研究結果の解釈と展開②	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況に合わせて先行研究を再度レビューし、結果の解釈について履修者間で論議する。
第 9 回	研究結果の解釈と展開③	進行中の研究について、前回の検討内容を踏まえて結果を再度吟味・解釈した上でプレゼンテーションを行い、指導を受ける。

第 10 回	研究結果の解釈と展開④	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況や投稿後の査読過程の進捗などを報告し、今後の展開について指導を受ける。また、得られた結果の状況によっては研究方法を再検討し、博士論文で取り組む課題を確認する。
第 11 回	博士論文の執筆に向けた研究の推進①	博士論文の執筆および学位取得の条件を満たすことを目的にさらなる投稿論文の作成を計画し、候補となる研究テーマをプレゼンテーションし、履修者間で論議を行う。
第 12 回	博士論文の執筆に向けた研究の推進②	前回計画した投稿論文について、これまで学んだ内容を踏まえてリサーチプロポーザルを作成してプレゼンテーションを行い、指導を受ける。また、投稿中の論文についての査読過程の進捗も報告する。
第 13 回	博士論文の執筆に向けた研究の推進③	前回報告したリサーチプロポーザルに従い、実験・調査の準備を行い、指導を受ける。
第 14 回	博士論文の執筆に向けた研究の推進④	本授業で作成したサーチプロポーザルに従い、実験・調査を開始し、進捗を報告する。それに対し、長期休暇中の研究活動の方向性について指導を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業時に適宜指示される博士論文を構成するための課題について実験・調査を進める。また、授業終了後の夏期休業を利用して、論文作成に向けたデータを収集するための実験・調査を随時行う。各回の予習・復習の標準時間はそれぞれ 2 時間とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

本授業の成績は、研究の計画的な進展（50%）、毎回の授業における課題の遂行状況（50%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度初めて開講した授業であり、進行等も手探りの部分もあったが、学会誌への論文投稿という本授業の到達目標も達成することができ、受講者の活動や学びは充実したものであったと感じている。次年度も受講生と密にコミュニケーションを図り、到達目標を達成できるよう授業を進める予定である。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業中に指示します。

【その他の重要事項】

「スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の単位を取得していることを前提に授業を進行します。なお、進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In order to further develop the doctoral dissertation, students will further collect data through experiments, surveys, and document retrieval and will receive guidance on how to organize, analyze, and examine such data. In addition, the doctoral dissertation interim presentation in the second semester of the second year will be used as an opportunity to improve the presentation and logical explanation skills.

【Learning Objectives】

In this class, students will analyze data obtained by conducting surveys or experiments and add considerably to the results, and aim for submission to an academic journal.

【Learning activities outside of classroom】

Students will engage in tasks assigned in each class and conduct experiments and investigations to constitute their doctoral dissertations. In addition, students will use the summer vacation after the end of the course to conduct experiments and surveys to collect data for their thesis. The standard time for preparation and review for each class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The evaluation of this class depends on the progress of research (50%) performance of assignments in each class (50%).

OTR70011

スポーツ健康学高度開発研究Ⅴ

泉 重樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の作成へ向けてさらにデータの精密な分析・検討を進めるよう指示し、十分なデータの質および量を確保できているかをチェックする。また、分析・検討の結果に対する考察の方法について指導・助言を行い、学会発表におけるプレゼンテーション力および論文の作成能力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

学会発表を行い、博士論文後半部にあたる論文を作成して学会誌へ投稿できるよう指導を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 1」、「DP 2」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文の作成へ向けてさらに精密なデータの分析を進めるよう指示し、十分なデータの質および量を確保できているかをチェックする。また、分析結果に対する考察をさらに深め、引き続き学会発表を行い、かつできるだけ早い段階で博士論文後半部にあたる論文の要旨をまとめ、学会誌へ投稿するよう指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データ分析の精密化①統計処理	統計処理、質的分析等の適用に際して、最先端の方法への理解を深めるよう指導する。
2	データ分析の精密化②質的分析	統計処理、質的分析等、データをさらに精密に分析するよう指導する。
3	結果の検討①（信頼性）	結果の信頼性を検討する。
4	結果の検討②（妥当性）	結果の妥当性を検討する。
5	結果の考察①（文献）	これまでに収集した先行研究・文献等の関連する考察部分をさらに分析・検討するよう指導する。
6	結果の考察②（解釈・説明）	検討した先行研究・文献等の考察部分から、本研究の結果の解釈・説明につながる部分を選択し、まとめるよう指導する。
7	結果の考察③（意見交換）	まとめた考察について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
8	結果の考察④（追加検討）	意見交換を踏まえ、さらなる文献資料の追加や深い考察を促す。
9	学会誌への投稿論文（prat2）作成	以上をまとめ、博士論文後半部（prat2）の論文を作成し、国内ないしは国外の学術学会誌へ投稿するよう指導する。
10	学会発表の準備①（まとめ）	博士論文の後半部をまとめ、学会発表の準備を行うよう指導する。
11	学会発表の準備②（予演）	学会発表の準備として履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
12	外国語（英語）によるプレゼンテーションの準備	国際学会への口頭発表向け、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
13	学会発表に対する指摘への対応	これまでの学会発表に対する意見・指摘等について整理し、博士論文へ反映するよう指導する。
14	投稿論文のリライト	これまでの投稿論文に対する審査結果へ対応し、リライトについて指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最先端のデータ分析に対する理解、学会発表の準備、論文投稿の準備等

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

研究成果の意欲的な発信力（50%）、柔軟な思考力（50%）

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため記載できない。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、統計分析ソフト（一部）、プレゼンテーション用ソフト

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

[Course outline] To provide guidance and advice on how to discuss the results of analysis in order to complete the doctoral dissertation, and to improve the quality of presentations at conferences and the dissertation. [Learning objectives] To guide students to make presentations at academic conferences. To guide students to prepare and submit a thesis for the second half of their doctoral dissertation.

[Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

[Grading criteria/policy] Grading will be decided based on presentations at academic conferences 50%, and the quality of the students experimental performance in the lab 50%.

OTR70011

スポーツ健康学高度開発研究 V

林 容市

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の作成へ向けてさらにデータの精密な分析・検討を進め、十分なデータの質および量を確保できているかをチェックする。また、分析・検討の結果に対する考察の方法について指導・助言を受けた上で、学会発表におけるプレゼンテーション力および論文の作成能力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

博士論文の全体を通じた構成を完成させ、含まれる研究課題の解決を通じて投稿論文の掲載と博士論文の完成に向けて研究を推進する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 1」、「DP 2」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

体力学および体力測定評価学分野における博士論文の完成に向けて、実施した実験・調査等の分析・解析を実施し、研究課題に対しての位置づけ、全体を通じた一貫性のある論理展開などについて確認しながら指導を行う。また、博士課程の在籍期間を踏まえて博士論文や学位の取得条件（投稿論文）を達成できるよう指導・助言を行う。さらに、課題等に対しては適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	学位取得に向けた活動内容の確認	学位の条件（投稿論文等）を満たし博士論文を提出するためのスケジュールを確認し、研究の進捗を踏まえてプレゼンテーションを行い、今後の研究活動について内容や手順等について指導を受ける。
第 2 回	研究活動の実践と確認①	前回確認したスケジュールに基づき研究活動を進め、活動内容に応じて研究結果、リサーチプロポーザル、新たに生じた課題などを報告し、適宜指導を受ける。
第 3 回	国際学会での発表準備①	博士論文の課題の中から国際学会での発表に向けて準備を行い、抄録を作成して指導を受ける。
第 4 回	国際学会での発表準備②	国際学会での発表に向けた研究内容のプレゼンテーションに対して履修者間で意見交換を行い、担当教員からの指導を受ける。
第 5 回	外国語（英語）によるプレゼンテーションの準備	国際学会での発表に向け、履修者が英語でのプレゼンテーションを行い、それに対する意見交換および指導を受ける。
第 6 回	研究結果の解釈と展開①	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況や投稿後の査読過程の進捗などを報告し、博士論文における位置づけを明確化できるよう指導を受ける。
第 7 回	研究結果の解釈と展開②	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況や投稿後の査読過程の進捗などを報告し、博士論文の執筆に向けた指導を受ける。
第 8 回	研究結果の解釈と展開③	進行中の研究について、前回の指導内容を踏まえて博士論文における位置づけを明確化し、指導を受ける。
第 9 回	論文作成における留意点①	アカデミック・ライティングについて指導を受け、投稿論文や博士論文における作成上の留意点を確認する。
第 10 回	論文作成における留意点②	投稿論文と博士論文の違い、章立てや課題間の繋がり、全体を通じた一貫性のある構成など、博士論文執筆に向けた留意点について指導を受ける。

第 11 回	博士論文の執筆に向けた状況確認	これまでに実施した研究活動を総合的にまとめ、博士論文として評価されるに十分な質と量の研究が遂行されているかどうか確認する。条件を満たすと判断される場合には博士論文の執筆を開始し、満たさない場合には今後の活動を見直し、研究計画を再検討する。
第 12 回	博士論文の執筆に向けた研究計画の作成①	これまでの研究活動の結果を受け、博士論文の課題の再確認、博士論文の章立て等を踏まえた論文の構成を検討する。執筆条件を満たしていない履修者については、以後実施すべき課題を明確化し、活動に対して指導を受ける。
第 13 回	博士論文の執筆に向けた研究計画の作成②	博士論文の章立て、投稿論文や学会発表の内容の博士論文における位置づけについてプレゼンテーションを行い、履修者間で論議した上で指導を受ける。
第 14 回	研究の限界および今後の課題の明確化	博士論文で検討する目的に対して、これまでの研究成果に基づき研究の限界を顕在化させ、今後の課題を明確化した上で、それに対して指導を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業時に適宜指示される博士論文を構成するための課題について実験・調査を進める。また、論文の執筆、学会発表に関連した資料作成や英語プレゼンテーションの準備など、授業ごとに指示される内容について準備や作成の作業を行う。なお、各回における予習・復習等の学習の標準時間はそれぞれ 2 時間以上確保することを求めます。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

国際学会での発表に向けた基礎能力の習得状況（50%）、課題を解決しうる研究計画（博士論文）の設定能力（50%）

【学生の意見等からの気づき】

前年度未開講のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業中に指示する。

【その他の重要事項】

「スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」の単位を取得していることを前提に授業を進行します。なお、進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, graduate students will analyze and analyze the experiments and surveys they have conducted to complete their doctoral dissertations, confirm the position of the results in the research project, and check whether they are developed in a coherent, logical way manner. The Course also aims to improve graduate students' presentation skills at academic conferences and their ability to write papers.

【Learning Objectives】

Complete the overall structure of the doctoral dissertation. In addition, by solving the problems of the research project, the graduate students will aim for publication of the submitted papers and completion of the doctoral dissertation.

【Learning activities outside of classroom】

Graduate students will conduct experiments and investigations on the issues to compose their doctoral dissertations as instructed in each class. In addition, graduate students will prepare materials and English presentations related to writing the dissertation and presenting at academic conferences and other tasks as instructed in each class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on the sum of the acquisition of basic skills for presentation at international conferences (50%) and the ability to develop a research plan (doctoral dissertation) that can solve the problem (50%).

OTR70011

スポーツ健康学高度開発研究 V

吉田 政幸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の作成へ向けてさらにデータの精密な分析・検討を進めるよう指示し、十分なデータの質および量を確保できているかをチェックする。また、分析・検討の結果に対する考察の方法について指導・助言を行い、学会発表におけるプレゼンテーション力および論文の作成能力の向上も目的とする。

【到達目標】

学会発表を行うとともに、博士論文後半部にあたる論文を作成して学会誌へ投稿できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 1」、「DP 2」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツマネジメント研究分野のスポーツマーケティングに関する博士論文の作成へ向けてさらにデータの分析・検討を進め、十分なデータの質および量を確保できているかを確認する。さらに、分析の結果に対する考察の方法について理解を深め、博士論文の学術的貢献と実践的インプリケーションを執筆する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	仮説の検証：競合モデルとの比較（標本 1）	標本 1 を用いて、仮説モデルと競合モデルの適合度を比較し、複数のモデルの中から理論的にも統計的にも優れた関係性を特定し、その結果を記述する。
第 2 回	仮説の検証：競合モデルとの比較（標本 2）	標本 2 を用いて、仮説モデルと競合モデルの適合度を比較し、複数のモデルの中から理論的にも統計的にも優れた関係性を特定し、その結果を記述する。
第 3 回	仮説の検証：要因間の関係性（標本 1）	構造方程式モデリングを用いて、標本 1 の要因間の関係性に関する仮説を検証し、その結果を記述する。
第 4 回	仮説の検証：要因間の関係性（標本 2）	構造方程式モデリングを用いて、標本 2 の要因間の関係性に関する仮説を検証し、その結果を記述する。
第 5 回	仮説の検証：間接効果（標本 1）	ブートストラップ法を用いて、標本 1 の要因間の間接効果を算出し、媒介変数の役割を分析し、その結果を記述する。
第 6 回	仮説の検証：間接効果（標本 2）	ブートストラップ法を用いて、標本 2 の要因間の間接効果を算出し、媒介変数の役割を分析し、その結果を記述する。
第 7 回	仮説の検証：調整変数（標本 1）	標本 1 を用いて多母集団構造方程式モデリングを実施し、調整変数の影響を明らかにし、その結果を記述する。
第 8 回	仮説の検証：調整変数（標本 2）	標本 2 を用いて多母集団構造方程式モデリングを実施し、調整変数の影響を明らかにし、その結果を記述する。
第 9 回	追加分析の検討	分析の結果、操作変数を追加したり、別の調整変数を新たに設定したりする必要がないか議論し、必要に応じて追加分析の方向性を検討する。
第 10 回	追加分析の実施	研究結果を補強するだけでなく、理論的にも意味を成すと判断された分析を追加で実施する。
第 11 回	追加分析の結果	追加分析の結果を博士論文の中で執筆する。
第 12 回	仮説の検証の結果	追加分析も含め、構造方程式モデリングによる仮説検証の結果を博士論文において記述する。
第 13 回	本調査全体の結果	博士論文の結果（6 章）を書き上げる。

第 14 回 目的、方法、結果の論理性 博士論文の 1 章から 6 章までの論理的つながりを確認し、問題があれば修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高度な統計手法を用いた分析、博士論文の第 6 章の後半（仮説検証）の執筆。本授業の準備学習・復習時間は各 3 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配付する。

【参考書】

必要に応じて資料を配付する。

【成績評価の方法と基準】

標本 1 の仮説検証：30 点（要因間の関係性：10 点、間接効果：10 点、調整変数：10 点）
 標本 2 の仮説検証：30 点（要因間の関係性：10 点、間接効果：10 点、調整変数：10 点）
 博士論文の結果（6 章）の後半部の執筆：40 点

【学生の意見等からの気づき】

開講初年度のため、該当しない。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、マイクロソフト・オフィス、統計解析ソフト（IBM SPSS、MPlus）

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

(Course outline)

To meet the standards required for the doctoral dissertation, the students collect additional data and make sure about the quality and quantity of the data. Further, the students develop and improve their writing and presentation skills at the doctoral level.

(Learning objectives)

The goals of this course are to complete the main study of the doctoral dissertation and submit a paper to a scholarly journal.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class, students are expected to read relevant articles, conduct data analyses, and provide explanations in the dissertation.

(Grading criteria)

Grading will be decided based on the results of hypothesis testing (60 points) and the writing of the result section (40%).

OTR70011

スポーツ健康学高度開発研究Ⅵ

泉 重樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の完成へ向けて、研究テーマ、目的、方法、結果、考察、結論の整合性を検討し、論文のまとめ方について指導する。

【到達目標】

博士論文を完成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、

「DP 1」、「DP 2」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文における研究テーマ、目的、方法、結果、考察、結論の整合性を検討する。研究の限界、今後の課題を明確にし、博士論文提出後の研究の継続性・発展性についても視野に置く。博士論文審査委員会による指摘事項に真摯に対応し、完成度の高い博士論文の作成へ向けて指導を重ねていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	結論の導出①結果・考察のまとめ	結果と考察をまとめ、一定の結論を導出するよう指導する。
2	結論の導出②整合性の検討	導出した結論から、研究テーマ、目的、仮説等との整合性について見直すよう指導する。
3	研究の限界、今後の課題の提示	研究論文の限界を明らかにし、今後の課題を提示するよう指導する。
4	博士論文・仮提出	11月上旬の博士論文・仮提出へ向けて、論文を読み手にとって読みやすくまとめるよう指示する。
5	予備審査会の準備①	12月上旬に予定される予備審査会へ向けて、博士論文の全体像を確実に把握するよう指導する。
6	予備審査会の準備②口頭試問	口頭試問に対応できるよう博士論文の中心的課題を整理し、リハーサルを行う。
7	論文の修正①修正点の把握	予備審査会の指摘・コメントを受けて、論文の修正点を把握し、対応するよう指導する。
8	論文の修正②説明・意見交換	対応した博士論文の修正点について履修者が説明し、それに対する意見交換および指導を行う。
9	論文の修正③再検討	1月上旬の博士論文提出へ向けて、各章のつながりやバランスにも配慮するよう指導する。
10	最終発表会の準備	1月上旬に予定される最終発表会へ向けて、論文の要旨について履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換および指導を行う。
11	本審査会の準備①全体像把握	1月中旬に予定される本審査会へ向けて、博士論文の全体像を確実に把握するよう指導する。
12	本審査会の準備②リハーサル	口頭試問に対応できるよう博士論文の中心的課題を整理し、リハーサルを行う。
13	論文の修正①修正点の明確化	審査会の指摘・コメントを受けて、論文の修正点を明確にし、対応するよう指導する。
14	論文の修正②完成	対応した博士論文の修正点について意見交換および指導を行い、完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文の執筆、まとめ、修正、最終発表会の準備等

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

論文執筆力（70%）、論理的説明力（30%）

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため学生からの意見はない。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト等

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

[Course outline] Toward the completion of the doctoral dissertation, students will be guided on how to organize the dissertation by examining the consistency of the research theme, objectives, methods, results, discussion, and conclusions.

[Learning objectives] The student completes a doctoral dissertation.

[Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

[Grading criteria/policy] Grading will be decided based on ability to write doctoral dissertations 70%, and ability to provide logical explanations 30%.

OTR70011

スポーツ健康学高度開発研究Ⅵ

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の完成に向けて、研究テーマ、目的、方法、結果、考察、結論の整合性を検討し、論文のまとめ方を学ぶ。

【到達目標】

博士論文を完成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 1」、「DP 2」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

体力学および体力測定評価学分野における博士論文の完成に向けて、実施した実験・調査等の分析・解析結果をまとめ、適切な解釈および考察を行うための指導や支援を行う。履修者は、研究の限界、今後の課題等を明確化させ、博士論文の完成に向けた最終的な作業を行う。さらに、各作業の実践において、必要に応じて適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	博士論文の執筆に向けた研究計画の作成	これまでに実施した活動を踏まえ、関連する研究内容の関係性を示す関連図を作成し、博士論文で明らかにする課題の解決に向けた一貫性のある論理展開を定める。さらにこれを踏まえて博士論文の目次を作成する。
第 2 回	博士論文の作成①	研究テーマ、目的、仮説等との整合性に留意しつつ、前回作成した目次に従ってこれまでに執筆してきた各種原稿を集約し、一貫性のある論理展開のある博士論文を作成する。作成した原稿を授業において履修間で誦読し、意見を集約する。
第 3 回	博士論文の作成②	前回の授業で集約した意見も踏まえて博士論文の原稿作成を進めて期限までに提出し、その内容について授業内でフィードバック及び指導を受ける。
第 4 回	博士論文・仮提出	11 月上旬の博士論文・仮提出へ向け、論文の可読性が高く、読者の誤解が生じないような文書作成に向けた注意点について指導を受け、博士論文に反映させる。
第 5 回	予備審査会の準備①	12 月上旬に予定される予備審査会へ向けて、博士論文の作成を進めると共に、中心的課題を端的に説明できるよう指導を受ける。
第 6 回	予備審査会の準備②	口頭試問に対応できるよう博士論文の中心的課題を整理し、予備審査に向けたプレゼンテーションのリハーサルを行う。
第 7 回	論文の修正①	予備審査会の指摘・コメントを受けて修正した当該箇所について授業内で報告し、受講者間で意見交換を行い、担当教員から指導を受ける。
第 8 回	論文の修正②	前回の意見交換や指導の内容に準じて博士論文を修正し、当該部分について履修者が説明した上で再度、論文の可読性について意見交換を行う。
第 9 回	論文の修正③	1 月上旬の博士論文提出へ向けて、作成された博士論文を誦読し、論文全体を通じた主張の一貫性、論理的整合性、課題設置の妥当性などを受講者間で論議し、必要に応じて授業担当者からの指導を受ける。

第 10 回 最終発表会の準備

1 月上旬に予定される最終発表会へ向けて、論文の要旨を作成してプレゼンテーションを行い、それに対する受講者間での意見交換を行い、授業担当者からの指導を受ける。

第 11 回 本審査会の準備①

1 月中旬に予定される本審査会へ向けて、博士論文の完成を目指して作成進めると共に、中心的課題を端的に説明できるよう再度確認を行う。

第 12 回 本審査会の準備②

口頭試問に対応できるよう博士論文の中心的課題について最終的な構成を行い、口頭試問に向けたプレゼンテーションのリハーサルを行う。

第 13 回 論文の修正①

審査会の指摘・コメントを受けて、博士論文の原稿における問題点を修正した上で授業において説明し、受講者間で意見交換した上で博士論文の完成に向けた指導を受ける。

第 14 回 論文の修正②

審査会の指摘・コメントに対応した博士論文を完成させて事前に提出し、授業内でフィードバックを受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業時に適宜指示される博士論文を構成するための課題について実験・調査を進める。また、博士論文の提出や口頭試問等に向けた課題については各自で準備等を実施し、対象となる授業前に設定された期日までに事前に提出すること。なお、各回における予習・復習等の学習の標準時間はそれぞれ 2 時間以上確保することを求めます。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

博士論文作成過程における作業内容（70%）、各授業で設定される課題の内容（論文原稿の執筆、口頭試問に向けた準備等）の評価（30%）

【学生の意見等からの気づき】

前年度未開講のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業中に指示する。

【その他の重要事項】

「スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ」の単位を取得していることを前提に授業を進行します。なお、進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, graduate students who have taken the Course will receive guidance and assistance in summarizing the results of analyses and investigations of experiments and surveys conducted and making appropriate interpretations and considerations toward completing their doctoral dissertations. In addition, graduate students will clarify the limitations of their research and future tasks and work toward completing their doctoral dissertation.

【Learning Objectives】

Complete a doctoral dissertation.

【Learning activities outside of the classroom】

Graduate students will conduct experiments and investigations on the assignments for the doctoral dissertation, which will be given to them in each class. In addition, students are expected to prepare for the submission of their doctoral dissertations and oral examinations by themselves and submit them by the deadline set prior to the class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on the sum of the evaluation of the work done during the dissertation writing process (70%) and the content of the assignments set for each class, such as writing the dissertation manuscript and preparing for the oral examination(30%).

OTR70011

スポーツ健康学高度開発研究Ⅵ

吉田 政幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の完成へ向けて、研究テーマ、目的、方法、結果、考察、結論の整合性を検討し、論文のまとめ方について理解を深め、博士論文を書き上げる。

【到達目標】

博士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 1」、「DP 2」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツマネジメント研究分野のスポーツマーケティングに関する博士論文の完成へ向けて、分析の結果に対する考察の方法について理解を深め、考察を行う。博士論文の学術的貢献と実践的インプリケーションを執筆するとともに、研究の限界と今後の展望を特定し、博士論文を完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	考察の方向性	結果を考察する方法を学ぶとともに、博士論文の目的との対応の中で考察の構想を練り、論理性に問題がないか議論する。
第 2 回	結果の概念的考察	受講者の博士論文において最も重要な鍵となる概念の概念的考察を行い、その内容を執筆する。
第 3 回	結果の理論的考察：要因間の関係性	仮説検証の中でも要因間の関係性に関する結果の考察を行い、その内容を執筆する。
第 4 回	結果の理論的考察：間接効果	仮説検証の中でも間接効果に関する結果の考察を行い、その内容を執筆する。
第 5 回	結果の理論的考察：調整変数	仮説検証の中でも調整変数に関する結果の考察を行い、その内容を執筆する。
第 6 回	結果の全体的考察：標本 1 と標本 2	標本 1 と標本 2 の共通点と相違点について考察し、その内容を執筆する。
第 7 回	予想外の結果の考察	仮説が支持されなかった結果や想定外の結果が生じた理由や背景を考察し、その内容を執筆する。
第 8 回	博士論文の実践的インプリケーション	研究結果を基に博士論文の実践的インプリケーションについて深く考察し、その内容を執筆する。
第 9 回	研究の限界と今後の展望	博士論文の限界と今後の展望を考察し、それらを執筆する。
第 10 回	結論	目的、方法、結果、考察のつながりの中で博士論文の結論を出し、その内容を執筆する。
第 11 回	論文の修正①	審査委員の指摘・コメントを受けて、論文の修正点を把握し、対応について議論する。
第 12 回	論文の修正②	審査委員の指摘に従って適切な修正を行い、博士論文に反映させる。
第 13 回	引用参考文献、目次	引用参考文献をまとめ、本文中の引用と照合し、間違いがないか確認する。併せて目次の設定を行い、論文の体裁を整える。
第 14 回	図表、巻末資料	図表を整えるとともに、巻末資料を掲載し、博士論文を完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文の第 7 章の考察と第 8 章の結論を書き上げる。本授業の準備学習・復習時間は各 3 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配付する。

【参考書】

必要に応じて資料を配付する。

【成績評価の方法と基準】

博士論文の考察の執筆：50 点（概念的考察：10 点、理論的考察：20 点、実践的インプリケーションの執筆：10 点、限界と今後の展望：10 点）
博士論文の結論の執筆：20 点
博士論文全体の完成度：30 点

【学生の意見等からの気づき】

開講初年度のため、記載不要

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、マイクロソフト・オフィス

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合がある。

【Outline (in English)】

(Course outline)

To submit the doctoral dissertation, the students carefully check the logical flow between the introduction, method, result, discussion, and conclusion sections and complete writing the doctoral dissertation.

(Learning objectives)

The goal of this course is to complete writing the doctoral dissertation.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class, students are expected to read relevant articles and provide conceptual and theoretical explanations in the dissertation.

(Grading criteria)

Grading will be decided based on the writing of the discussion (50%) and conclusion (20%) sections and the overall quality of the dissertation (30%).

HSS5001I

スポーツ健康学高度開発演習 (実践研究/理論研究)

越智 英輔

開講時期: 秋学期授業/Fall | 単位数: 2 単位
 曜日・時限: 集中・その他/intensive・other courses | キャンパス: 多摩
 配当年次: 1~2 年次
 備考 (履修条件等):
 その他属性:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

当科目は、実践に精通した博士号取得者の養成をねらいとし、演習課題として「実践研究」を中心に進める。一方で、履修者がすでに高度な実践者の域に達している場合や博士論文との関連で理論的側面を充実させる必要がある場合には「理論研究」を認め、これら 2 種のいずれかにより進める。いずれにしても主・副指導教員の指導のもとで一定期間、自由に選択した課題に従事し、成果に対して複数教員の集団指導と評価を受ける。履修者個人のキャリア形成に役立ち、博士論文作成の基礎あるいは一部となる演習課題をこなすことを目的としている。

【到達目標】

キャリア形成に役立ち、博士論文の基礎あるいは一部となる演習課題をこなす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP 4」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

担当教員(越智)が行う「実践研究」では、履修者が一定期間、自由に選択した課題に従事し、その成果に対するヘルス専門領域の複数教員による指導と評価を受ける。担当教員(越智)の専門である運動生理学分野における一例を示せば、健康づくりを目的に大学や病院などに設置された運動施設において一定期間滞在し、そこで得られた知識・技能、経験を分析して自己の研究実践能力を向上させる。また、履修者がすでに高度な実践者の域に達している場合や博士論文との関連で理論的側面を充実させる必要がある場合の「理論研究」の一例を示せば、広く運動生理学的に重要な測定法を練習課題として習得する。これまでの先行研究等の資料を収集・分析し、必要であれば国内外の研究施設に一定期間滞在する。いずれにしても、担当教員を中心としたネットワークによって、研究の計画、データ収集および分析の方法、考察の妥当性、成果発表等について支援・指導する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究課題の設定	個人の関心にもとづいて研究課題を選択すること、「実践研究」「理論研究」のいずれを選択するのか等、当授業の概要と目的について履修者に確認を行う。
第 2 回	研究課題の意義・目的	意義・目的について履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 3 回	研究方法の検討	どのような研究方法で成果を出すのかについて検討する。
第 4 回	研究対象の検討	実践研究: 研究対象として関わるのが可能であるか、適切であるか等について検討する。 理論研究: 文献・資料等の質および量について検討する。
第 5 回	研究環境の検討	実践研究: 研究の受け入れ先の環境・条件、課題に従事する期間や程度は適切であるか等について検討する。 理論研究: 文献・資料の入手経路や文献整理法などを確認する。
第 6 回	研究構想・計画の確認	研究構想・計画の全体像を指導教員に対して履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 7 回	中間発表	専門領域の担当教員を中心とした公聴会のもとで、研究構想・計画について履修者がプレゼンテーションを行い、研究課題が遂行可能であるか等について意見交換を行う。

第 8 回	課題従事のプロセス①	実践研究: 実践に着手し、日々の状況、うまくいった点、改善点等について記録していくポートフォリオ的な自己評価に着手する。 理論研究: 文献をくまなく調査し、広く運動生理学的に重要な測定法を練習課題実験法の調査に着手する。
第 9 回	課題従事のプロセス②	実践研究: 実践においてポートフォリオ的な自己評価を重ねていく。 理論研究: 文献をくまなく調査し、総合的に評価した上で必要な手法を選定する。
第 10 回	課題従事のプロセス③	実践研究: ポートフォリオ的な自己評価を複数の観点・カテゴリーへ整理する。 理論研究: 選定した手法を習得する上で最適な施設を検討、調整する。
第 11 回	課題従事のプロセス④	実践研究: 複数の観点・カテゴリーへ整理されたポートフォリオ的な自己評価の特徴について考察を与える。 理論研究: 実際に手法を習得し、データを得る。
第 12 回	課題従事の成果①	実践研究: 自己評価を通して得られた成果を客観的指標によって測る、あるいは定位させる。 理論研究: 得られたデータを解析する。
第 13 回	課題従事の成果②	実践研究: 成果を視認できるよう一定の形式にまとめる。理論研究: データを考察し、その意義や先行研究との比較などを進める
第 14 回	成果発表	博士課程担当教員全員参加の公聴会のもとで、研究成果について履修者によるプレゼンテーション、参加者との質疑応答を行い、専門領域の担当教員が評価を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

開講時期は 1 年次の秋学期もしくは 2 年次の秋学期であるが、演習課題によっては長期を要するため、指導教員と相談しながら履修時期より以前に課題に着手しておくことが必要となる。

【テキスト (教科書)】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

多様な実践的課題を解決しマネージメントできる能力 (70%)、研究成果の社会的発信・還元能力 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト等

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces how to proceed practical research at PhD course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding to plan the research strategy including making their career.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on management of practical research plan (70%) and ability to disseminate research results (30%)

HSS500I1

スポーツ健康学高度開発演習（実践研究／理論研究）

鬼頭 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目は、実践に精通した博士号取得者の養成をねらいとし、演習課題として「実践研究」を中心に進める。一方で、履修者がすでに高度な実践者の域に達している場合や博士論文との関連で理論的側面を充実させる必要がある場合には「理論研究」を認め、これら 2 種のいずれかにより進める。いずれにしても主・副指導教員の指導のもとで一定期間、自由に選択した課題に従事し、成果に対して複数教員の集団指導と評価を受ける。履修者個人のキャリア形成に役立ち、博士論文作成の基礎あるいは一部となる演習課題をこなすことを目的としている。

【到達目標】

キャリア形成に役立ち、博士論文の基礎あるいは一部となる演習課題をこなす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 4」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

担当教員（鬼頭）が行う「実践研究」では、教員免許又は養護教諭の免許、保健師等の医療に関連する資格を有する履修者が、学校における「保健」の授業を長期間（半年以上）担当し、そこで得られた知識・技能や経験を分析して自己の授業力改善に役立つ研究を行う。履修者がすでに高度な実践者の域に達している場合や博士論文との関連で理論的側面を充実させる必要がある場合の「理論研究」の一例を示せば、健康を妨げる要因として、喫煙、飲酒、薬物乱用や性行動を取り上げ、関連する国内外の学術論文を収集、分析して国際比較するとともに、日本での課題を焦点化し、質的又は量的調査を実施することにより、課題克服のための方策を探る。担当教員は、いずれの場合においても、研究の計画、データ収集及び分析の方法、考察の妥当性、成果発表の方法等について指導・支援する。また、担当教員を中心としたコースワークにより、研究の計画、データ収集および分析の方法、考察の妥当性、成果発表等について指導・支援する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究課題の設定	健康教育・公衆衛生学分野に関連したテーマを題材とする。個人の関心にもとづいて研究課題を選択すること、「実践研究」「理論研究」のいずれを選択するか等、当授業の概要と目的について履修者に確認を行う。
第 2 回	研究課題の意義・目的	研究課題の意義・目的について履修者がプレゼンテーションを行い、実践又は理論研究の可能性について、意見交換と指導を行う。
第 3 回	研究方法の検討	第 2 回の意見交換をもとに、どのような研究方法で成果を出すのかについて具体的な検討を行う。
第 4 回	研究対象の検討	実践研究：研究対象として教育実践に関わることが可能であるか、適切であるか等について検討する。 理論研究：健康教育・公衆衛生学分野で取り上げるべき課題について文献・資料等の質および量を検討する。
第 5 回	研究環境の検討	実践研究：研究の受け入れ先の環境・条件、課題に従事する期間や程度は適切であるか等について検討する。 理論研究：理論研究を行うとする研究課題に関して国内外の文献・行政や関連機関等による資料の入手方法やコピー・スキャナー等機器の研究環境について確認を行う。
第 6 回	研究構想・計画の確認	研究構想・計画の全体像を指導教員に対して履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。

第 7 回 中間発表

専門領域の担当教員を中心とした公聴会のもとで、研究構想・計画について履修者がプレゼンテーションを行い、研究課題が遂行可能であるか等について意見交換を行う。

第 8 回 課題従事のプロセス①

実践研究：実践に着手し、実施状況、実施の結果として良好であると評価できた点、改善を要すべき点等について記録に残し、自己評価とともに特に改善すべき点について意見交換の上で、改善策を図る。

第 9 回 課題従事のプロセス②

実践研究：実践においてポートフォリオ的な自己評価を重ねるとともに、意見交換の上で改善を積み重ねる。
理論研究：文献をくまなく調査し、そのデータを総括的に評価する「システムティック・レビュー」へ向けての調査に着手する。

第 10 回 課題従事のプロセス③

実践研究：ポートフォリオ的な自己評価を複数の観点・カテゴリーへ整理する。

第 11 回 課題従事のプロセス④

理論研究：収集した文献・資料を観点別・カテゴリー別に分類・整理する。
実践研究：複数の観点・カテゴリーへ整理されたポートフォリオ的な自己評価の特徴について考察を与える。
理論研究：観点別・カテゴリー別に分類・整理された文献・資料の特徴について考察を与える。

第 12 回 課題従事の成果①

実践研究：自己評価を通して得られた成果を客観的指標（資質・能力に関する評価尺度やスタンダード化された実績等）によって評価する。
理論研究：自己の研究課題に応じて整理され、考察された文献・資料の特徴を分析する。

第 13 回 課題従事の成果②

実践研究：実施による成果について整理し、プログラム化するとともに報告書にまとめる。
理論研究：研究課題に関してシステムティックレビューとして整理し、得られた考察をまとめるとともに、文献・資料を整理する。今後の課題等について明示できるようにする。

第 14 回 成果発表

博士課程担当教員全員参加の公聴会のもとで、研究成果について履修者によるプレゼンテーション、参加者との質疑応答を行い、専門領域の担当教員が評価を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

開講時期は 1 年次の秋学期もしくは 2 年次の秋学期であるが、演習課題によっては長期を要するため、指導教員と相談しながら履修時期より以前に課題に着手しておくことが必要となる。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

多様な実践的課題を解決しマネジメントできる能力（70%）、研究成果の社会的発信・還元能力（30%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト等

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces how to proceed practical research at PhD course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding to plan the research strategy including making their career.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on management of practical research plan (70%) and ability to disseminate research results (30%)

HSS500I1

スポーツ健康学高度開発演習（実践研究／理論研究）

平野 裕一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目は、実践に精通した博士号取得者の養成をねらいとし、演習課題として「実践研究」を中心に進める。一方で、履修者がすでに高度な実践者の域に達している場合や博士論文との関連で理論的側面を充実させる必要がある場合には「理論研究」を認め、これら 2 種のいずれかにより進める。いずれにしても主・副指導教員の指導のもとで一定期間、自由に選択した課題に従事し、成果に対して複数教員の集団指導と評価を受ける。履修者個人のキャリア形成に役立ち、博士論文作成の基礎あるいは一部となる演習課題をこなすことを目的としている。

【到達目標】

キャリア形成に役立ち、博士論文の基礎あるいは一部となる演習課題をこなす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 4」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

「実践研究」では、履修者がスポーツ科学の研究機関に一定期間身を置き、研究機関での研究に参画する一方で、その研究に関わるスポーツ種目の競技力向上支援に帯同する。そこで、研究成果を支援に結びつける方法を学び、競技力向上に活かすための研究内容の選定に役立てる。さらに、研究機関から大学へ戻った際に、得られた成果をコーチング領域の教員に対してプレゼンテーションする。

「理論研究」では、研究機関から大学へ戻った後、改めて実践研究となる研究計画を立て、それに関する文献を収集して構想をまとめ、コーチング領域の教員に対してプレゼンテーションする。博士論文の中に実践研究が組み込まれるようであれば組み込む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツ研究機関の研究理解①	スポーツの競技力向上に資する研究を理解する。
第 2 回	スポーツ研究機関の支援理解②	スポーツの競技力向上に資する支援を理解する。
第 3 回	実践研究の理解①	実践研究の考え方、また、実践研究となるための作法を理解する。
第 4 回	実践研究の理解②	実践研究となるための論文の書き方を理解する。
第 5 回	研究機関での活動①	研究機関に応募し、研究活動に参加する。活動に参加するために、当該研究の詳細を理解する
第 6 回	研究機関での活動②	研究活動に参加しつつ、競技力向上への支援の全容を把握する。
第 7 回	中間発表	専門領域の担当教員を中心とした公聴会のもとで、研究の進捗状況について履修者がプレゼンテーションを行い、研究課題が遂行可能であるか等について意見交換を行う。
第 8 回	研究機関での活動③	研究活動に参加しつつ、選手、コーチ、トレーニングサイトの現場を理解する。
第 9 回	研究機関での活動④	研究活動に参加しつつ、当該研究が関わる支援の現場の詳細を理解する。
第 10 回	研究機関での活動⑤	研究活動に参加しつつ、試合や合宿などの支援の現場に帯同する。
第 11 回	研究機関での活動⑥	研究活動に参加しつつ、支援の効果を観察・学習する。
第 12 回	研究機関での活動⑦	支援のための研究のあり方を総括する。
第 13 回	活動成果の総括	活動の成果を総括して自らの研究に活かす構想をまとめる。
第 14 回	活動成果のプレゼンテーション	活動成果を大学でプレゼンテーションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

開講時期は 1 年次の秋学期もしくは 2 年次の秋学期であるが、演習課題によっては長期を要するため、指導教員と相談しながら履修時期より以前に課題に着手しておくことが必要となる。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

多様な実践的課題を解決しマネジメントできる能力（70%）、研究成果の社会的発信・還元能力（30%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト等

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces how to proceed practical research at PhD course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding to plan the research strategy including making their career.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on management of practical research plan (70%) and ability to disseminate research results (30%)

HSS5001I

スポーツ健康学高度開発演習（実践研究／理論研究）

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目は、実践に精通した博士号取得者の養成をねらいとし、演習課題として「実践研究」を中心に進める。一方で、履修者がすでに高度な実践者の域に達している場合や博士論文との関連で理論的側面を充実させる必要がある場合には「理論研究」を認め、これら 2 種のいずれかにより進める。いずれにしても主・副指導教員の指導のもとで一定期間、自由に選択した課題に従事し、成果に対して複数教員の集団指導と評価を受ける。履修者個人のキャリア形成に役立ち、博士論文作成の基礎あるいは一部となる演習課題をこなすことを目的としている。

【到達目標】

キャリア形成に役立ち、博士論文の基礎あるいは一部となる演習課題に取り組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 4」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ心理学分野における実践研究もしくは理論研究に取り組む。「実践研究」の一例は次の通りである。スポーツ現場での指導経験を有する履修者が、日本スポーツ心理学会による「スポーツメンタルトレーニング指導士」資格取得条件にある「30 時間以上の指導実績」等の基準に倣い、アスリートやスポーツチームの心理支援に取り組み、その過程で浮上した自己の課題とそれを解決・改善するための方法論を提示する。指導教員は、心理支援の方法およびその効果の検討の仕方等について指導・支援する。また「理論研究」の一例は次の通りである。アスリートやスポーツチームの心理支援の方法と効果に関する国内外の文献を精査し、個人種目と団体種目、国内と国外における心理支援の方法およびその効果の違い等に関する研究報告を作成する。指導教員は、データの収集、分析方法、考察の妥当性、成果発表の方法等について指導・支援する。なお、授業内で行ったプレゼンテーション等の課題に対する講評や解説は当該授業の後半に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究課題の設定	研究課題について「実践研究」「理論研究」のいずれを選択するのかについて意見交換する。
第 2 回	研究課題の意義・目的	履修者が研究課題の意義・目的についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 3 回	研究方法の検討	研究の方法やスケジュール等について確認する。
第 4 回	研究対象の検討	実践研究：研究対象となるアスリートもしくはスポーツチームについて検討する。 理論研究：研究対象となる種目・年代等に関連する先行研究を概観する。
第 5 回	研究環境の検討	実践研究：研究対象の環境・条件、課題に従事する期間・頻度の妥当性等について検討する。 理論研究：研究課題に関連する先行研究・資料等の入手経路の確認、入手に要する費用等について検討する。
第 6 回	研究構想・計画の確認	履修者が研究構想・計画の全体像についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第 7 回	中間発表	専門領域の担当教員を中心とした公聴会のもとで、研究構想・計画について履修者がプレゼンテーションし、研究課題が遂行可能であるか等について意見交換を行う。

第 8 回 課題従事のプロセス①

実践研究：心理支援の理論・手法等の利点・改善点等について記録した内容を発表する。

理論研究：研究対象に関連する国内の文献等を精査し、そのデータを総括的に評価する「システムティック・レビュー」へ向けての調査に着手する。

第 9 回 課題従事のプロセス②

実践研究：心理支援の進捗状況について数量的・質的に記録した内容を発表する。

理論研究：研究対象に関連する国外の文献等を精査し、そのデータを総括的に評価する「システムティック・レビュー」へ向けての調査に着手する。

第 10 回 課題従事のプロセス③

実践研究：心理支援による対象者の変化について数量的に分析した内容を発表する。

理論研究：収集した国内外の文献等を観点別・カテゴリー別に分類・整理する。

第 11 回 課題従事のプロセス④

実践研究：心理支援による対象者の変化について質的に分析した内容を発表する。

理論研究：観点別・カテゴリー別に分類・整理された文献等の特徴について考察する。

第 12 回 課題従事の結果①

実践研究：心理支援を通して得られた成果の利点・改善点について検討する。

理論研究：自己の研究課題に応じて整理され、考察された文献等の特徴を分析する。

第 13 回 課題従事の結果②

実践研究：心理支援の成果とプロセスを数量的・質的観点からまとめる。

理論研究：自己の研究課題に応じて整理され、考察された文献等を総括し、一定の傾向や未明の課題等を特定する。

第 14 回 成果発表

博士課程担当教員全員参加の公聴会のもとで、研究成果について履修者によるプレゼンテーション、参加者との質疑応答を行い、専門領域の担当教員が評価を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

開講時期は 1 年次の秋学期もしくは 2 年次の秋学期であるが、演習課題によっては長期を要するため、指導教員と相談しながら履修時期より以前に課題に着手しておくことが必要となる。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間です。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

1. 日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本三訂版」大修館書店 2016
2. 中澤 史 「アスリートの心理学」 日本文化出版 2016

【成績評価の方法と基準】

多様な実践的課題を解決しマネジメントできる能力（70%）、研究成果の社会的発信・還元能力（30%）

【学生の意見等からの気づき】

新設科目につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】

PC および資料の作成や共有、課題の提出が可能なソフトウェアを準備してください。また、必要に応じて授業中に適宜指示します。

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to train doctoral degree holders who are well versed in practice, and focuses on "practical research" as an exercise assignment. On the other hand, if the student has already reached the level of an advanced practitioner or needs to enhance the theoretical aspect in relation to the doctoral dissertation, "Theoretical Research" will be permitted, and the course will be conducted in either of these two ways. In either case, students work on a freely selected topic for a certain period of time under the guidance of their primary and secondary supervisors, and receive group guidance and evaluation of the results from multiple faculty members. The purpose of this program is to help students develop their individual careers and complete exercises that will serve as the basis or part of their doctoral thesis work.

【Learning Objectives】

Work on exercises that are useful for career development and form the basis or part of a PhD thesis.

【Learning activities outside of classroom】

The course begins in the fall semester of the first year or the fall semester of the second year, but some exercises require a longer period of time, so students should consult with their advisors and start working on their assignments before the start of the course. The preparatory study and review time for this class is 2 hours each, and the specific content of the efforts is as follows.

[Grading Criteria /Policy]

Comprehensive evaluation is performed according to the following criteria. Ability to solve and manage diverse practical issues (70%), ability to disseminate and return research results to society (30%)

